

愛知県埋蔵文化財センター調査報告書 第78集

よし だ じょう  
吉 田 城 遺 跡 III

1998

財団法人 愛知県埋蔵文化財センター

## 序

吉田城が所在する豊橋市は、近世には東海道吉田宿を城下町の一部として取り込み、豊川の舟運と三河湾舟運の結節点という交通の要衝にありました。そして今日では三河東部の経済的・文化的拠点としての重要な役割を担う地域となっています。

このたび豊橋土木事務所の新庁舎建築に伴い、愛知県教育委員会より委託を受けた(財)愛知県埋蔵文化財センターは平成8年4月～7月の期間で事前調査を行いました。今回の調査範囲は、近世吉田城城下の東辺に配置された武家屋敷地にあたり、建物跡の一端と吉田城外堀の一部などが明らかとなりました。遺跡からは肥前や瀬戸・美濃から運ばれた近世陶磁器類が出土し、これらは人々の日常の暮らしの風景を伝えるものでした。また、随所にみられた塹壕や防空壕の施設の痕跡なども、昭和10年代に近接して建てられていた旧陸軍兵舎に関連する近現代の歴史資料となりましょう。

このような調査成果を報告書として刊行することができました。本書が歴史研究の資料として広く活用されると共に、埋蔵文化財の保護・活用に役立つことができれば幸いです。

調査の実施に際しまして御協力、御理解を賜りました関係諸氏、諸機関、発掘調査に参加された多くの方々には、ここに厚く御礼申し上げます。

平成10年8月

(財)愛知県埋蔵文化財センター  
理事長 塩見 修哉

## 例 言

- 1.本書は愛知県豊橋市に所在する吉田城遺跡の今橋町六丁目地内における発掘調査報告書である。
- 2.調査は、豊橋土木事務所の新庁舎建築に伴う事前調査として、愛知県教育委員会より委託を受けた財団法人愛知県埋蔵文化財センターが平成8年4月から7月にかけて実施した。  
調査面積は約800㎡である。
- 3.調査担当者は以下のとおりである。  
増澤 徹（本センター主査、現岡崎市立本宿小学校教諭）  
原田 幹（同調査研究員、現愛知県教育委員会文化財課主事）
- 4.調査に当たっては、愛知県教育委員会文化財課・愛知県埋蔵文化財調査センター・豊橋市教育委員会・豊橋土木事務所の各関係諸機関から御指導・御協力を得た。
- 5.遺物の整理、製図等については、次の方々の協力を得た。  
永井智子（調査研究補助員）、平野みどり・加藤豊子（整理補助員）
- 6.本書をまとめるにあたり、次の各氏の御指導・御協力を得た。  
小嶋廣也（県立安城南高等学校教諭）  
城ヶ谷和広（愛知県史編纂室）  
都築暢也（県立岡崎高等学校教諭）  
賛 元洋（豊橋市教育委員会）  
森 勇一（県立明和高等学校教諭）  
松田 訓・堀木真美子（財団法人愛知県埋蔵文化財センター）
- 7.本書の執筆は、第1章、第2章、第3章第2節、第4章を原田 幹、第3章第1節、第3節を武部真木、補論を森 勇一が担当し、編集は武部真木が行った。
- 8.調査区の座標は、平面直角座標Ⅶ系に準拠した。
- 9.調査記録は本センターで保管している。
- 10.出土資料は愛知県埋蔵文化財調査センターで保管している。

# 目次

第1章	調査の概要 (原田 幹)	
第1節	遺跡をめぐる環境	1
	地理的環境	
	吉田城の沿革	
第2節	調査の経緯と経過	3
	調査の経過	
第2章	遺構 (原田 幹)	
第1節	基本層序	7
第2節	遺構	7
	古代の遺構	
	江戸時代の遺構	
	近現代の遺構	
第3章	遺物	
第1節	古代の遺物 (武部真木)	17
第2節	近世の遺物 (原田 幹)	19
第3節	石・金属製品 (武部真木)	28
第4章	まとめ (原田 幹)	32
補論	吉田城遺跡の中世井戸から産出した 昆虫化石群集とその意義 (森 勇一)	36
	—92年調査 SE001資料より—	

付表	遺構一覧／遺物登録一覧
図版	基本遺構図／写真図版



## 表・図版目次

- 第1図 吉田城遺跡周辺遺跡分布図 (1 / 100,000)  
第2図 吉田城遺跡発掘調査地点 (1 / 4,000)  
第3図 調査区位置図 (1 / 600)  
第4図 伐根時に出土した遺物  
第5図 主要遺構配置図 (1 / 200)  
第6図 SB01 (1 / 60)  
第7図 SD01・04・05  
第8図 SB02 (1 / 60)  
第9図 SK178・SX02・03  
第10図 SD08・09  
第11図 古代の遺物  
第12図 近世の遺物 (1) SD01・04  
第13図 近世の遺物 (2) SD04・05  
第14図 近世の遺物 (3) SK178  
第15図 近世の遺物 (4) SK178  
第16図 近世の遺物 (5) SK178  
第17図 近世の遺物 (6) SX01・02・03  
第18図 近世の遺物 (7) その他の遺構・遺構外出土遺物  
第19図 近世の遺物 (8) 瓦  
第20図 石製品  
第21図 金属製品  
第22図 吉田藩土屋敷図  
第23図 吉田城周辺地籍図 (1 / 5,000)  
第24図 SE001 平面図・断面図 (1 / 50)
- 第1表 吉田城遺跡発掘調査一覧  
第2表 吉田城遺跡における昆虫化石分析結果

### 付表・図版

- 遺構登録一覧  
遺物登録一覧  
SK178 カウント分析表  
基本遺構図 (1) ~ (4)  
写真図版1 調査区全景  
写真図版2 SB01 SD01・04・05  
                  および遺物出土状況  
写真図版3 SB02  
写真図版4 SK178・32 SX01・04 SD08  
写真図版5~10 遺物写真  
写真図版11 吉田城遺跡から産出した  
                  昆虫化石の顕微鏡写真

# 第1章 調査の概要

## 第1節 遺跡をめぐる環境

### 地理的環境

吉田城遺跡の所在する豊橋市は愛知県の東部にあり、市東部の丘陵において静岡県との県境と接している。市西部には一級河川である豊川が南西に流れ、渥美湾へと注ぐ。吉田城遺跡は、豊川河口付近の左岸、支流である朝倉川が豊川と合流する南側に位置している。遺跡の立地するのは、豊川と旧天竜川により形成された河岸段丘のうち、豊橋面と呼ばれる標高3～10mの低位段丘面である。吉田城の位置するあたりは、豊川が大きく蛇行し段丘にぶつかる地点であり、比高8m程の段丘崖となっており、豊川、朝倉川を挟んで北側に広がる沖積平野と接する位置にある。今回の発掘地点は、吉田城本丸跡の東約500m程のところで、現在の標高で約9.5mである。

### 吉田城の沿革

吉田城遺跡の立地する周辺には縄文時代から近世に至る多くの遺跡の存在が知られている（第1図）。過去の吉田城遺跡の発掘調査でも、吉田城築城以前の縄文時代晩期、弥生・古墳時代、奈良時代から室町時代にかけての遺構、遺物が出土しており、長期間にわたる複合遺跡であることがわかる。

平安時代には、吉田城遺跡の所在する付近に、伊勢神宮領の飽海神戸・吉田御園が存在したと推定されている。これまでの発掘調査でもこの時期の遺物が広い範囲から出土しているが、建物跡等の遺構については不明な部分が多い。

吉田城としての歴史は、戦国期の永正2年（1505）に今川氏の命を受けた豊川市の土豪牧野古白が今橋城を築城したことに始まるとされている。その後、戦国の動乱のなか今川氏、松平氏、武田氏などの有力大名による争奪戦がくりひろげられ、その都度城主も替わっている。この状況は、松平（徳川）家康が三河を統一し、家臣の酒井忠次が入城するまで続いた。

天正18年（1590）に徳川家康が関東に移封されると、豊臣秀吉の家臣池田輝正が城主となる。池田輝正は城域の拡張と整備、城下町の整備を進めたが、慶長5年（1600）の関ヶ原の合戦後、整備は未完成のまま姫路へ転封した。江戸時代を通じて城下町の基本的な構造はこの時期に確立したようである。

江戸時代になると、吉田城と城下町は東海道の要所としての機能が重視される。松平をはじめとする9家22代の譜代大名が城主となったが、いずれも3～8万石の小禄であり、



- |            |                 |             |             |
|------------|-----------------|-------------|-------------|
| 1. 吉田城遺跡   | 12. 橋良遺跡        | 23. 東田古墳    | 34. 淡洲神社北遺跡 |
| 2. 吉田城跡    | 13. 見丁塚遺跡       | 24. 市道遺跡    | 35. 牟呂城跡    |
| 3. 鮑海遺跡    | 14. 伊奈銅鐸出土地     | 25. 大海津遺跡   | 36. 牧野城跡    |
| 4. 牛川人骨発見地 | 15. 水神古窯        | 26. 大西遺跡    | 37. 一色城跡    |
| 5. 小浜貝塚    | 16. 市杵嶋神社貝塚・同古墳 | 27. 三河国府推定地 | 38. 月ヶ谷城跡   |
| 6. 大蚊里貝塚   | 17. 車神社古墳       | 28. 国分寺跡    | 39. 二連木城跡   |
| 7. 五貫森貝塚   | 18. 馬越長火塚古墳     | 29. 国分尼寺跡   | 40. 田原城跡    |
| 8. 吉胡貝塚    | 19. 万福寺古墳       | 30. 石堂野遺跡   | 41. 二川宿本陣   |
| 9. 瓜郷遺跡    | 20. 権現山古墳       | 31. 公文遺跡    |             |
| 10. 篠塚遺跡   | 21. 宮西古墳        | 32. 麻生田大橋遺跡 |             |
| 11. 欠山遺跡   | 22. 神山古墳        | 33. 森岡遺跡    |             |

第1図 吉田城遺跡周辺遺跡分布図 (1/100,000)

輝正の整備した城域、城下町の構造を大きく変えることはなかったようである。やがて明治維新を迎えると建物は破却され、堀も大部分が埋め立てられた。明治18年（1885）には、吉田城跡に歩兵第18聯隊が設置され、太平洋戦争終結まで軍の施設が置かれることとなった。

## 第2節 調査の経緯と経過

### 調査の経過

今回の発掘調査は、豊橋土木事務所の新庁舎建築に伴うもので、愛知県教育委員会より委託を受けた財団法人愛知県埋蔵文化財センターが調査を実施した。調査面積は約800㎡を測り、発掘調査の期間は平成8年4月から7月にかけての約4ヶ月である。

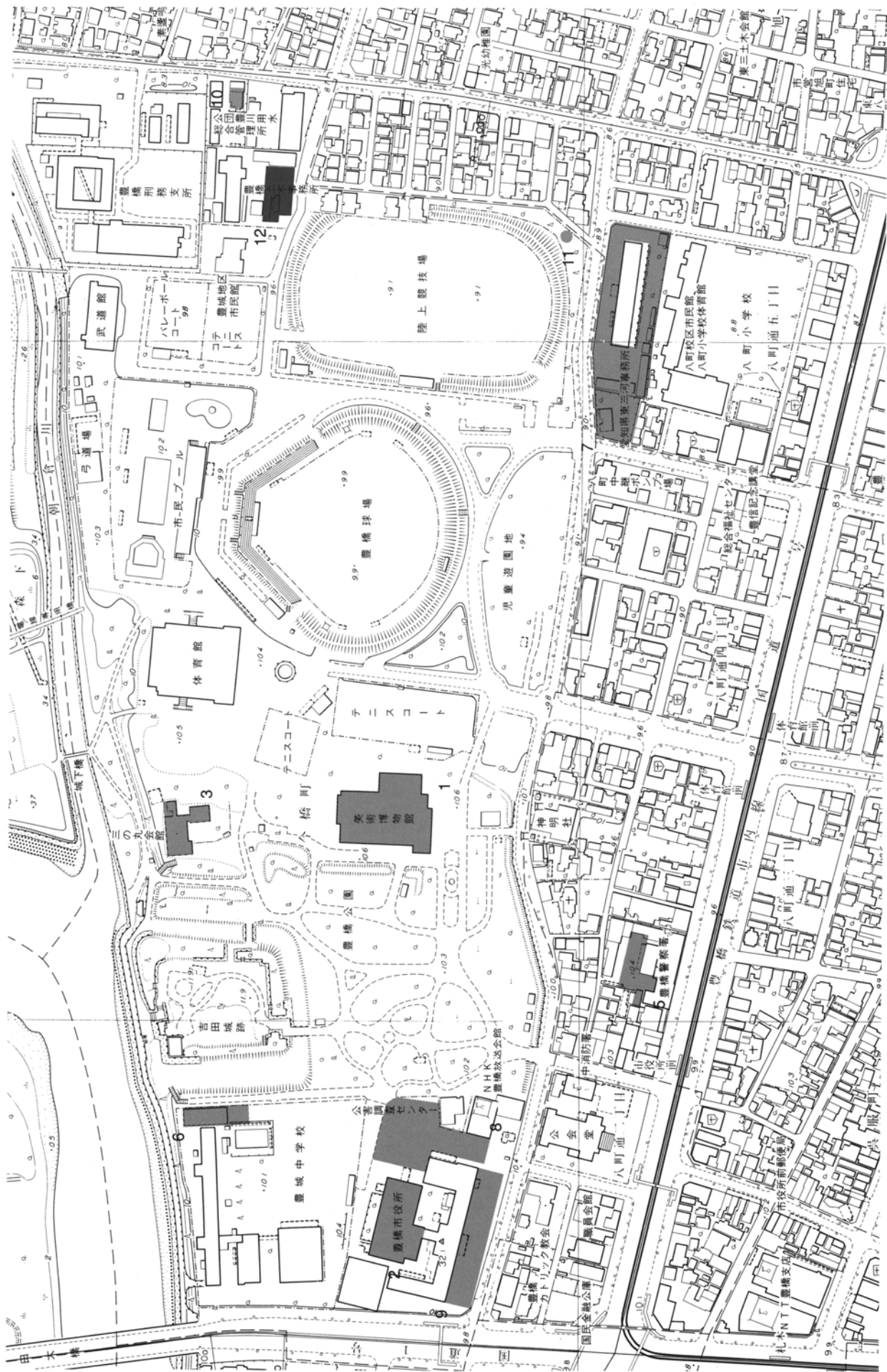
調査区は豊橋土木事務所敷地内に位置し、調査前は砂利を敷き詰めた駐車場となっていた。調査予定地のほぼ中央と東端部には現在使われている水道、ガス等の埋設管が南北に走っており、この部分については調査不能とし掘削しなかった。この結果、調査区は東西に二分されたが、調査の進行上同一調査区として扱うことにした。

また、発掘作業に先だって、調査区及びその周辺の樹木の伐根を重機を用いて行っている。調査区外南の樹木を抜き取った際に、近世の陶磁器、瓦等の遺物が樹木の根に絡まって出土した。根の及ぶ範囲が深かったこともあり遺構は確認できなかったが、遺物を含む土は地山とは明確に区別できるものであり、廃棄土坑等遺構の存在が考えられる。

発掘調査は、重機によって表土を除去し、包含層及び遺構を人力で掘削した。調査区の西側は、駐車場として利用される以前に官舎が建っていたこともあり、建物の基礎、廃絶された埋設管が複雑に走り、遺構の残存状況にも大きく影響していた。調査区東側部分は

第1表 吉田城遺跡発掘調査一覧

調査年度	調査理由	調査地	調査主体	第2図
昭和52・53年度	美術博物館建設	三の丸	豊橋市教育委員会	1
昭和52年度	市役所新庁舎建設	三の丸	豊橋市教育委員会	2
昭和59年度	三の丸会館建設	三の丸	豊橋市教育委員会	3
昭和63年度	公園整備	本丸	豊橋市教育委員会	4
平成2年度	豊橋警察署建替	武家屋敷	(財)愛知県埋蔵文化財センター	5
平成2年度	豊城中学校建設	二の丸	豊橋市教育委員会	6
平成4・5年度	東三河事務所建替	武家屋敷	(財)愛知県埋蔵文化財センター	7
平成5年度	市役所新庁舎建設	三の丸	豊橋市教育委員会	8
平成5年度	地下駐車場建設	三の丸	豊橋市教育委員会	9
平成6年度	土地改良会館増築	武家屋敷	豊橋市教育委員会	10
平成7年度	東三河代替無線統制室建設	武家屋敷	愛知県教育委員会	11
平成8年度	豊橋土木事務所建替	武家屋敷	(財)愛知県埋蔵文化財センター	12



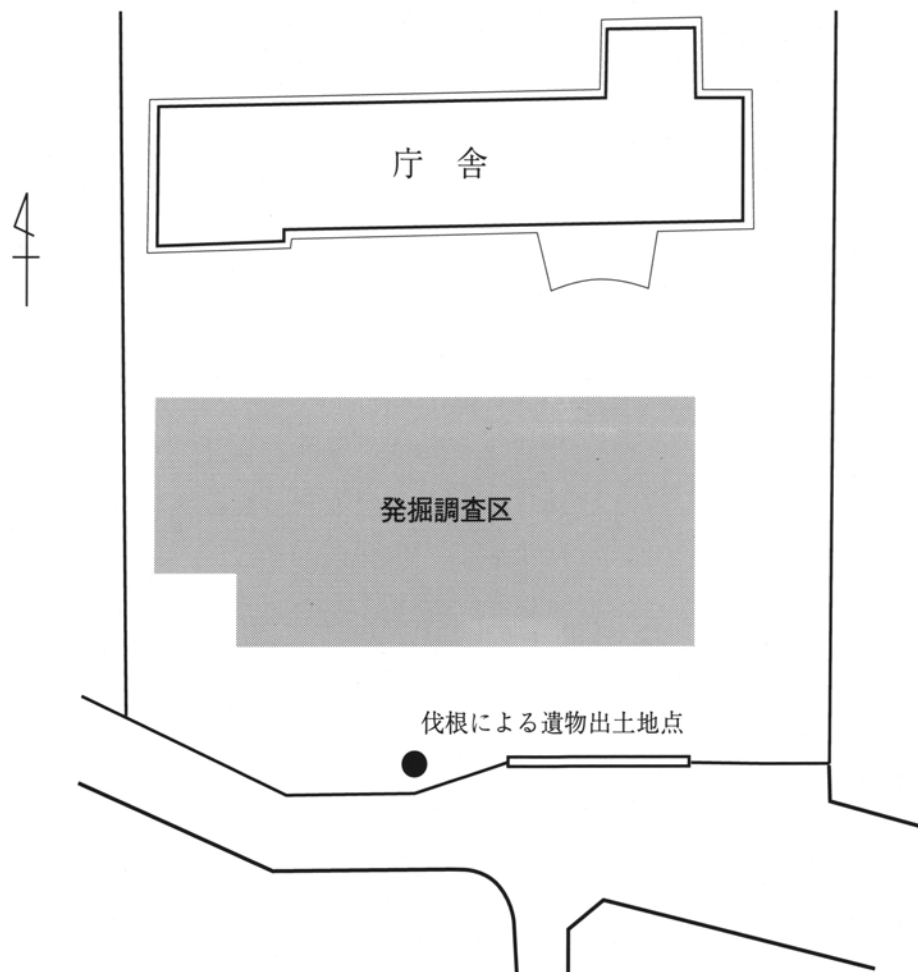
第2図 吉田城遺跡発掘調査地点 (1/4,000 地図中番号は第1表に対応)

建物等による遺構への攪乱はなかったが、地山面が高く表土を除去するとすぐに遺構検出面となっており、包含層は遺存していなかった。遺構面そのものもかなり削平を受けているとみられる。検出された遺構は、古代（主に平安時代）と江戸時代であり、周辺の調査で確認されている戦国時代の遺構、遺物は検出されなかった。遺構掘削後、ヘリコプターによる空撮を実施し、遺構断面図、遺物出土状態図等必要な図面を手測りにより作成した。

整理作業は、遺物の洗浄、注記等一次整理を発掘調査と平行し現場事務所で行い、平成9年度に遺物の実測、トレース等の二次整理及び報告書作成に関わる編集作業を実施した。

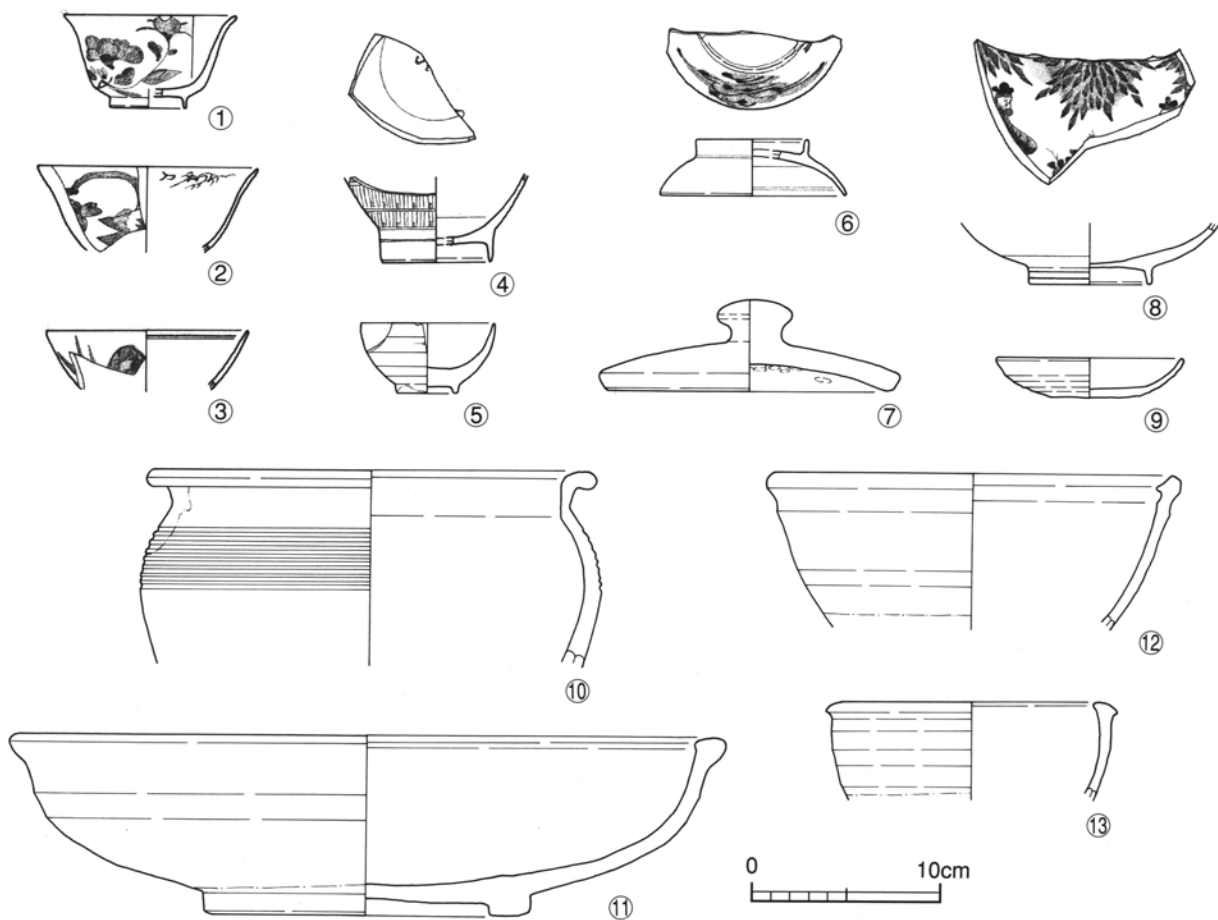
参考文献

- 豊橋市教育委員会・豊橋遺跡調査会 1994 『吉田城址(1)』  
豊橋市埋蔵文化財調査報告書第21集
- (財)愛知県埋蔵文化財センター 1995 『吉田城遺跡Ⅱ－愛知県東三河事務所地点の調査－』  
愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第59集
- (財)愛知県埋蔵文化財センター 1992 『吉田城遺跡』  
愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第26集
- 豊橋市教育委員会 1994 『吉田城いまむかし－吉田城址発掘出土品展－』
- 豊橋市教育委員会・豊橋遺跡調査会 1995 『吉田城址(Ⅱ)』  
豊橋市埋蔵文化財調査報告書第24集
- 愛知県教育委員会 1997 『愛知県名古屋市中・豊橋市 代替無線統制室建設にともなう埋蔵文化財  
発掘調査報告書』



第3図 調査区配置図 (1/600)





第4図 伐根時に出土した遺物

#### 伐根時に出土した遺物（第4図①～⑬）

遺物は調査地南側の樹木の伐根を行った際に出土したものである。伐根後の掘方の深さは約1m近くに及んだため遺構の存在は確認できなかったが、土坑等の遺構に伴う資料と思われる。出土遺物の時期は18世紀後半から19世紀代に比定される。

①・②は染付の端反碗で、①が瀬戸美濃産磁器、②が肥前産磁器である。③は肥前産磁器の染付碗。④は肥前産磁器の染付碗。高台部が高く体部が直線的に立ち上がる広東碗である。⑤は瀬戸美濃産磁器の小碗。⑥は肥前産磁器の染付蓋。⑧は瀬戸美濃産磁器で、鉢と思われる。⑦は瓦器の蓋で、内面に炭化物が付着している。⑨は瀬戸美濃産陶器の皿で、鉄錆釉が施されている。⑩は瀬戸美濃産陶器の灰釉鉢で、口縁部外面に緑釉の流し掛けが施されている。⑪は瀬戸美濃産陶器の灰釉の水盤。見込みにトチン痕が残る。⑫・⑬も瀬戸美濃産陶器の灰釉鉢。

## 第2章 遺構

### 第1節 基本層序

本調査区は現地表面でおおよそ標高9.5m前後、遺構地山となる暗黄褐色土（ベース）面で約9.2m程であり、遺跡の堆積層は薄い。南方約300mの東三河事務所地点では、ベース面が8.0m前後あり、南から北の朝倉川に向けて緩やかに高くなっている状況がうかがえる。本丸の所在する城域を別にすれば、本調査地は城下町のなかでも比較的高所に位置していることになる。しかし、このことは逆に後世の削平を受けやすくしたようで、本調査区では明確な包含層、整地層はみられなかった。近代から現代までのⅠ、Ⅱ層を取り除くと、遺構検出面のⅣ層暗黄褐色土となり、各時期の遺構は同一面で検出された。遺構の残存状況から推定して、遺構検出面であるⅣ層自体もかなりの削平を受けている可能性がある。

### 第2節 遺構

本調査で確認された遺構は大きく3時期に大別される。平安時代を中心とする古代、吉田城城下町に相当する江戸時代、陸軍関係の施設が置かれた明治以後の遺構である。なお、他の調査地点で存在が明らかにされている戦国期の今橋城に関連する遺構は検出されなかった。

#### (1) 古代の遺構

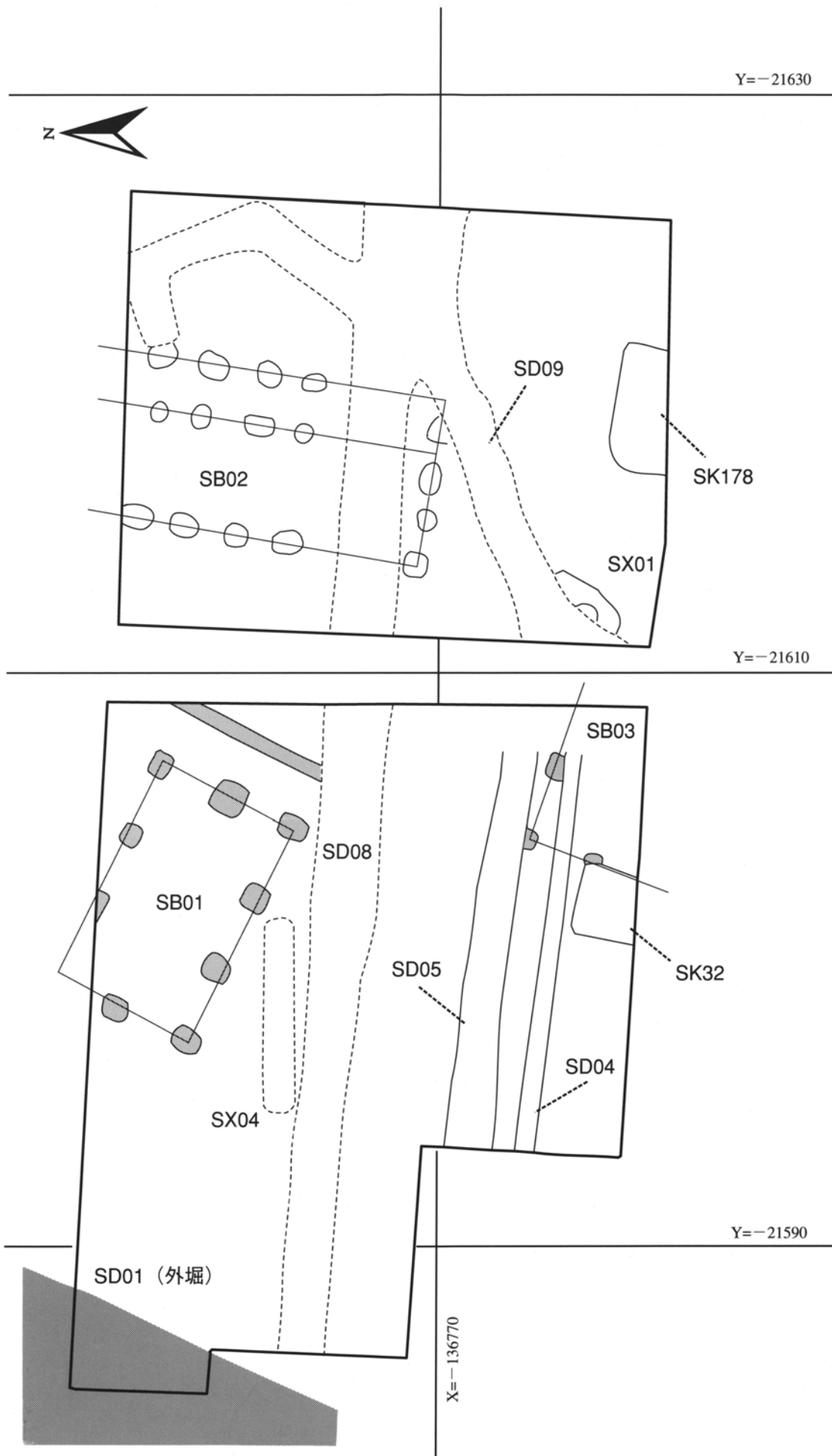
本遺跡の調査では、これまで奈良時代から平安時代にかけての古代の遺物が広い範囲から出土しており、渥美郡の郡衙、あるいは伊勢神宮領飽海神戸の所在地の可能性も考えられてはいるが、建物跡等遺構の存在までは明らかにされていない。平成4・5年度に実施された東三河事務所地点の調査において、柱穴列、土坑が検出されているが、集落の具体的な景観を推察するにはいたっていない。今回の発掘調査では、平安時代の遺構として建物跡2棟を検出しており、これまで不明瞭だった古代の吉田城遺跡を考えるうえで重要な資料となると思われる。

#### SB01（第6図）

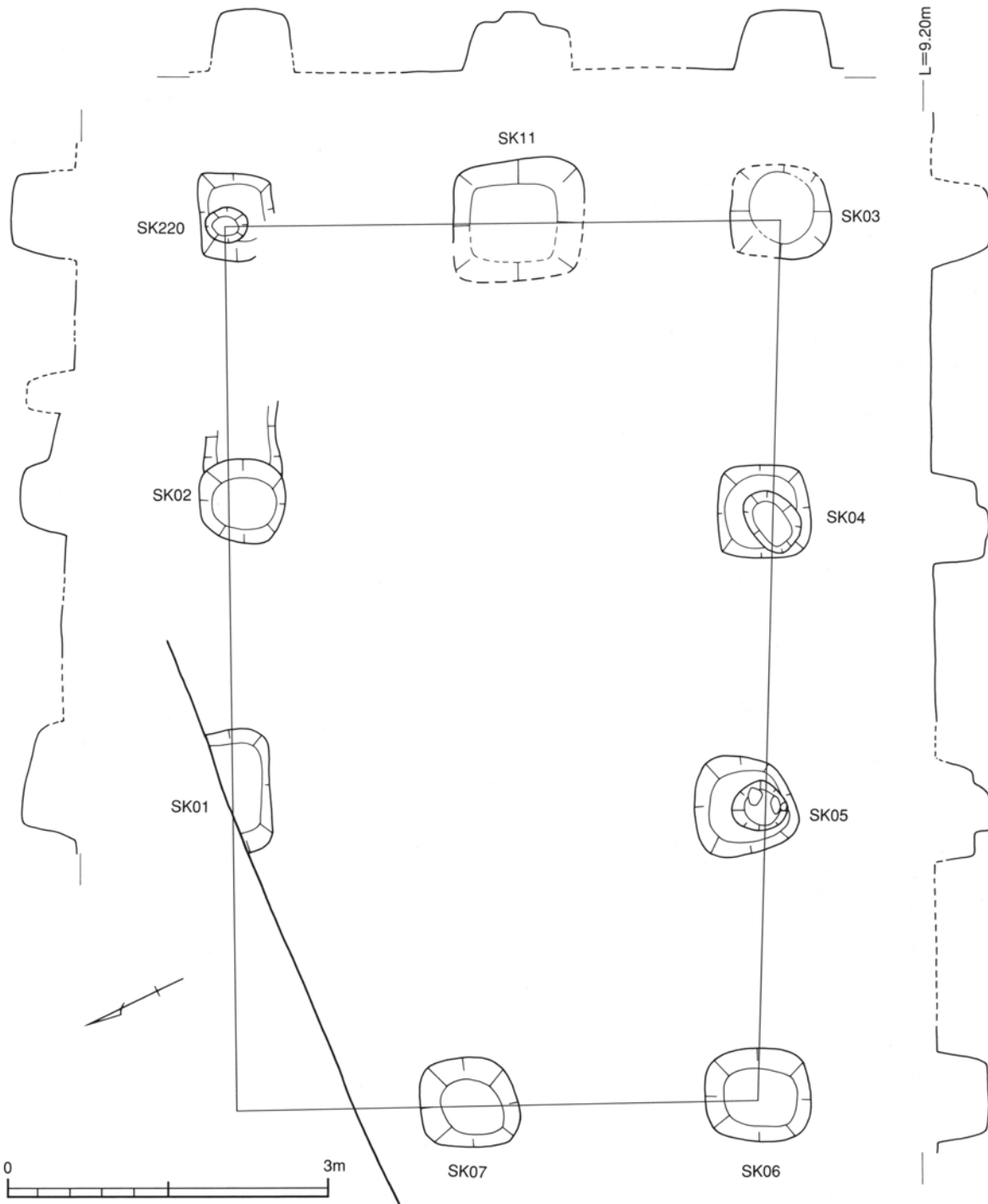
調査区中央部北端で検出された。北端の一部は調査区外になるため柱穴を確認していな

建物





第5図 主要遺構配置図 (1/200)

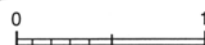
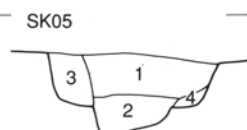
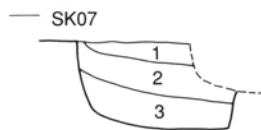
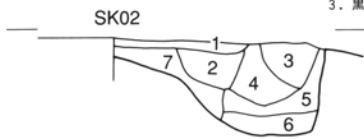


- <SK02>
1. 暗褐色シルト(10YR3/4)に  
にぶい黄褐色シルト(10YR4/3)ブロックを含む
  2. 暗褐色シルト(10YR3/3)
  3. 黒褐色シルト(10YR2/2)
  4. 暗褐色シルト(10YR3/4)
  5. 黒褐色シルト(10YR2/2)
  6. 褐灰色砂質土(10YR4/1)
  7. 黒褐色シルト(5YR2/1)

- <SK07>
1. 黒褐色シルト(5YR2/2)
  2. 〃 に明黄褐色シルト(10YR6/8)  
ブロックを含む
  3. 黒褐色シルト砂礫(5YR2/2)

- <SK05>
1. 黒褐色シルト(5YR2/2)に明黄褐色シルト(10YR6/8)  
ブロックを含む
  2. 黒褐色シルト(5YR2/2)砂礫含む
  3. 黒褐色シルト砂礫(5YR2/2)
  4. 褐灰色シルト(10YR4/1)

- <SK06>
1. 黒褐色シルト(5YR2/2)に  
にぶい黄褐色シルト(10YR5/3)ブロック多く含む
  2. 黒褐色シルト(5YR2/2)
  3. 2に同じ
  4. 黒褐色砂礫(5YR2/2)
  5. 褐灰色砂層(10YR4/1)
  6. 黒褐色シルト(5YR2/2)砂礫含む
  7. 6に同じ



第6図 SB01(S=1/60 SK02・07・05・06セクションは1/40)

いが、長軸8.2m、短軸5.2mを測る3間×2間の掘立柱建物である。建物の方位はE-27°-Sで、後述する江戸時代の遺構よりやや東にふる。柱穴は方形を呈するものが多く、径約0.8～1.1m、深さは検出面から約0.5mを測る。柱穴の底レベルは8.6m前後で、ほぼ均一である。

柱穴から灰釉陶器、須恵器、土器が出土している。遺物の年代は、8世紀前半から中頃のものが多。

#### SB03 (第5図)

調査区中央部南端で検出されたが、遺構の大半は調査区外になる。SK27・SK99・SK49の3つの土坑を検出したが、土坑の規模、深さがほぼ同じことから同一建物の柱穴と認定した。東西2間以上、南北2間以上の規模が推定される。

時期は、柱穴から出土した遺物から10世紀代と推定される。

### 溝

#### SD02 (第5図)

調査区中央部で検出された小規模な溝で、幅約0.4～0.5m、深さ0.2mを測る。南側は近現代の遺構SD08に切られ、北側は調査区外になる。方位はN-27°-Eで、SB01にほぼ平行しているが、出土遺物の時期は9世紀前半から10世紀前半で、SB01より新しい。

### 土坑

#### SK22

SB01の柱穴SK220を切っている。灰釉陶器、土師器が出土しており、時期は10世紀代である。

#### SK205

調査区東半で検出された楕円形の土坑で、近世の遺構に切られている。出土遺物から古代の遺構とした。

### (2) 江戸時代の遺構

本調査区は「吉田藩土屋敷図」をはじめとする絵図やこれまでの調査成果から、吉田城城下に形成された屋敷地であることは明白である。発掘調査にあたっては、当初から屋敷地の区画、屋敷地内部の構造を明らかにすることを主眼とした。調査の結果、溝、建物、廃棄土坑、多数の土坑を検出し、調査区内に2つの屋敷地が存在したことが明らかになった。特に調査区西端で検出した溝SD01は城下町をめぐる外堀の1条と考えられ、城下町の構造を復元するうえでも重要な遺構の一つである。

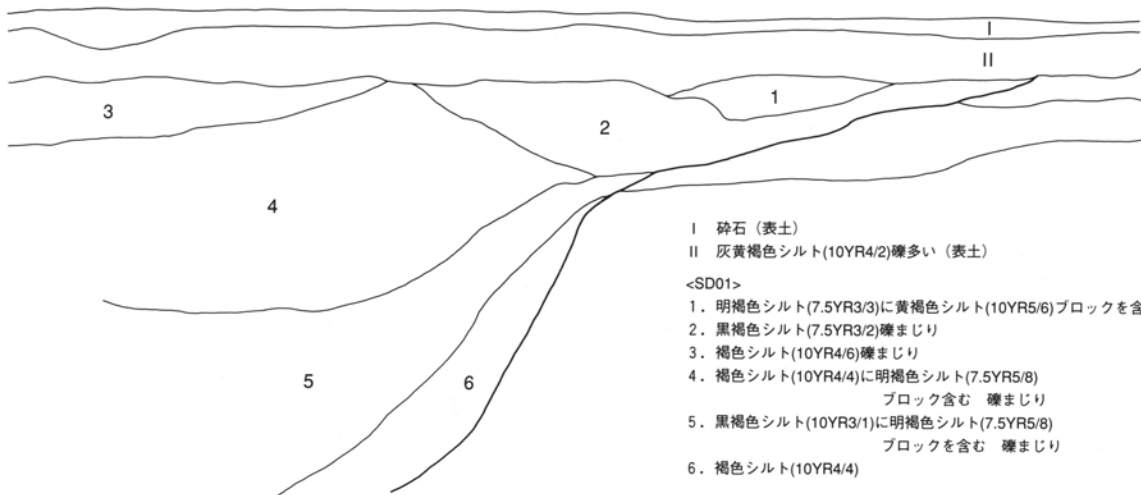
### 溝

#### SD01 (第7図)

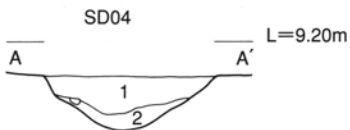
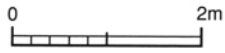
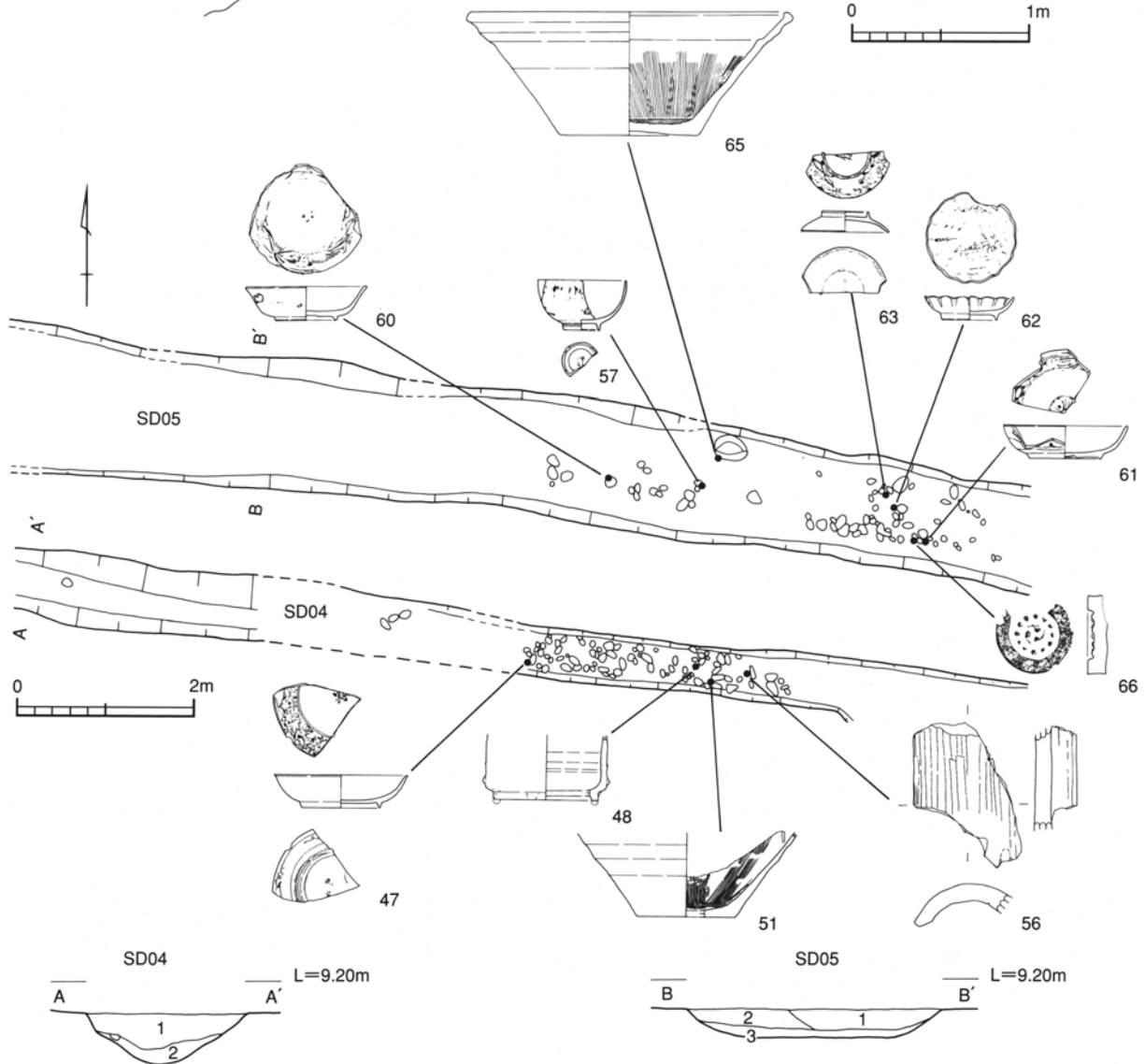
調査区西端で検出した南北に走る溝状の落ち込みである。当初遺構の極一部が調査区をかすめるように検出されたため、西に約1.5m調査区を拡張したが、遺構の全容は確認で

SD01

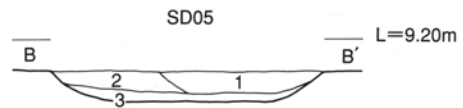
L=9.80m



- I 碎石(表土)  
 II 灰黄褐色シルト(10YR4/2)礫多い(表土)
- <SD01>  
 1. 明褐色シルト(7.5YR3/3)に黄褐色シルト(10YR5/6)ブロックを含む  
 2. 黒褐色シルト(7.5YR3/2)礫まじり  
 3. 褐色シルト(10YR4/6)礫まじり  
 4. 褐色シルト(10YR4/4)に明褐色シルト(7.5YR5/8)ブロック含む 礫まじり  
 5. 黒褐色シルト(10YR3/1)に明褐色シルト(7.5YR5/8)ブロックを含む 礫まじり  
 6. 褐色シルト(10YR4/4)



- <SD04>  
 1. 暗褐色シルト(10YR3/3)礫含む  
 2. 褐灰色砂質土(10YR4/1)



- <SD05>  
 1. 暗褐色シルト(10YR3/3)礫多い  
 2. 暗褐色砂質土(10YR3/3)  
 3. 褐灰色砂質土(10YR4/1)



第7図 SD01・04・05 (S=1/80 断面セクションは 1/40)

きていない。遺構の規模は、幅3.3 m以上、深さ2.2 m以上を測り、方位はN-25° -Eである。掘り下げた範囲で溝底は確認しておらず、中心はさらに調査区外にあるものと推定される。

この遺構は規模、方位、位置からみて、城下町東側の二重にめぐる外堀のうち、内側の堀と考えて間違いないであろう。過去の調査においても、平成4年度に(財)愛知県埋蔵文化財センターが実施した東三河総合庁舎地点の調査、平成7年に愛知県教育委員会が実施した東三河無線統制室建設に伴う調査で、外堀と推定される大規模な遺構を検出しており、今回検出されたSD01と同一の遺構と考えられる。

SD01の土層は調査区北壁のセクションで確認した。埋土は比較的単一で、地山の明褐色土のブロックを含んでいる。短期間で人為的に埋め戻されたものと推定される。遺物は江戸時代の陶磁器や瓦に混じって明治の陶磁器も出土している。地籍図にも外堀が記載されており、実際に堀が廃絶されたのは明治になってからである。

#### SD04・05 (第7図)

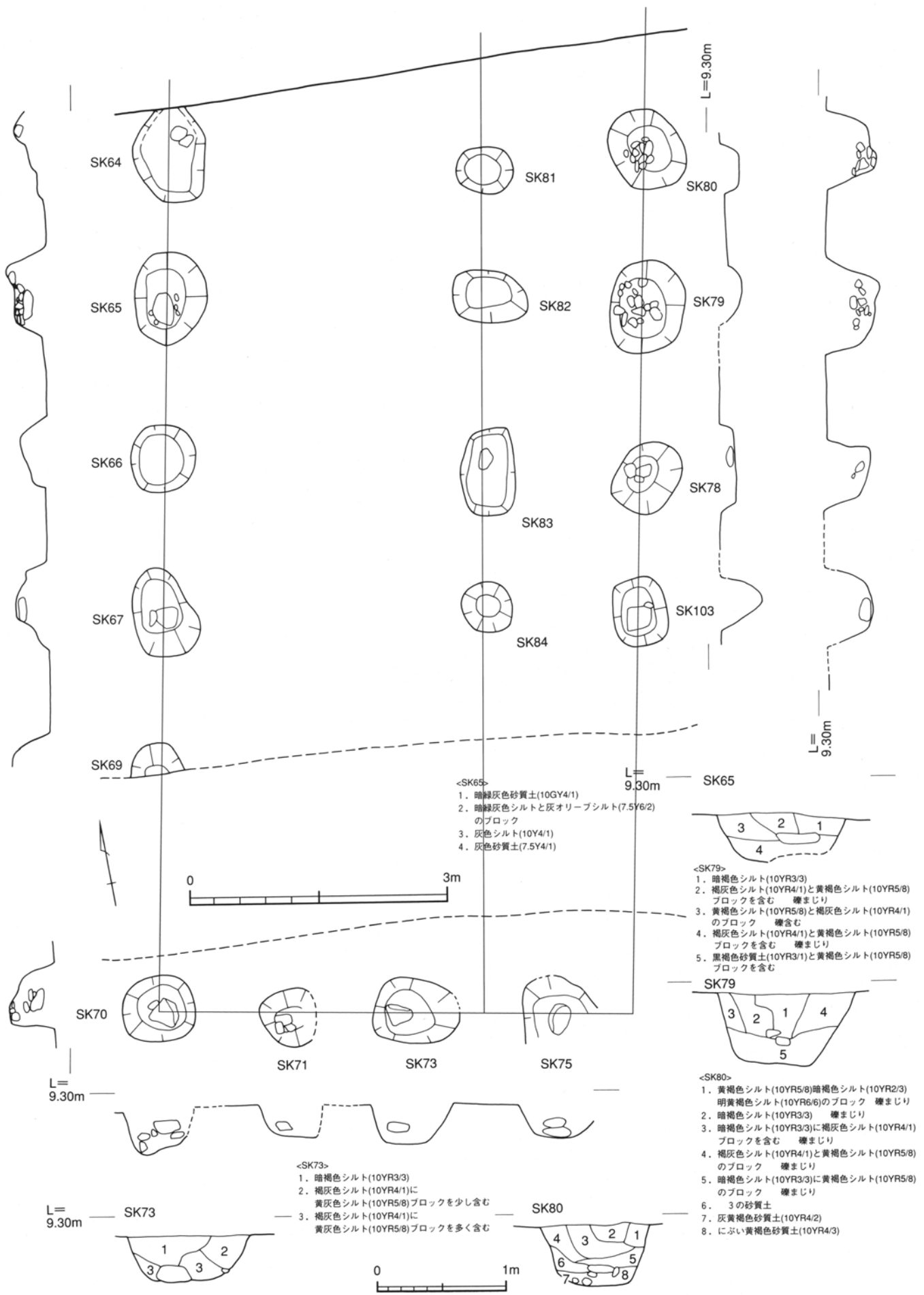
調査区西半で検出された東西に平行して走る溝で、南側がSD04、北側の溝がSD05である。SD04は幅約0.8 m、SD05は約1.2 m。両遺構の方位はE-10° -Sである。かなり削平を受けているようで、深さは最大でも0.3 m程度と浅い。東側では徐々に浅くなり、遺構のプランが確認できなくなる。底レベルは8.7 m~8.9 mで、東から西に向かって傾斜している。絵図では堀と堀の間の空間は比較的規模の小さな屋敷地が表現されており、この溝は屋敷地を南北に画する区画溝と考えられる。

SD04・05とも東側で遺物が密集して出土している。出土遺物の大半は拳大程度の円礫で、礫に混じって肥前、瀬戸美濃産の陶磁器、瓦等が出土している。遺物の時期は18~19世紀のものが多く、少量ではあるが明治時代の陶磁器も出土している。廃絶時にまとめて投棄されたものと思われる。

### 建物

#### SB02 (第8図)

調査区東半で検出された掘立柱建物である。南側の一部を明治以降の溝(SD08)に切られている。建物の方位はN-10° -Eで、SD04・05の方位を意識した配置になっている。北側は調査区外にのびるとみられ、正確な規模は不明だが、南北10 m以上、東西5.6 mを測る。柱間は南北6間以上、東西4間である。建物内部にも南北の柱穴の並びが確認できるが、柱穴を結ぶラインは東西方向の柱穴と一致しない。建物外周の柱穴は、径約0.8~1.1 m程度のやや不定型な楕円形あるいは円形を呈するものが多く、深さは0.4 m、底部レベルで8.7 mである。根石、礎石を残す柱穴が多く、SK65・70は土坑底部に拳大の礫を詰め、その上に扁平な礫を置き礎石としている。SK78~79は礎石は残存していなかったが、土坑下部に詰められた根石が残存しており、SK65・70と同様な構造であったと推定される。SK75は根石を用いていないが、扁平な礫2つを重ねて礎石としている。建物内部の柱穴



第8図 SB02(S=1/80 SK73・80・79・65セクションは1/40)

は、外周の柱穴より平面の規模が小さく、底レベルも 8.9 m と浅い。

柱穴からの出土遺物はほとんどなく、時期を特定することはできないが、SD04・05を意識した配置になっていること、柱穴が周辺の全ての遺構を切っていることから、江戸時代後期から幕末にかけてと考えられる。

#### 土坑 SK32

調査区中央部、SD04の南側で検出された。南側が調査区外のため全形を確認していないが、東西 2.4 m、南北 2.2 m 以上、深さ 0.4 m を測る方形の土坑である。出土遺物がなく、土坑の時期、性格は不明である。

#### SK178 (第 9 図)

調査区西半で検出された長方形の土坑。規模は東西 4.4 m、南北 2.2 m 以上、深さは 0.5 m を測る。土坑底はほぼフラットで、薄い炭化物の層が認められた。土坑埋土からは、陶磁器、土師器、瓦等の遺物がまとまって出土しており、廃棄土坑ないしはゴミ穴と考えられる。

出土遺物の時期は 17 世紀後半～18 世紀のものが主体で、一部 19 世紀のものが含まれる。

#### その他の遺構 SX01 (第 9 図)

調査区中央で検出された常滑産甕の埋設土坑で、西半は近現代の遺構 SD09 に切られている。不整形な浅い土坑の中央部を掘り下げ、常滑産甕の上半部を埋設している。埋設された甕の年代は 18 世紀代とみられるが、出土した遺物には明らかに明治期のものがある。

#### SX02・03 (第 9 図)

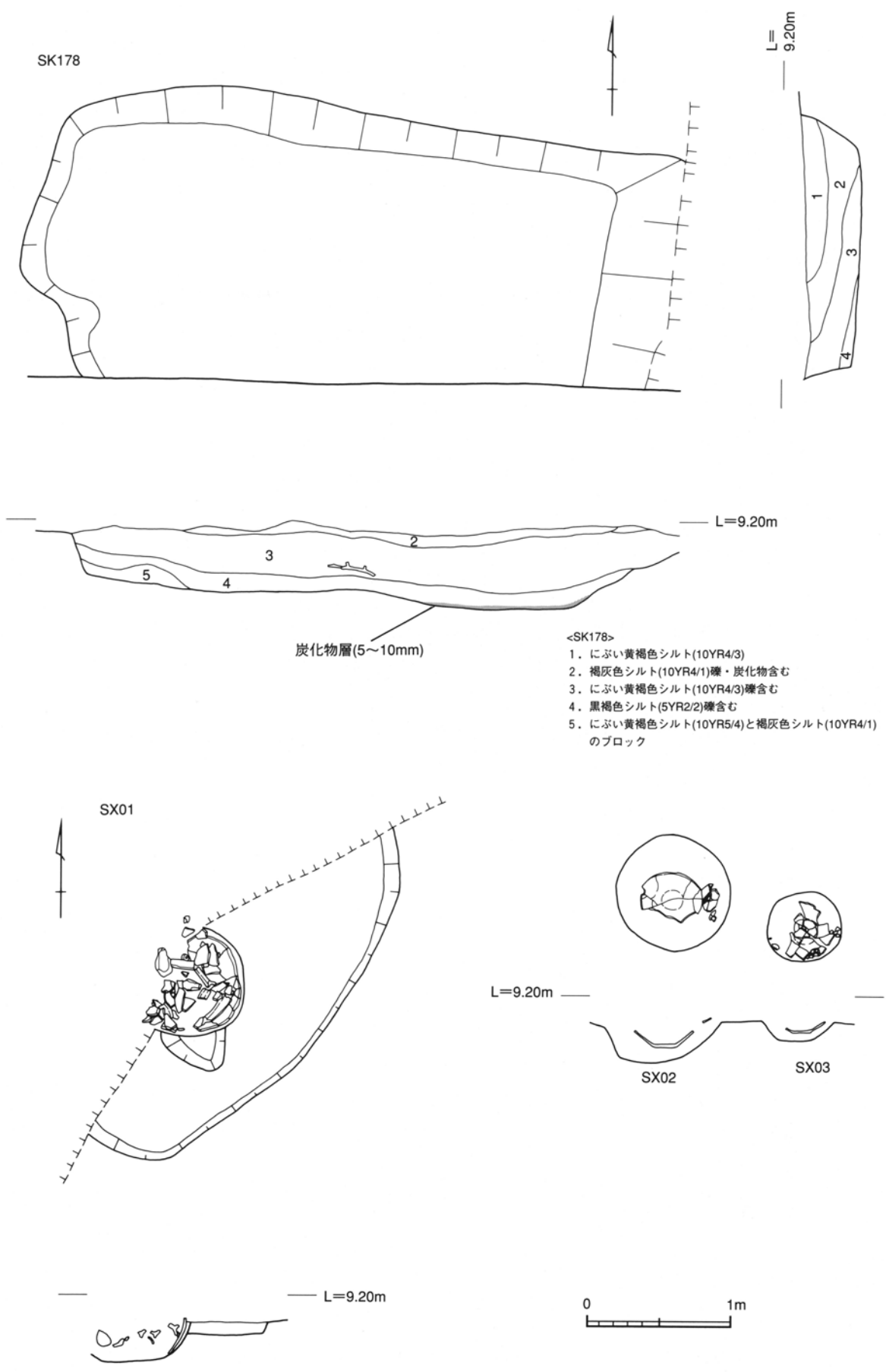
調査区西半、SD04 と SD05 の間の狭い空間で、2 基の常滑産甕が埋設されて出土した。SX02 が径約 0.8 m、深さ約 0.3 m、SX03 が径約 0.5 m、深さ約 0.15 m を測る。埋設された甕はいずれも底部しかなく、甕内部は砂質土で埋められていた。

#### (3) 近現代の遺構

明治になると吉田城址の広大な敷地には陸軍第 18 連隊が設置され、軍に係わる兵舎等が新たにつくられた。調査区の付近は射的場となっていたことが明治 26 年に作成された地図にも記述されている。発掘調査でも陸軍に関係する遺構、遺物が出土しており、若干ふれておきたい。

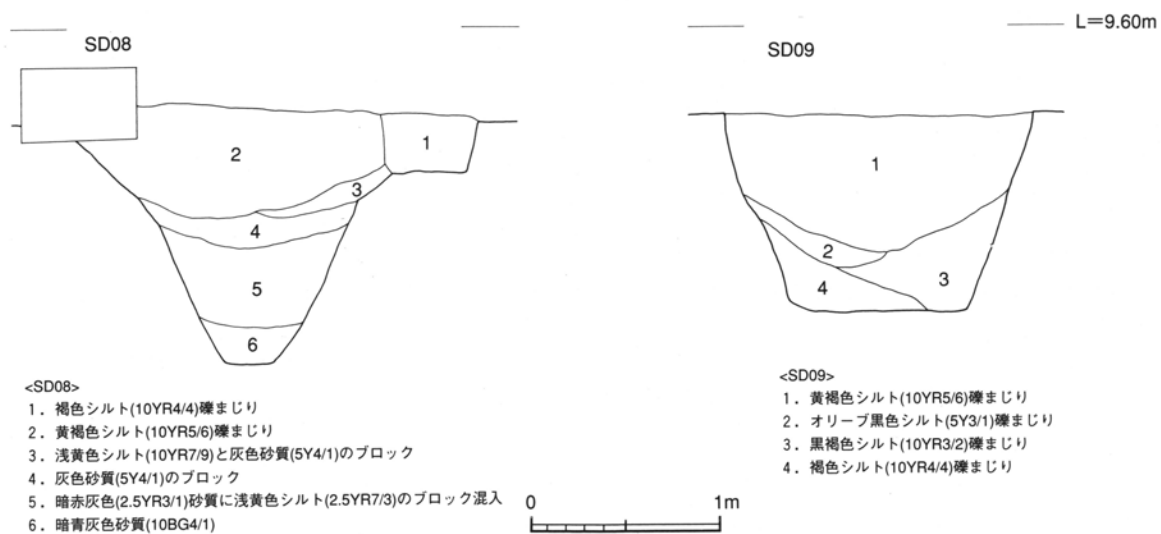
#### SD08・09 (第 10 図)

SD08 は調査区を東西に走る溝で、断面形は V 字形に近く、溝底は人一人がやっと立てるほどの幅しかない。埋土の状況は人為的に埋め戻されており、上層には土管が埋設されていた。SD09 は箱形の断面形を呈し、調査区東半を南北にジグザグに走っている。溝内から



第9図 SK178 SX01・02・03 (S=1/80)





第10図 SD08・09 (S=1/60)

は銃の薬莖ではないかとみられる金属片が何点か出土している。SD08・09は射的場内に掘削された塹壕のようである。

#### SX04

調査区西半で検出された細長い長方形の土坑。長さ6.5m、幅1.0m、深さ0.8mを測り、東側の短辺がやや緩やかなスロープとなっている。当遺構は第2次世界大戦中につくられた防空壕と思われる。

## 第3章 遺物

### 第1節 古代の遺物

今回の調査区における古代に属する遺物は、須恵器杯や蓋、土師器甕、灰釉陶器や土師器鍋など7世紀前半～10世紀後半の時期の資料である。中心は平安時代に属し、総量にしてコンテナ1箱程度の大半が細片であった。須恵器については湖西窯、猿投窯、灰釉陶器では二川窯と猿投窯製品があり、それぞれ器種に偏りがみられるようである。

#### SB01 (第11図 3・4・6・14・16・19)

遺物はSB01を構成するピット埋土より出土した。3・4・6は湖西窯産と思われるやや軟質の須恵器蓋。4は口径10.4cmであり端部をわずかに折り返す。6は口径16.8cm、ツマミは高く擬宝珠形を呈し、外面上部1/2はケズリ、以下はナデ調整が施される。8世紀前半から半ばに比定される。5は端部を鋭く折り返す猿投窯産の須恵器蓋。7は湖西窯産の無高台の須恵器杯。14は猿投窯産の長頸壺の底部。底部高台内に糸切り痕を残す。15は口径14cm、16は12.6cm、胴部から緩やかに折れ曲がる口縁部を形成し、胎土に砂粒を多く含む。外面はナデ調整。「三河型」甕とされる長胴丸底甕であり、8世紀半ばの時期が比定される。19は猿投窯産の短頸壺。8世紀後半の時期と思われる。

#### SB03 (第11図 1・9)

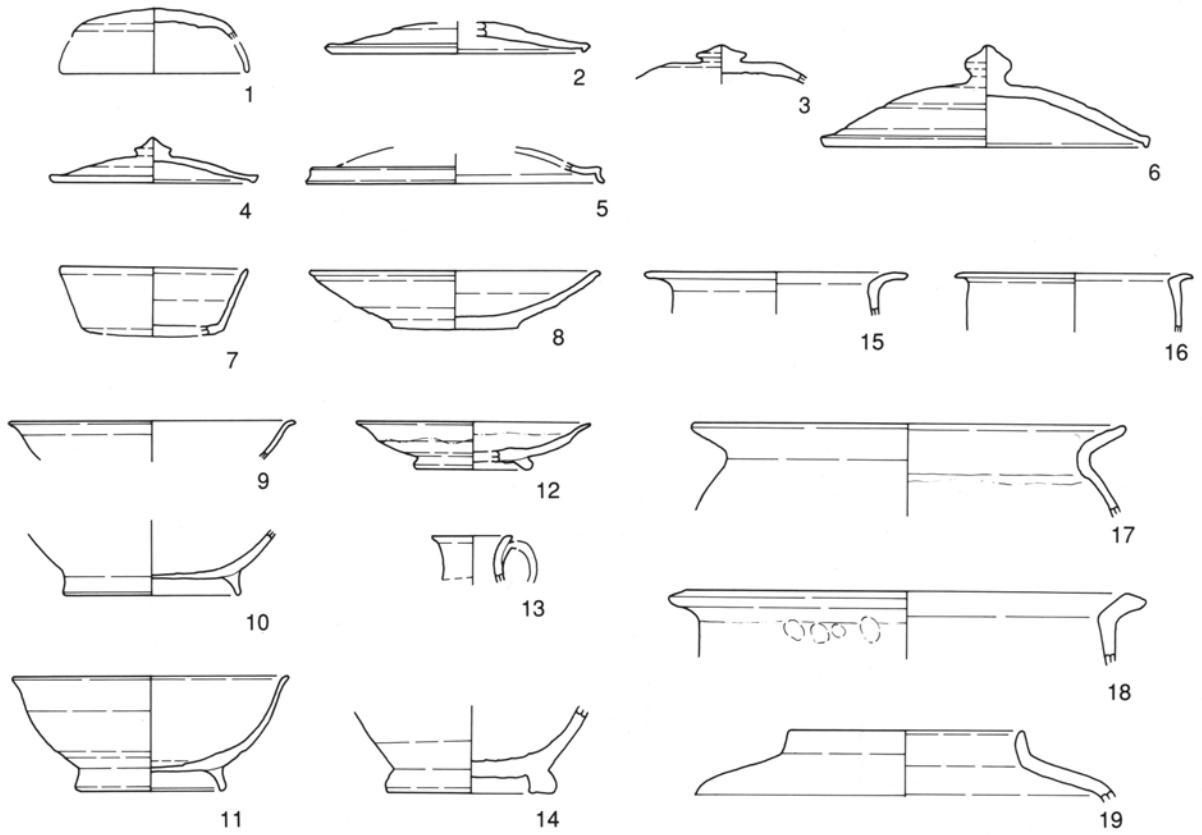
SB03を構成するピット、SK49とSK27で検出された遺物である。1は7世紀代の須恵器杯蓋。焼成は軟質であり湖西窯産と思われる。9は口縁部片であるが、11と同時期と思われる灰釉陶器椀。灰釉は剥離し、痕跡程度にも残っていない。

#### SD02 (第11図 8・13・17)

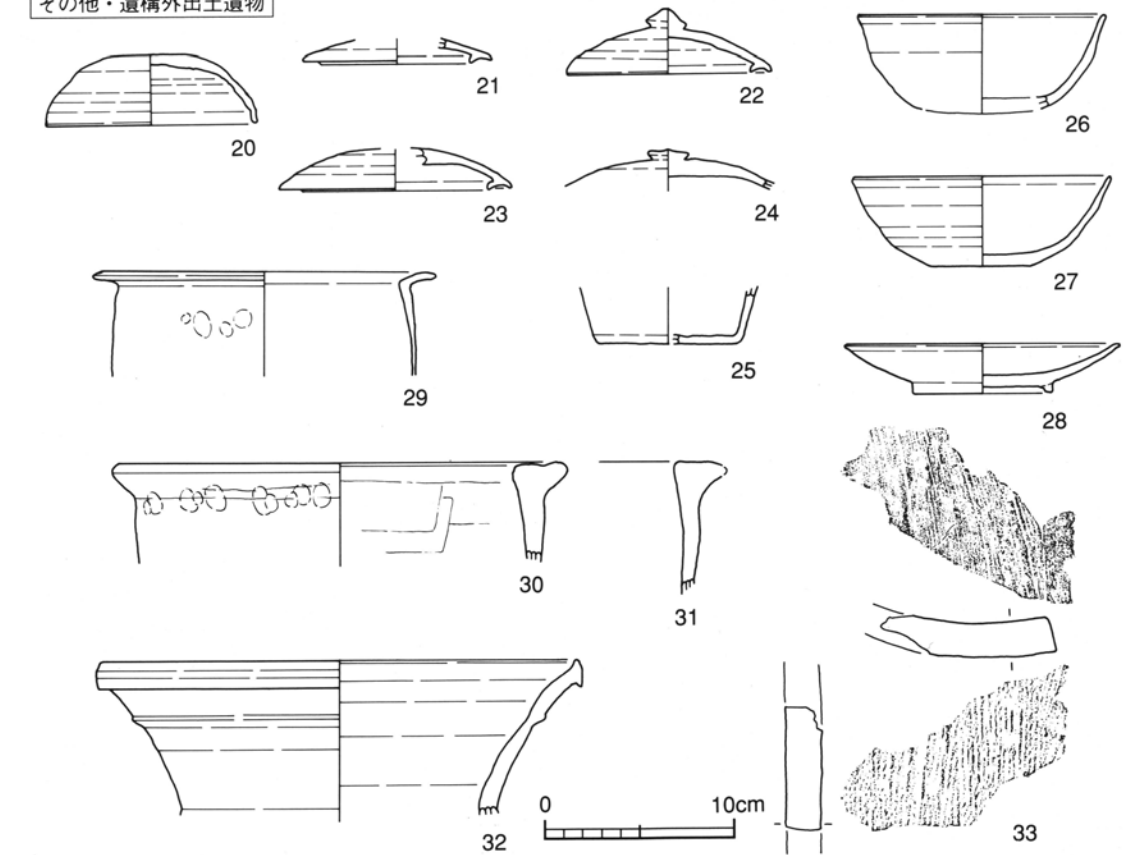
方向がSB01に平行する溝である。8はやや軟質の猿投窯産の須恵器皿であり、底部外面は回転ヘラケズリ。9世紀前半かと思われる。13は猿投窯産の灰釉陶器手付瓶。17は外面ナデ調整の土師器甕。

#### SK22 (第11図 10・11・12・18)

10・11は灰釉陶器椀。11は口径14.2cm、底径7.2cm。高台は高く、やや外側に開くようにつく。底部糸切りの痕跡を残す。灰釉は浸けがけでほとんどが剥離している。内面に重ね焼き痕あり。12は灰釉陶器皿。高台は丸みもち扁平気味に外へ開く。灰釉は口縁端部より外面のナデの段のあたりまで施され、内面には重ね焼き痕がみられる。これら灰釉陶器は二川窯産と思われる。18の土師器は肥厚して屈曲する口縁部をもつ「清郷型」鍋。胎土は粗粒砂を大量に含み、外面調整はナデとオサエ、内面は横方向に板状の工具によるナ



その他・遺構外出土遺物



第11図 古代の遺物

SB03(1・9) SB01(3~7・14~16・19) SK22(10・11・12・18) SD02(8・13・17)

デが施される。時期は10世紀代と思われる。

#### その他・遺構外出土遺物（第11図20～33）

図版に挙げた須恵器は24を除きすべて湖西窯産と思われる。20は7世紀前半代の杯蓋、21・22・23は7世紀後半～8世紀初めのカエリ付蓋。26・27は口径13cm前後、体部にやや丸みをもつ鉢。28は灰釉陶器皿。釉はほとんど剥離している。底部は比較的厚く、断面四角形の低い高台がつく。底部外面は回転ケズリ。29は15・16と同様の「三河型」甕。30・31は18より雑な作りであり「清郷型」鍋の11世紀代の形態と思われる。32は大型の須恵器壺の頸部。33は焼成がやや軟質の平瓦片であり、凹面の布目はかなり密で、凸面には縄タタキ痕、ハナレ砂がみられる。

#### 参考文献

- 静岡県教育委員会 1989 「静岡県の窯業遺跡」静岡県文化財調査報告書第42集  
永井宏幸 1996 「尾張平野を中心とした古代煮炊具の変遷」『鍋と甕 そのデザイン』  
第4回考古学フォーラム

## 第2節 近世の遺物

### (1) 土器・陶磁器類

#### SD01（第12図 34～40）

溝

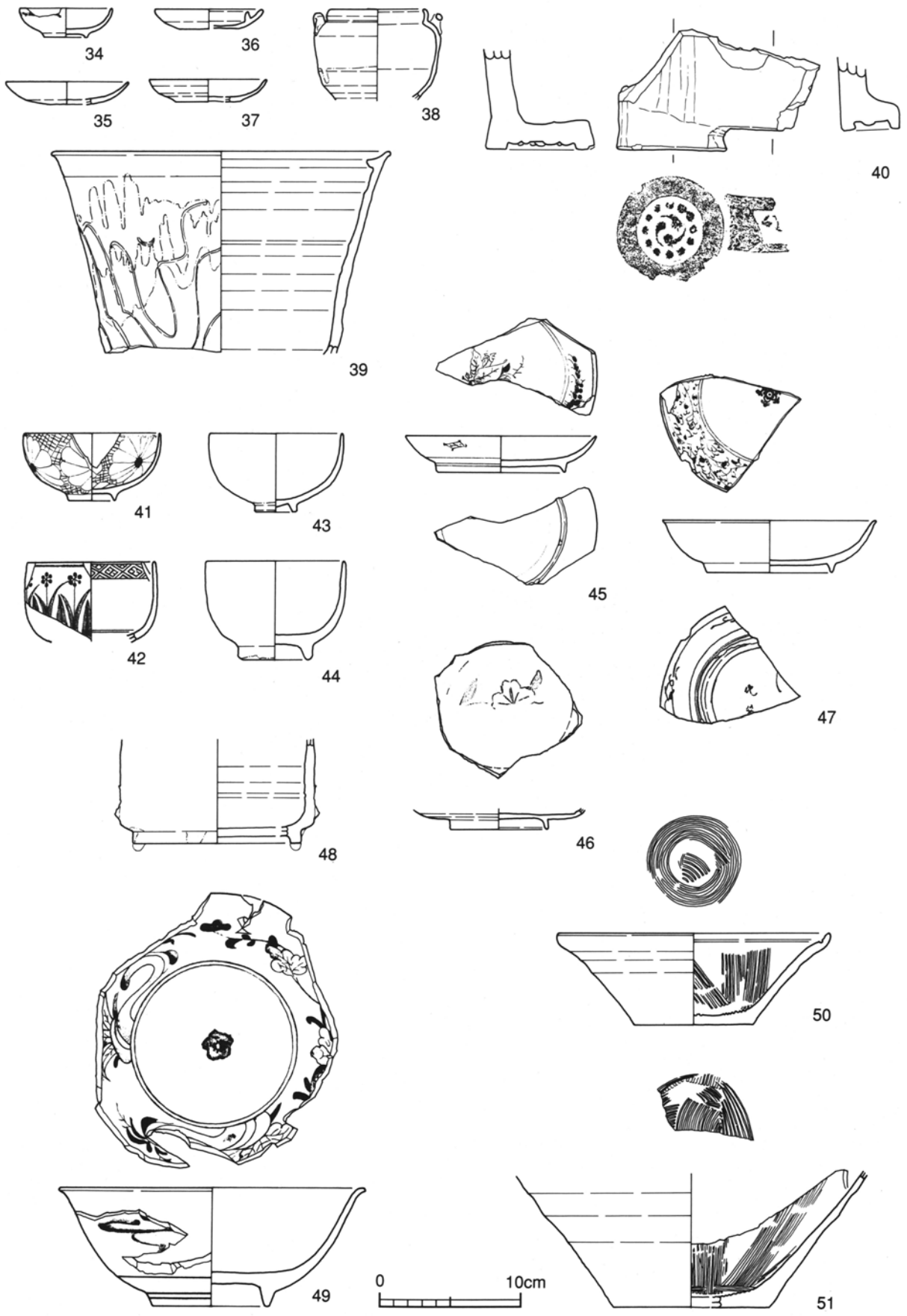
遺構の規模に比して出土遺物は少なく、上層、下層の区別なく散発的に出土している。時期は19世紀代の遺物が多いが、溝下層から明治期の陶磁器も出土しており、遺構の埋め戻しが明治期に陸軍が設置されてから行われたことを裏付けるものである。

34は瀬戸美濃産磁器の小椀。口縁部の呉須絵は笹文か。35～37は瀬戸美濃産陶器の灯明皿で、36の受部は口縁よりも低い。いずれも19世紀前半のものである。38は瀬戸美濃産陶器の双耳壺で、外面口縁部から体部上半に灰釉が施されている。39は大型の瀬戸美濃産鉢。施釉は内外面とも灰釉で外面口縁部に緑釉がかけられている。40は棧瓦の軒部片である。

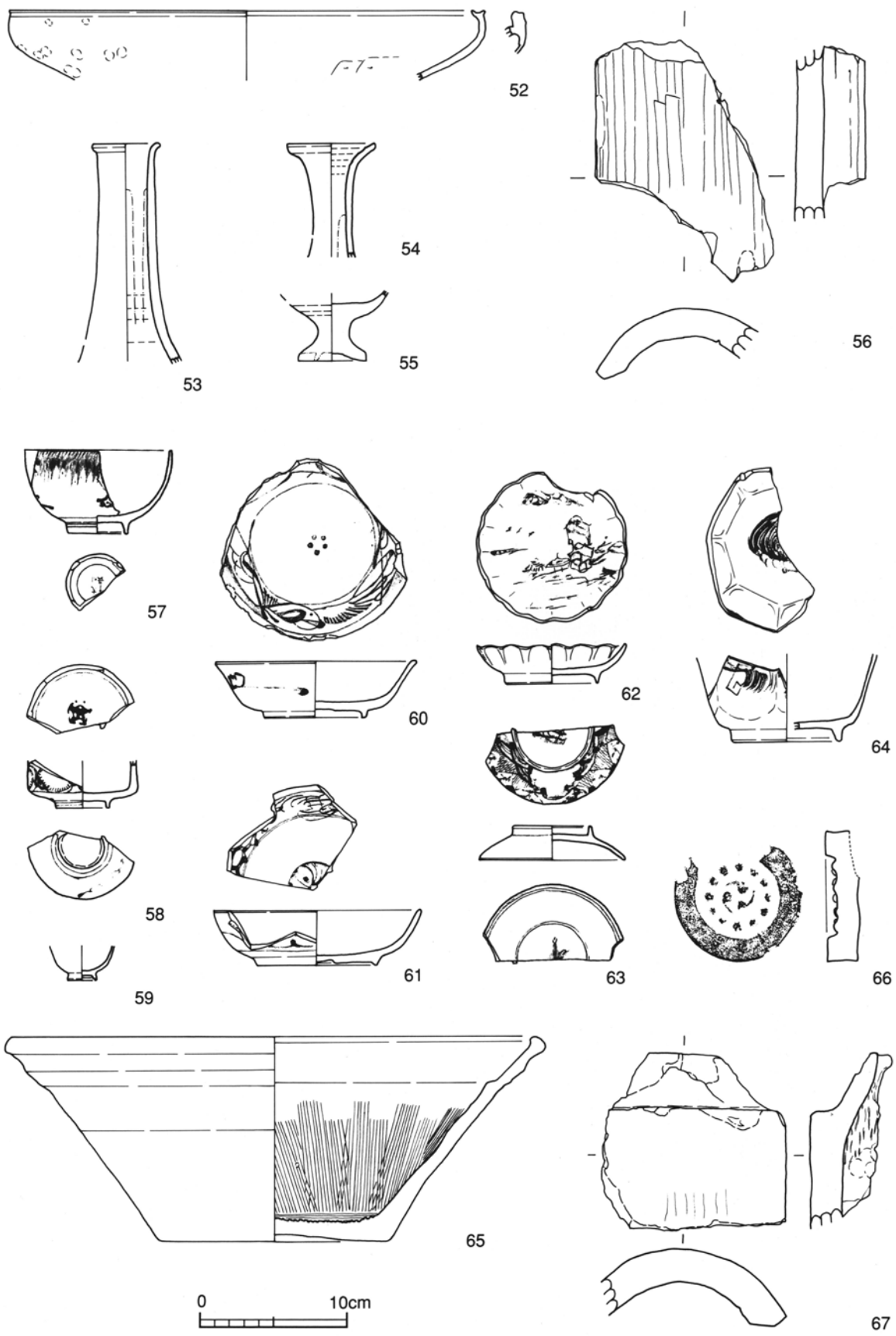
#### SD04（第12図 41～第13図56）

遺構の章でもふれたように、遺物の多くは東側部分で礫とともに廃棄された状態で出土している。溝廃絶後の短期間に廃棄された遺物と考えられる。出土遺物の時期は、おおむね18世紀～19世紀代であり、一部明治期の陶磁器も出土していることから、明治になって溝の廃絶、遺物の投棄が行われたものと考えられる。

41・42は肥前産磁器の染付丸椀。41は内外面とも菊花文、42は外面が草花、口縁内面に菱形の幾何学文が施文されている。43・44は陶器の丸椀。43は京焼系陶器。高台径が小さく、体部は直立して立ち上がる。上絵付が施されているが、ほとんど剥落している。44



第12図 近世の遺物 (1) SD01-04



第13図 近世の遺物 (2) SD04・05

は瀬戸美濃産陶器の椀。高台がやや高く、体部から口縁部にかけて直立して立ち上がる。45は肥前産磁器の染付皿。46は陶器の皿。見込みに呉須絵が描かれている。47は肥前産磁器の染付皿。見込みには手書きの五弁花文、外底部に「大明成化年製」が記されている。48は瀬戸美濃産陶器の鉢。取手がつくと思われるが欠損している。釉は鉄釉。49は磁器の鉢であるが、産地は不明。灰色の胎土とやや青みがかった釉が特徴的である。文様は唐草文、見込みに手描きの五弁花文が描かれている。50・51は瀬戸美濃産陶器の播鉢。52は土器内耳鍋。体部は直線的で、口縁で内側に屈曲する。口縁端部は内側に大きくつまみ出されている。53～55はいずれも明治期の磁器製品。56は丸瓦片である。

#### SD05 (第13図 57～67)

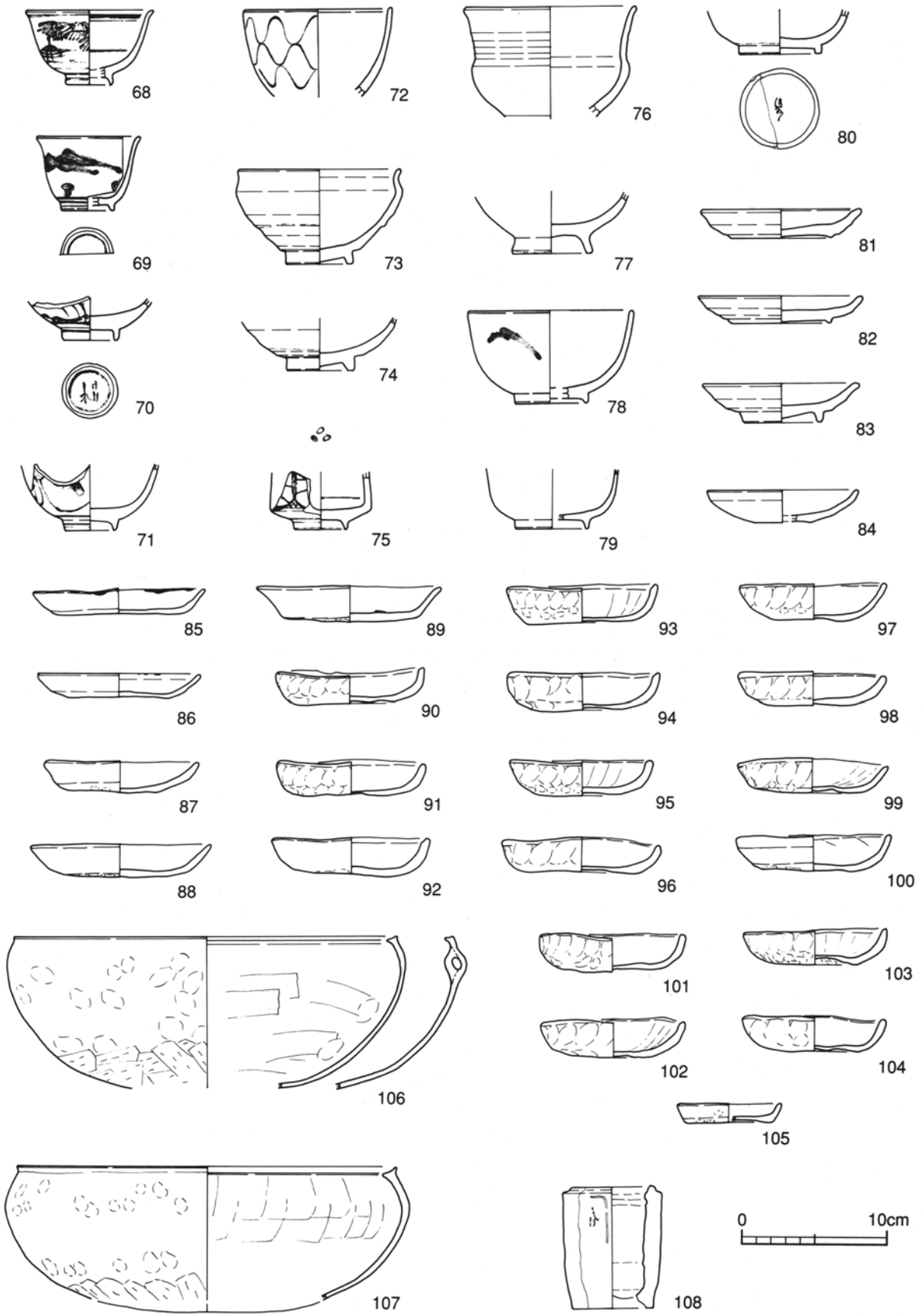
SD05の遺物出土状況は基本的にSD04と同じであるが、SD04に比べると出土遺物は少ない。出土遺物の時期もSD04と基本的に同じ傾向を示しており、同時期に使用、廃絶されたものと考えられる。

57は肥前産磁器の染付丸椀。口縁端部に鉄錆釉が施されている。外底部に「大明年製」が記されている。58も肥前産磁器で、染付の筒形椀。外底部に唐草文、見込みに手描きの五弁花文。59は磁器の小椀だが明治期の遺物である。60・61は瀬戸産陶器の皿で、いわゆる陶胎染付である。61は蛇の目高台で、中心部がくぼんでいる。62は肥前産磁器の染付皿で、型打ちである。見込みに山水が描かれている。63は肥前産磁器の染付の蓋。65は瀬戸美濃産陶器の播鉢。口縁部は段を持ち大きくのびる。19世紀代のものである。66は軒丸瓦あるいは棧瓦の軒丸部。67は丸瓦片である。

#### 土坑 SK178 (第14図 68～第16図 124)

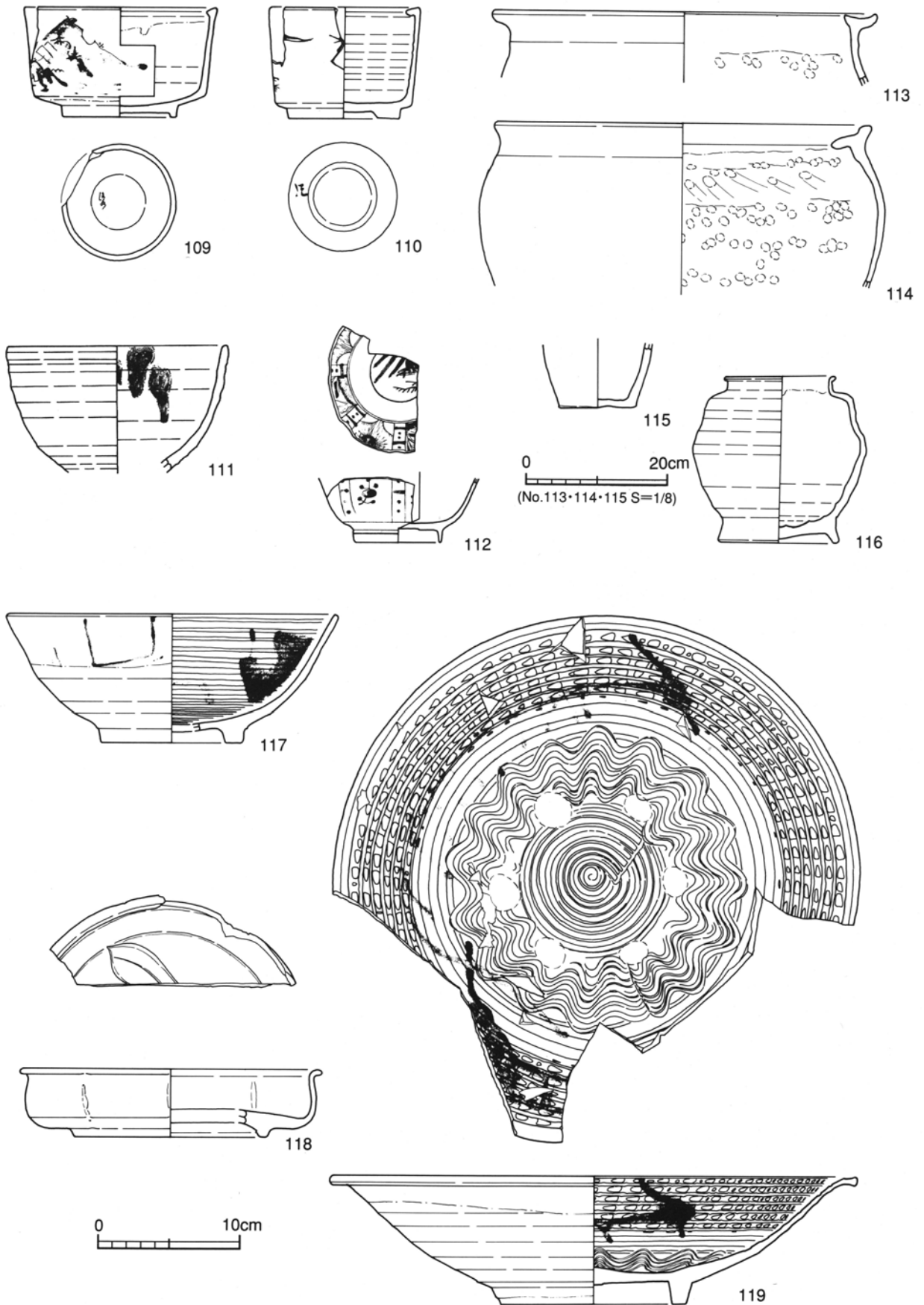
SK178からはまとまった量の陶磁器、土器が出土し、陶磁器の椀、皿、鉢、壺、播鉢、甕、土器の鍋、土師器皿、焼塩壺等各器種がそろっている。出土状態は土坑の上層、下層に偏ることなく、ほぼ均等に出土している。埋土最下層には薄い炭化物の層が認められたが、最下層での出土遺物はむしろ少なかった。出土遺物の時期はおおむね17世紀後半から18世紀代のものが多く、今回の調査区出土資料のなかでは古く位置付けられる。19世紀代の資料も少数出土しているが、他の遺構との切り合いにより混入した可能性がある。

68・69は瀬戸美濃産磁器の小椀。時期は19世紀代で、当遺構出土の他の資料に比べ新しいものである。70・71は肥前産磁器の椀。70は高台内面に「大明年製」くずしが記されている。72も肥前産磁器の椀で、染付の一重網手文。73・74は瀬戸美濃産陶器の天目茶椀。75は瀬戸美濃産陶器の筒形椀で、呉須絵の菊花散し文が描かれている。76は瀬戸美濃産陶器の椀ないし鉢で、内外面とも鉄錆釉が施されている。77は瀬戸美濃産陶器の椀高台部。78は肥前産陶器の呉須絵の丸椀。79は肥前産陶器の丸椀で、白泥による刷毛目打ち。80は肥前産陶器の丸椀。高台部は無釉で、高台内面に「清水」の刻印がある。81・82は瀬

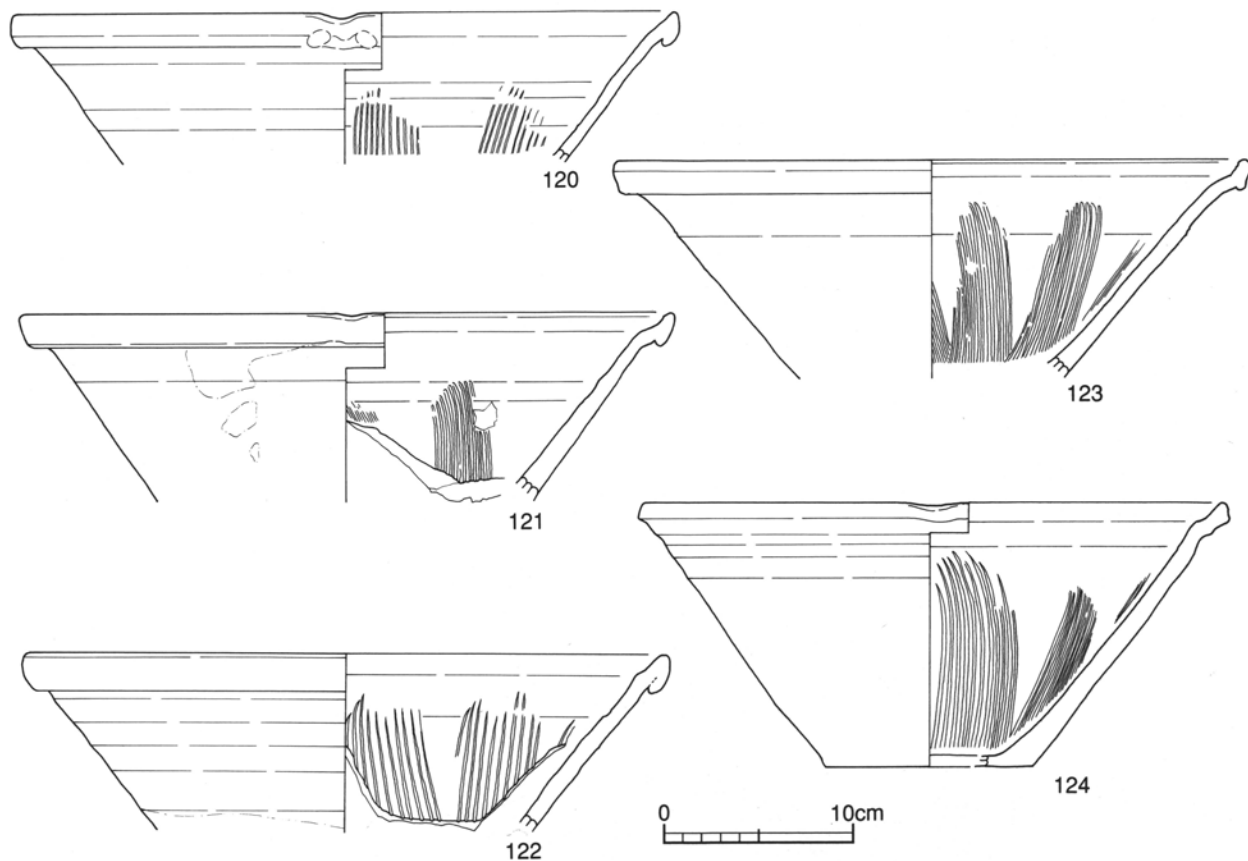


第14図 近世の遺物 (3) SK178





第15図 近世の遺物 (4) SK178



第16図 近世の遺物 (5) SK178

戸美濃産陶器の灰釉皿。83も瀬戸美濃産陶器の灰釉皿だが、大窯段階の資料である。見込みに重ね焼き痕があり、タール状の炭化物が付着している。84は瀬戸美濃産陶器の皿。内外面とも鉄錆釉。85～105は土師器皿である。出土時には3～5枚が重なった状態で出土したものもある。85～89は体部に一段ナデを施しており、わずかに外反するものもみられる。口径は11～12cm台で、後述する他の土師器皿よりわずかに大きい。85・86は口縁部にタール状の炭化物が付着しており、灯明皿として使われた痕跡をとどめる。91～104は当遺構資料でもっとも一般的な形態である。口径は9.5～10.5cm台にほぼまとなり、器高は2.3～2.4cmである。体部と底部の境は不明瞭で、体部外面にヨコナデを施さず、器形の歪みが著しい。外面には指押さえの痕跡を顕著にとどめ、内面は非常に丁寧に仕上げられている。外底部中心に指押さえによる凹みをもつものがみられ、成形時の粘土紐の巻上痕を外底部にとどめるものも多い。105は口径6.8cmの小皿。106・107は土器内耳鍋。やや内傾する口縁の端部を強くナデ、内側と外側につまみ出すように肥厚させている。108は焼塩壺で、体部外面に刻印がある。刻印は不明瞭で判読は難しいが、「堺 泉州麻生 御塩所」の刻印の一部とみられる。109・110は筒形の鉢。109は肥前産陶器で、呉須絵の山水文が描かれ、高台部内面には「清水」の刻印がある。110は瀬戸美濃産陶器で、呉須絵の笹文。高台部に墨書があるが字は不明。111は瀬戸美濃産陶器の鉢で、灰釉に緑釉の流し

掛けが施されている。112は肥前産磁器の染付鉢で、文様は芙蓉手。薄く高い高台が付き、高台部内面は蛇の目剥ぎである。113・114は常滑産の陶器甕の口縁部。115は同甕の底部である。116は瀬戸美濃産陶器の壺で、外面に鉄錆釉が施されている。117・119は肥前産陶器の鉢で、いわゆる刷毛目唐津である。117の内面は、灰釉に白泥の刷毛目を施し、緑釉と鉄釉の流し掛けを施している。外面も灰釉に白泥を施す。119は大型品で、灰釉に白泥の刷毛目を格子状、波状、同心円状に施し、緑釉と鉄釉による流し掛けがされている。118は肥前産の青磁の水盤。見込みに押印が認められる。高台部内面は蛇の目剥ぎで、鉄釉が施されている。120～124は瀬戸美濃産陶器の擂鉢である。口縁部の細かな形態を追うとバリエーションがあるが、おおむね口縁部が拡張され、内面に小さな段を有するものが多く、17世紀代の特徴をもっている。

#### SX01 (第17図 125～129)

常滑産甕の埋設土坑で、甕内部から126～129の陶磁器片が出土している。128・129は明治期の資料であり、明治まで土坑が使用されていたものと考えられる。

125は埋設されていた常滑産陶器の甕で、底部はない。18世紀代に位置付けられる。126は肥前産磁器の小椀。127は瀬戸美濃産陶器の灰釉浅鉢。128・129は明治期の遺物である。

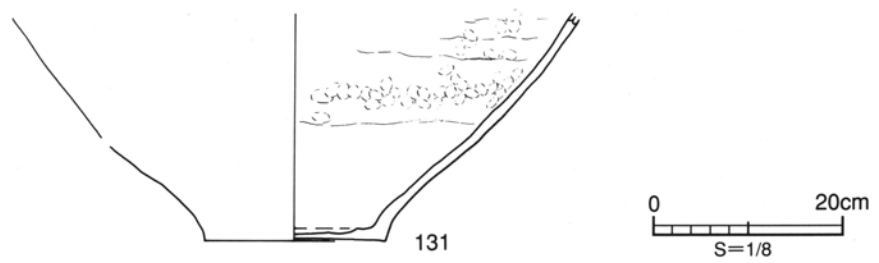
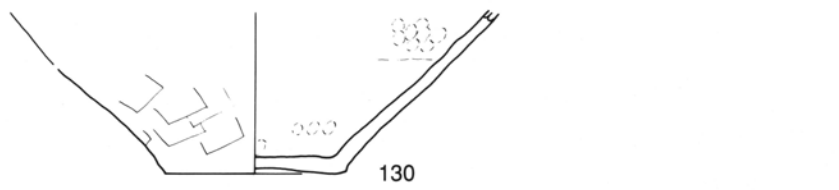
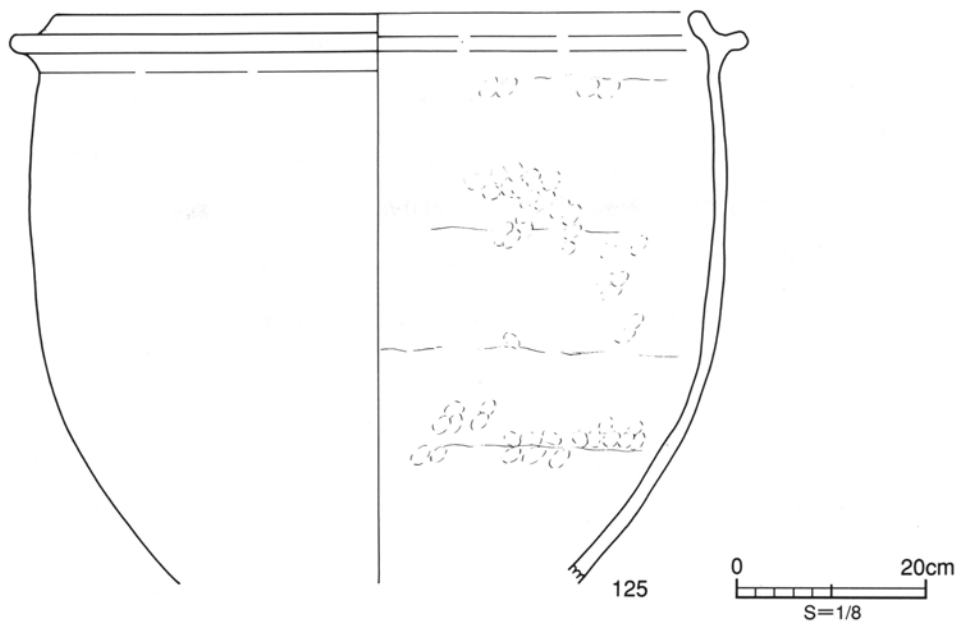
#### SX02・03 (第17図 130・131)

130・131とも常滑産陶器の甕であるが、底部のみであり時期は不明である。

#### その他の遺構・遺構外出土遺物 (第18図)

土坑等出土遺物が少ないもの、検出中に出土した遺構に伴わない資料を一括して掲載する。遺構出土の遺物については、実測図左上に遺構番号を表記している。

132～136は肥前産磁器の染付丸椀。132は草花文、高台部内面に「大明年製」くずしが記されている。133は器壁が薄く高台部のつくりが小さい。外面に草花文、高台部内面に二角渦福が記されている。135は龍唐草文が施されている。136はコンニャク印判による施文。137～140は口径9cmに満たない小椀で、関西系磁器の可能性のあるもの。137と139・140は草花文、138には富士と雁が描かれている。141は瀬戸美濃産磁器の染付椀。142は肥前産磁器の小杯で、笹文が描かれている。143は産地不明の陶器椀。内面と外面口縁部に、灰釉地に鉄釉を刷毛目で施している。144は瀬戸美濃産陶器の丸椀で、呉須、鉄釉による施文。145は瀬戸美濃産陶器の灰釉丸椀で、いわゆる柳茶碗。146は産地不明の灰釉陶器椀。147も産地不明の陶器丸椀で、呉須で稲藁が描かれている。148は灰釉の瀬戸美濃産陶器。呉須で文様が描かれている。149も瀬戸美濃産陶器の筒形椀。150は瀬戸美濃産陶器の椀で、外面体部下半に鉄釉、他は灰釉が施されている。いわゆる鎧椀である。151は肥前産磁器の染付皿で、見込みに手描きの五弁花文、高台部内面に「大明年製」が記されて



第17図 近世の遺物 (6) SX01・02・03

いる。152は瀬戸美濃産陶器の皿で、見込みに鉄釉の施文がある。153は瀬戸美濃産陶器の鉄錆釉の灯明皿。受部は口縁部より低く19世紀代の遺物である。154は瀬戸美濃産陶器で、志野皿。155・156は瀬戸美濃産陶器の皿で、鉄錆釉が施されている。157は瀬戸美濃産陶器の灰釉皿で、口縁部にタール状の炭化物が付着している。158・159は蓋。158は肥前産磁器で氷裂文が描かれている。159は瀬戸美濃産陶器で灰釉。160は肥前産磁器の染付台付椀。161は瀬戸美濃産陶器の鉄釉ひょうそく。底部に回転糸切り痕をとどめ、受部を欠損する。162は瀬戸美濃産陶器の灰釉水滴。163・164は徳利で蜻唐草文が描かれている。163が肥前産磁器、164が瀬戸美濃産磁器である。165は瀬戸美濃産陶器の灰釉双耳壺。底部が穿孔されており、植木鉢に転用されたものと思われる。161は瀬戸美濃産陶器で、灰釉の大型鉢である。167は瀬戸美濃産陶器の鍋。168～171は土師器皿である。168はロクロ成形で、底部に回転糸切り痕をとどめる。169・170は明瞭な底部をもたず不安定な小皿である。171・172は外面に指押さえ痕を残し、底部が穿孔されている。173～175は焼塩壺の蓋。176・177は焼塩壺である。178・179は土錘で、SK205から出土した。

#### 瓦類（第19図 180～186）

近世の平瓦、丸瓦、棧瓦や瓦当を有するもの、熨斗瓦などがある。184は丸瓦の全長のわかる数少ない資料であり長さ25.6cm、凸面は縦方向の篋磨きを施す。凹面は棒状の工具と指の圧痕がみられる。180,182は軒丸瓦瓦当片であり、内区には左巻三巴紋、外区に珠文を配する。181,185,186は棧瓦軒部であり、軒平瓦に唐草文を配する。183は形状より鳥衾の一部と思われる。ただし図版で上部に示す部分に摩滅の痕跡がみられる。

### 第3節 石・金属製品

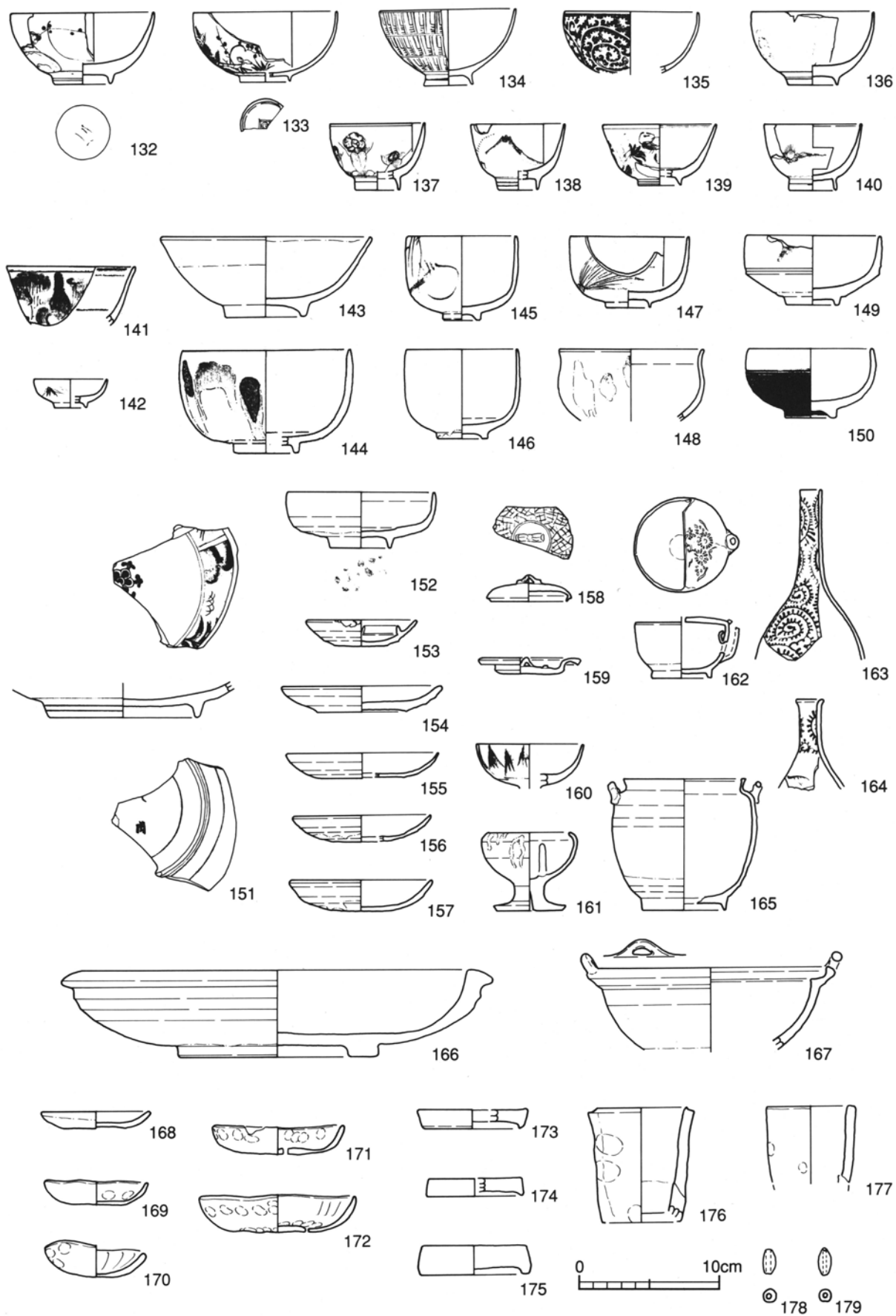
#### 石製品（第20図 1～7）

石製品はそのほとんどが砥石であり、遺構に伴う形では検出されなかった。出土状況より多くは江戸時代に属するものと思われる。なお分布状況について分析は行っていない。

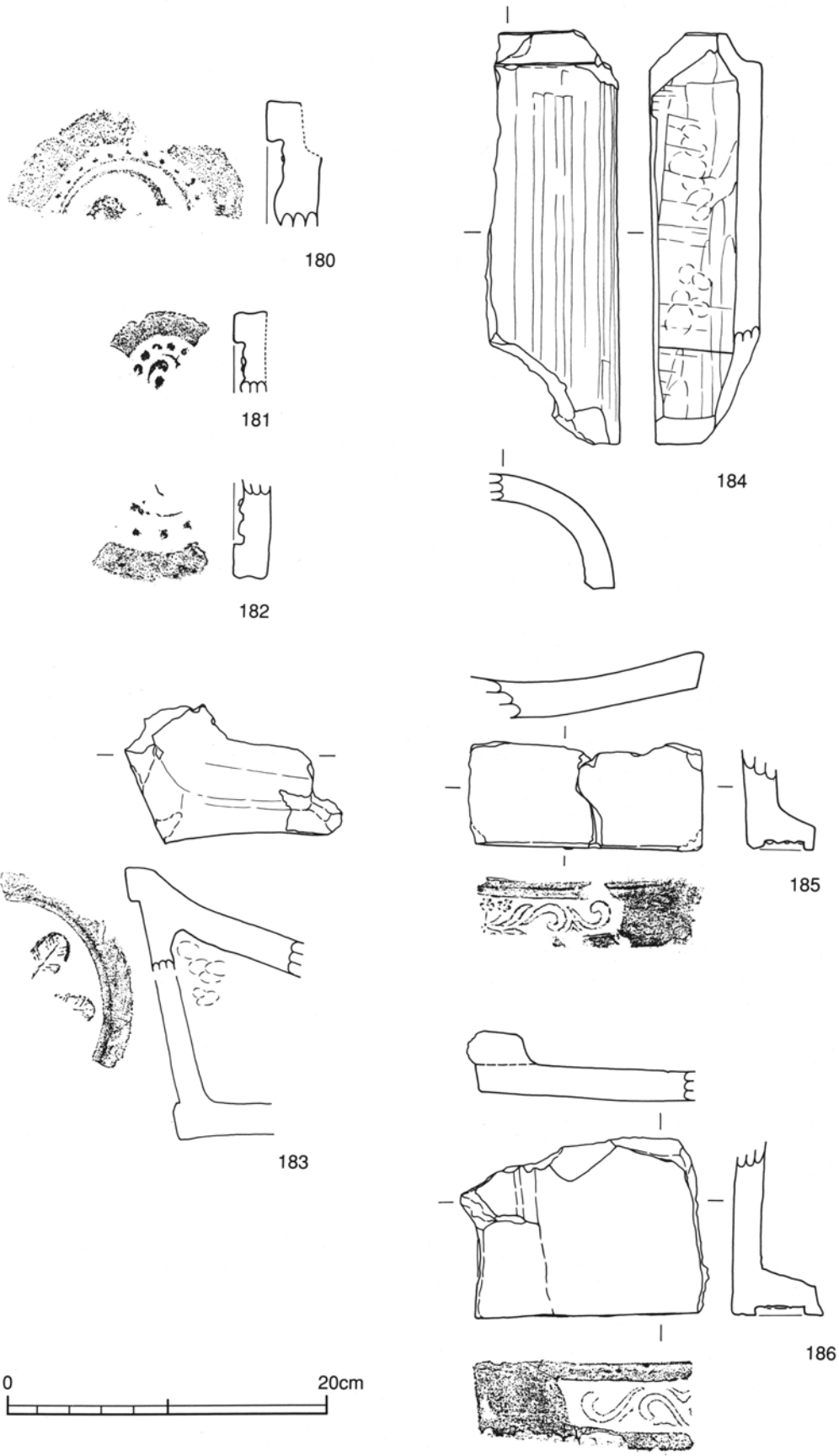
1は薄い板状を呈し、側辺にも研磨の痕跡がある。材質は頁岩。5,6は凝灰質泥岩の方形板状。3は泥質凝灰岩。角柱状で4面の研磨面はいずれも使用によって弧を描くように著しく摩滅している。7はチャート製の火打ち石である。3辺の稜線が使用によって特に著しく潰れており、一方で破損部の縁辺は使用痕がみられない。おそらく小さくなったため廃棄されたと思われる。石材は暗灰色に細かな線が入っている特徴のみられるもので、江戸時代以降の主な生産地であった養老周辺に産するものであろう。

#### 参考文献

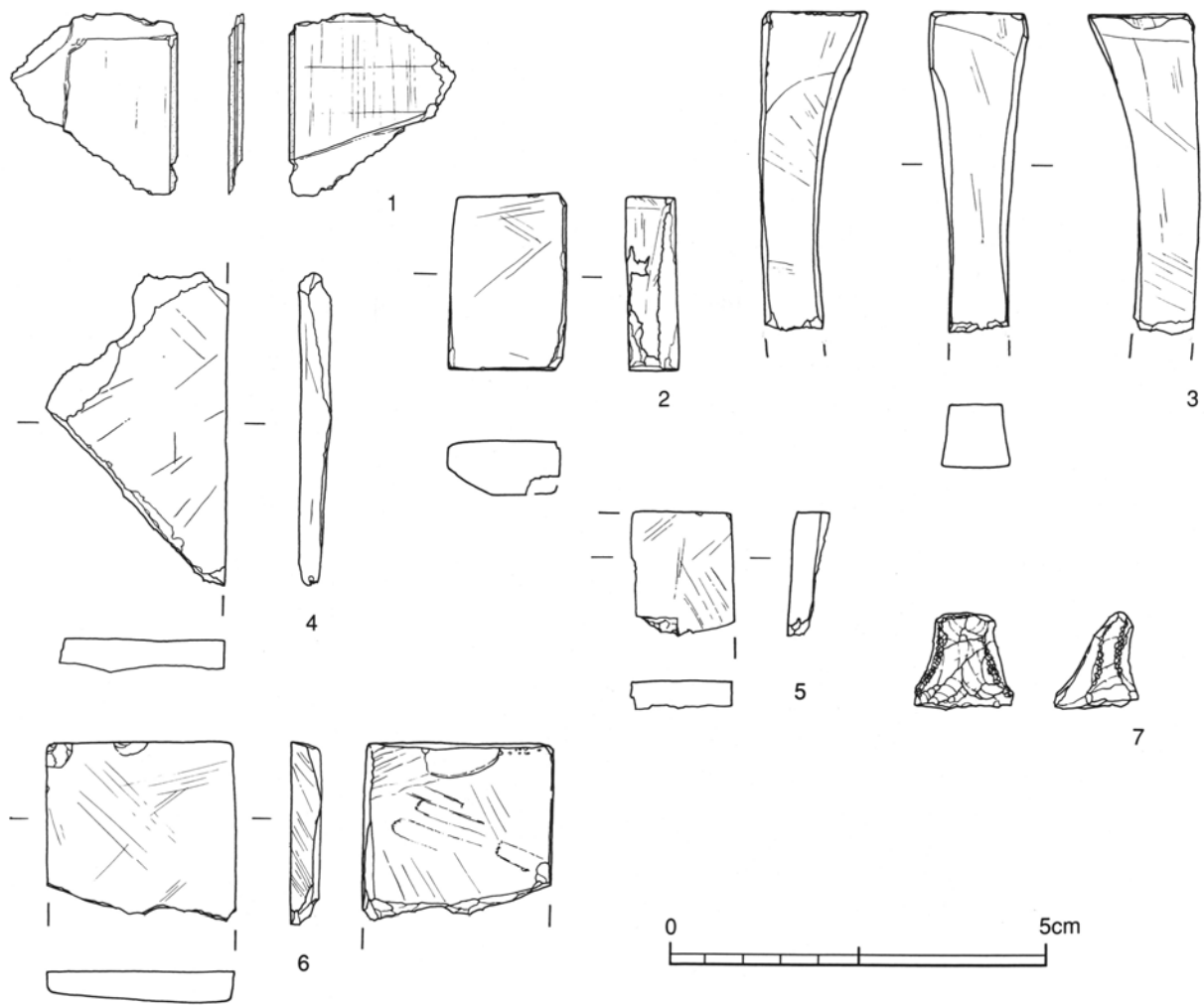
水野裕之 1992「火打ち石一名古屋市の出土品から一」関西近世考古学研究Ⅲ



第18図 近世の遺物 (7) その他 遺構外出土遺物



第19図 近世の遺物 (8) 瓦



第20図 石製品



第21図 金属製品 (銭貨拓影 S=1/1)

金属製品 (第21図 1~4)

出土銭貨は合計5点あり、寛永通寶3点、皇宋通寶1点、判別不明1点であった。寛永通寶はすべて背文なし。その他に図化していないが、金属製品として銃弾の先端部と思われる遺物が多数検出されている。旧陸軍の兵舎に隣接していた射的場に関連するものであろう。



## 第4章 まとめ

以上、平成8年度に実施された発掘調査の概要を報告してきた。最後に本調査の成果を各時代ごとにまとめておきたい。

### 古代

平安時代の建物跡2棟が検出され、古代集落域の一端が明らかになった。出土した遺物は、7世紀から10世紀までの須恵器、灰釉陶器、土師器、瓦があり、9世紀から10世紀代の遺物が主体である。検出された建物跡等の遺構はいずれもこの時期に属す。

吉田城遺跡のこれまでの調査でも、奈良・平安時代の遺物が広い範囲で出土しており、この時期の集落の存在が推定されてきた。しかし、遺物は戦国、江戸時代の遺構に混入して出土するものが多く、当時期の遺構の検出例は決して多くなく、建物等も不明であった。一方、文献の方からは、この地が渥美郡6郷のうち渥美郷の所在地として有力視されており、古代から大きな集落であったと推定されている。今回の発掘調査では、これまで遺構から検証することが難しかった古代の吉田城遺跡に新たな資料を追加することになったが、集落の具体的な様相の解明については今後の課題である。

### 江戸時代

吉田城城下町の基本的な構造は、天正18年(1590)から慶長5年(1600)まで城主であった池田輝正の時期に整備されたものである。江戸時代の城下町については多くの絵図が残されており(現存するもので46点)、表現の違い、精度の差こそあれ、城下町の屋敷割等の情報を得ることができる。本調査地点を対比すると、外堀で区画された城下町の北東部、南北に平行する2条の外堀に挟まれた区域にあたる。

発掘調査では、外堀の一部(SD01)と屋敷地の区画溝(SD04・05)が検出され、調査区が南北2つの屋敷地に相当することが明らかになった。仮に北側の区画を屋敷地1、南側を屋敷地2としておく。屋敷地1の東側には礎石、根石をもつ建物跡1棟(SB02)が確認された。屋敷地2は極一部を発掘したのみで区画内部の構造は明らかでないが、長方形の土坑2基(SK32・SK178)等のゴミ穴あるいは廃棄土坑と考えられる遺構が存在する。出土遺物の多くは陶磁器で、時期は17世紀代から19世紀代まで幅広く出土しているが、18世紀中頃から19世紀代にかけての江戸後期の遺物が主体である。時期の確定できる遺構はほとんどこの時期に属している。ただ、SK178は17～18世紀代の遺物がまとまって出土しており、わずかに出土した19世紀の遺物を混入品と考えれば、本調査では古い時期の遺構とみることができる。東三河事務所地点の調査では、18世紀後葉から末に屋敷割の部分

的な変更があり、遺物群もこの時期を境に大きく分けられることが指摘されている。本調査では遺構の変遷を明らかにしうる資料は得られなかったものの、SK178の事例は東三河事務所地点での調査成果に符合するものと思われる。

屋敷地の居住者については、天保から嘉永（1830～1853）頃と年代がわかり、藩士名も記載されている『吉田藩士屋敷図』（豊橋市美術博物館所蔵）によれば、屋敷地1が「山中七左衛門」、屋敷地2が「天野忠左衛門」に対応すると推定される。（第22図）

## 近代以降

外堀（SD01）や区画溝（SD04・05）からは、江戸時代の遺物に混じって明治期の陶磁器も出土している。明治の地籍図には外堀が記載されており、屋敷地の区画割も江戸時代とそれほど変わっていない。城下町の様相が大きく変わるのは明治18年に歩兵第18聯隊がこの地に設置されてからのことであろう。明治26年に作成された『豊橋町及ヒ下地町近傍地図』には、2条の外堀に挟まれた範囲は「射的場」と記され平地になっており、この頃までには調査地周辺の城下町時代の面影は失われていたようだ。発掘調査では実際に塹壕とみられる溝が検出された。

## 参考文献

- 愛知県教育委員会 1997 『愛知県名古屋市・豊橋市 代替無線統制室建設にともなう埋蔵文化財発掘調査報告書』
- (財)愛知県埋蔵文化財センター 1992 『吉田城遺跡』  
愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第26集
- (財)愛知県埋蔵文化財センター 1995 『吉田城遺跡Ⅱ－愛知県東三河事務所地点の調査－』  
愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第59集
- 川井啓介 1992 「考察」『吉田城遺跡』（財）愛知県埋蔵文化財センター
- 小嶋廣也 1995 「屋敷地の検証」『吉田城遺跡Ⅱ』（財）愛知県埋蔵文化財センター
- 豊橋市教育委員会・豊橋遺跡調査会 1994  
『吉田城址(1)』豊橋市埋蔵文化財調査報告書第21集
- 豊橋市教育委員会 1994 『吉田城いまむかしー吉田城址発掘出土品展ー』
- 豊橋市教育委員会・豊橋遺跡調査会 1995  
『吉田城址（Ⅱ）』豊橋市埋蔵文化財調査報告書第24集



第22図 吉田藩士屋敷図（愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第59集「吉田城遺跡II」より作成）  
 ● 平成8年度調査地点



第23図 吉田城周辺地籍図 (1/5,000)  
 地籍図 (『吉田城址』より転載) および都市計画図 (平成2年測量) より合成

## 補論 吉田城遺跡の中世の井戸から産出した昆虫化石群集とその意義

森 勇一

愛知県立明和高等学校

### 1. はじめに

昆虫の外骨格はキチン質で構成されていて、土中に埋もれてからも長く保存される。地層中に含有される昆虫化石を抽出・分析することにより、植生や水域環境・農耕・人為による土地改変の様子・気候変動など、先史～歴史時代の人々を取りまく古環境が生き生きと復元されることは、筆者らによりこれまでに報告されてきたとおりである（森, 1994a, 1994b, 1997）。

しかるに、明らかに人間の手によって掘削された井戸中に含有される昆虫化石については、その存在はもとより、このような昆虫片を調査・分析する意義、古環境復元への貢献度など、ほとんど議論されたことがなかった。

本論では、豊橋市今橋町に位置する吉田城遺跡の中世の井戸中より発見された昆虫化石群集と、その産出意義について述べる。

### 2. 試料および分析方法

吉田城遺跡は、主に戦国期から江戸時代を中心とした城館・屋敷地・区画溝などからなる複合遺跡である。本遺跡では、1992年度の調査区南西部のI F 10a区より、1基の井戸（SE001）が検出された（第24図）。井戸の大きさは、直径約1.7m、深さ約3.5mのほぼ円筒形であるが、検出面から1～2.5mの部分では掘り広げられ中央部が膨らんだ酒樽状を呈していたとされる（愛知県埋蔵文化財センター, 1995）。その標高は、井戸底付近で+4.5mであった。井戸の掘削年代およびこれが使用された年代は定かではないが、この井戸中より12世紀後半～13世紀前半を示す考古遺物が検出されている（愛知県埋蔵文化財センター, 1995）。昆虫分析試料は、これら考古遺物を含有する層厚約1.0mの暗灰色粘土層上位に堆積した植物片混じり灰褐色シルト層中より抽出されたものである。昆虫分析試料を含む地層は、井戸底より約1.8mの高さに堆積しており、その層厚は約0.5m、水準点標高は地層上面の部分で+7.0mであった。

昆虫化石の抽出は、愛知県埋蔵文化財センターの整理スタッフにより、室内において主に水洗浮遊選別法によって行われたものである。昆虫化石の同定は、筆者採集の現生標本と実体顕微鏡下で1点ずつ比較のうえ実施した。なお、ここに記した昆虫化石の点数はいずれも節片ないし破片数であり、生息していた昆虫の個体数ではない。したがって今回示した昆虫化石中には、種によって同一個体を重複計数している可能性も考えられる。

### 3. 昆虫化石群集

昆虫分析試料は、試料1（S-1）、試料2（S-2）、試料3（S-3）の3ユニットからなり、これらはおそらく採り上げないし抽出時の便宜的なものであるとも考えられる。このため、本論では計数・作表にあたっては分離して考えたが、考察段階では一括して扱った。本分析試料より検出された昆虫化石は、計333点であった（表1）。なお、吉田城遺跡の同じ遺構と思われる井戸からは、堀木（1995）により計68点の昆虫化石が報告されており、これらについても筆者が検出・同定したものであるが、上記の333点には既報の68点は含有されていない。このため、井戸内の灰褐色シルト層中には、本来両者を合計した401点かこれを上回る昆虫化石が含まれていたことが考えられる。これらの昆虫化石のうち、主要なものについて図版1に、実体顕微鏡写真を掲げた。

昆虫化石群集は、全体に雑食性ないし食肉性の地表性歩行虫160点（48.0%）を中心に、陸生の食

植性昆虫 102 点 (30.6%) をまじえる昆虫組成であるといえる。これに 19 点 (5.7%) とわずかの水生昆虫が伴われた。なお、地表性歩行虫の中には、食糞性昆虫 21 点 (6.3%) や、主に屍体・腐肉などに集まる食屍性昆虫 2 点 (0.6%) が含有される。

種組成では、属および種名が未同定のゴミムシ科 Harpalidae (通常“ゴミムシ類”と一括される) を多産した。とくに、試料 2 では本分類群が計 70 点認められ、試料全体の 40.2% を占めた。また、食肉性の地表性歩行虫であるアオゴミムシ属 *Claenius* sp. が試料 1 で 2 点産出したほか、同じく食肉性の地表性歩行虫として知られるナゴゴミムシ属 *Pterostichus* sp. が試料 1 および 2 で各 2 点発見された。雑食性の地表性歩行虫ではツヤヒラタゴミムシ属 *Synuchus* sp. が試料 1 で 1 点、試料 2 で 2 点、トックリゴミムシ属 *Lachnocrepis* sp. が試料 1 で 1 点認められるなど、食肉性ないし雑食性の地表性歩行虫が目立った。また、食糞性の地表性歩行虫では、マグソコガネ *Aphodius rectus* が試料 2 で 2 点、試料 1 および試料 3 で 1 点ずつ検出され、コブマルエンマコガネ *Onthophagus atripennis* が試料 2 で 1 点、エンマコガネ属 *Onthophagus* sp. が試料 1 で 4 点、試料 2 で 5 点で見いだされた。

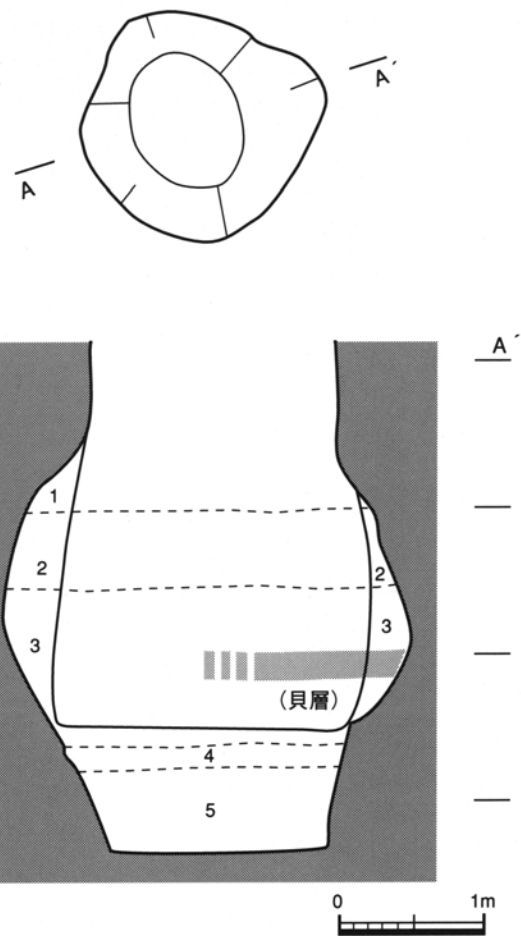
食植性昆虫では、マメ類などの畑作物や果樹などの葉を食害するヒメコガネ *Anomala rufocuprea* が試料 1 (35 点) を中心に計 43 点、ヒメコガネとほぼ同様の生態を有するサクラコガネ属 *Anomala* sp. も試料 1 (7 点) を中心に計 12 点発見された。このほか、ドウガネブイブイ *A. cuprea* が 6 点 (3 試料合計; 以下同様)、スジコガネ亜科が 2 点、ハムシ科 Chrysomelidae が 12 点、オトシブミ科 Attelabidae が 2 点、コメツキムシ科 Elateridae が 9 点、ゾウムシ科 Curculionidae が 3 点産出するなど、陸生の食葉性昆虫も多数確認された。

#### 4. 昆虫相から推定される古環境とその産出意義

##### A. 吉田城遺跡周辺の古環境

昆虫化石の産出点数が少なく、その組成から吉田城遺跡周辺の古環境に関する正確な情報を引き出すことは困難であるが、分析試料中より見いだされた昆虫組成をもとに、鎌倉時代前半 (12 世紀後半～13 世紀前半) における古環境について述べる。

井戸 (SE001) 内の試料からは、複数種の食糞性昆虫、多数の食肉ないし雑食性の地表性歩行虫、およびヒメコガネ・サクラコガネ属をはじめ人里環境を特徴づける昆虫が多数見いだされた。食糞性昆虫や雑食性ないし食肉性のゴミムシ類は、これまで弥生時代では人口集中度の高い大集落の環濠や溝堆積物中 (森, 1994b, 1996b)、奈良・平安時代ではやはり人口密度が高かったと推定される官衙的な遺跡の井戸内堆積物 (森, 1994c, 1996c) より多産している。また、ヒメコガネなどの食葉性昆虫は日本各地の中世以降の地層中で顕著に増加することが知られており (森, 1996a, 1997)、市役所新庁舎建設にあたり豊橋市教育委員会によって実施された吉田城遺跡の 15 世紀後半～16 世紀前半の溝中からも多産している (長谷川, 1994)。このため、吉田城遺跡から発見された昆虫群集は、人間



第24図 SE001平面図・断面図 (1:50)

の居住に伴う周辺地域の人為的攪乱の影響を強く反映している可能性が考えられる。なお、分析試料中より産出したヒメコガネやサクラコガネ属などの食葉性昆虫からは、遺跡周辺に人間が植栽したマメ科植物あるいはブドウ・カキ・クリなどの果樹等が生育していたことを推定させる。

そして、コブマルエンマコガネ・エンマコガネ属・マグソコガネなどの食糞性昆虫やアオゴミムシ属・ナガヒョウタンゴミムシ *Scarites terricola*・ナガゴミムシ属など、今日の人里周辺に普通に認められる食糞性ないし雑食性の地表性歩行虫が多数発見されたことにより、12世紀から13世紀にかけての頃、吉田城遺跡周辺では近現代の農村地帯に見られるような人家と農耕地（畑作地？）が混在する人里生態系がすでに成立していたと考えられる。

#### B. 井戸産出昆虫の研究意義

筆者がこれまで実施してきた昆虫分析にもとづく種々の研究成果は、つまるところ遺跡周辺の堆積物中に含有される昆虫化石が中心になっている。遺跡はいうまでもなく、先史～歴史時代の人類の生活跡であり、そこには少なからず人の干渉や人の影響を受けた植生・水域・地表環境が認められることになる。このようなところに生活した昆虫群が、筆者の研究対象となってきたといえる。遺跡周辺を流れる水路や溝・水田内・土坑などの昆虫群集は、この典型と考えられる。それでは、井戸内群集はどうであろうか。井戸は明らかに人間によって掘削された人為環境である。しかも、人間が必要にせまられて掘り、そこから生活用水を得た場所であることはいうまでもないことであろう。使用中の井戸に生活ゴミなどを投棄することはありえないであろうし、何らかの理由で落ち込んだ異物があればそれを定期的に除去するのも当然の行為と考えてよい。しかるに今回分析対象とした吉田城遺跡の

第2表 吉田城遺跡における昆虫化石分析結果

吉田城遺跡における昆虫化石分析結果

生態	和名	学名	S-1	S-2	S-3	合計	
水生	食肉性	トンボ目		L1		1	
	食植性	ガムシ科	Hydrophilidae	E4 L2			6
		ガムシ セマルガムシ	<i>Hydrophilus acuminatus</i> Motschulsky <i>Coelostoma stultum</i> (Walker)		E1 P3 E5	E1	11
地表性	食糞・食屍性	エンマコガネ属	<i>Onthophagus</i> sp.	T1 E1 L3	P2 A1 L2		10
		コブマルエンマコガネ	<i>Onthophagus atripennis</i> Waterhouse		E1		1
		マグソコガネ属	<i>Aphodius</i> sp.		P3	P1	4
		オオマグソコガネ	<i>Aphodius haroldianus</i> Balthasar		E1		1
		マグソコガネ	<i>Aphodius rectus</i> (Motschulsky)	E1	E2	P1	4
		コマグソコガネ	<i>Aphodius pusillus</i> (Herbst)		E1		1
	食肉・雑食性	シテムシ科	Silphidae		A1	P1	2
		ゴミムシ科	Harpalidae	H7 M2 P1 E11 T4 A2 L5	H6 S1 P15 E20 T7 A14 L7	H1 P1 E1	105
		ナガゴミムシ属	<i>Pterostichus</i> sp.	P2	P2		4
		ツヤヒラタゴミムシ属	<i>Synuchus</i> sp.	E1	E2		3
		トックリゴミムシ属	<i>Lachnocrepis</i> sp.	P1			1
		ナガヒョウタンゴミムシ	<i>Scarites terricola pacificus</i> Bates		P1		1
陸生	食植性	アオゴミムシ属	<i>Chlaenius</i> sp.	E2		2	
		オサムシ科	Carabidae			P1 E4	5
		ハネカクシ科	Staphylinidae	P1 E2 A1	P8 E2 A1	P1	16
		コガネムシ科	Scarabaeidae	P1 S1	P1 A1	E1 A1	6
		スジコガネ亜科	Ruteliae			L2	2
	食肉性	サクラコガネ属	<i>Anomala</i> sp.	L7	P1 E1 L3		12
		ドウガネブイブイ	<i>Anomala cuprea</i> Hope		P1 E4 L1		6
		ヒメコガネ	<i>Anomala rufocuprea</i> Motschulsky	H1 S1 P7 E16 A1 L9	S1 P4 E2	E1	43
		ハナムグリ亜科	Cetoniinae		L1		1
		コアオハナムグリ	<i>Oxycetonia jucunda</i> (Faldermann)		E1		1
		カミキリムシ科	Cerambycidae	L1	P1		2
		ノコギリカミキリ	<i>Prionus insularis</i> Motschulsky	E1			1
		ハムシ科	Chrysomelidae	E7 L1	P1 E4		13
		クワハムシ	<i>Fleutiauxia armata</i> Baly	E1			1
		コマツキムシ科	Elateridae	E3	P1 E4 T1		9
ゾウムシ科	Curculionidae		E3		3		
オトシブミ科	Attelabidae	P1 E1			2		
その他	不明甲虫	Coleoptera	P2 W1 E6 L5 O1	P1 E7 A2 L9 O8		42	
	アリ科	Formicidae	H2		T1	5	
	双翅目	Diptera	W1 C2		C2	5	
総計			139	174	20	333	

(検出部位凡例)

H(Head): 頭部 An(Antenna): 触角 M(Mandible): 大顎 S(Scutellum): 小楯板 PP(Pronotum): 前胸背板 C(Chrysalis): 回蛹  
E(Elytron): 鞘翅 W(Wings): 前翅 T(thorax): 胸部 A(Abdomen): 腹部 L(Legs): 腿関節 O(Other): 部位不明  
ただし、種名を決定していないものについては、点数のみ記入した。



井戸ではどうであろう。井戸内の約1mの堆積物には、12世紀後半～13世紀前半の土器片が混入しているとされる（愛知県埋蔵文化財センター，1995）。これには貝殻やネズミの骨などが含まれており、井戸内には明らかにゴミとしか考えられない異物が投棄されているのである。

これらの行為の背景には、生活水源としての井戸に対する認識の変化があったことが考えられる。たとえば生活集団の移住やライフスタイルの大変化、水源供給の革新など、そこに何らかの画期が存在したことを認めることができる。このこと自体、大変興味のある問題であるが、ともあれこのようにして出現した井戸は、昆虫採集法の一つでもある「ホールトラップ法」に似た格好のトラップとなつて、周辺地域に生息していた生物をきわめて効率よく落ち込ませ、その集積メカニズムを含め大いに研究意欲をかき立てる生物群集を提供している。そして、水温が低く光の届かない古井戸の底は、生き物の死骸を腐敗や分解から守り、長い間保存するのに絶好のタイムカプセルとなつたのである。

井戸内に含有される昆虫群集はいずれをとつても非常に新鮮であり、かつ多くの場合、昆虫化石を含有する地層の年代が考古遺物などで限定され、歴史時代のほぼ一時期ともいえる周辺環境を人為による選択圧のかからない集積システムで集合した群集組成を通して研究できる利点がある。今後は、考古学のみならず文献史学や民俗学・水文学などとも連携をとりながら、先史～歴史時代の井戸内昆虫相を調査し、大いに『古井戸考古学』を追究していかなければならないように思う。

## 5. まとめ

豊橋市吉田城遺跡の中世の井戸中より得られた昆虫化石を同定・分析し、その群集組成から当時の古環境を復元した。鎌倉時代前半の頃（12世紀～13世紀前半）の井戸内堆積物から、複数種の食糞性昆虫、多数の食肉ないし雑食性の地表性歩行虫、およびヒメコガネ・サクラコガネ属をはじめ人里環境を特徴づける食糞性昆虫が見いだされた。この結果、遺跡の周りには近現代の農村地帯に見られるような人家と農耕地が混在する人里空間が展開していたことが考えられる。井戸内の昆虫は保存が良く、同定が容易であるのみならず、挟在する考古遺物などにより限定された時代の周辺環境を忠実に復元することができるうえで意義のあるものといえる。

## 文 献

- 愛知県埋蔵文化財センター（1995）：愛知県埋蔵文化財センター調査報告書（第59集）吉田城遺跡Ⅱ，愛知県埋蔵文化財センター，160p.
- 長谷川道明（1994）：B地区SD11出土の昆虫遺体．豊橋市埋蔵文化財調査報告書第1号，吉田城址（Ⅰ）．豊橋市教育委員会，45-50.
- 森 勇一（1994a）：昆虫化石による先史～歴史時代における古環境の変遷の復元．第四紀研究，33(5)，331-349.
- 森 勇一（1994b）：都市型昆虫の起源－愛知県朝日遺跡における昆虫群集について－．特集・考古遺跡の昆虫遺体，昆虫と自然，29(8)，ニューサイエンス社，4-12.
- 森 勇一（1994c）：石川県金沢市戸水C遺跡の井戸中から産した昆虫群集について．石川県立埋蔵文化財センター年報，14，石川県立埋蔵文化財センター，106-111.
- 森 勇一（1996a）：愛知県一宮市大毛沖遺跡から得られた昆虫群集について．愛知県埋蔵文化財センター調査報告書（第66集）大毛沖遺跡，愛知県埋蔵文化財センター，188-194.
- 森 勇一（1996b）：名古屋西志賀遺跡より得られた昆虫群集について．西志賀遺跡－発掘調査の概要－，名古屋見晴台考古資料館，22-27.
- 森 勇一（1996c）：静岡県川合遺跡（八反田地区）より得られた昆虫群集について．静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告書（第63集）川合遺跡（八反田地区Ⅱ），静岡県埋蔵文化財調査研究所，327-329.
- 森 勇一（1997）：虫が語る日本史－昆虫考古学の現場から．インセクトリウム，34(1)・34(2)，18-23，10-17.





遺構一覽

遺構No	グリッド	長さ	幅	深さ	底レベル	備考	時期	遺構No	グリッド	長さ	幅	深さ	底レベル	備考	時期
SD01	VII G12r	*5.3	*2.8	0.88			江戸	SK058	VII F16t	2.2	*0.7	0.08	9.01		江戸
SD02	VII G13b	*3.7	0.5	0.16			古代	SK059	VII G15a	0.4	0.3	0.22	8.84		
SD03	VII G13b	*2.4	0.3	0.11				SK060	VII G15b	0.6	0.4	0.15	8.94		
SD04	VII F15s-	*13.5	0.8	0.24			江戸	SK061	VII F15t	0.8	*0.4	0.09	8.93		江戸
SD05	VII F15s-	*13.5	1.4	0.18			江戸	SK062	VII G15a	*0.5	0.5	0.03	9.06		
SD06	VII F15b	*2.4	0.2	0.05			江戸	SK063	VII G14b	0.4	0.4	0.12	8.93		
SD07	VII G16c	*1.1	0.5	0.06			江戸	SK064	VII G12d	*1.1	0.8	0.21	8.81	石/SB02	
SD08							近代以降	SK065	VII G13d	1.1	0.9	0.34	8.69	根石・礎石	江戸
SD09							近代以降	SK066	VII G13d	0.8	0.8	0.28	8.75		江戸
SK001	VII G12a	*1.2	*0.6	0.26	8.66	SB01	古代	SK067	VII G13c	0.6	0.5	0.11	8.95	根石・礎石	江戸
SK002	VII G12a	0.8	0.8	0.47	8.66	SB01	古代	SK068	VII G13c	1	0.7	0.29	8.78	礎石	
SK003	VII G13a	0.9	*0.9	0.42	8.6	SB01	古代	SK069	VII G14c	*0.4	*0.7	0.42	8.65		江戸
SK004	VII G13a	0.9	0.9	0.43	8.68	SB01	古代	SK070	VII G14c	0.8	0.8	0.29	8.84	礎石	江戸
SK005	VII F13t	1	0.9	0.34	8.71	SB01	古代	SK071	VII G14d	0.7	*0.5	0.36	8.94	石	江戸
SK006	VII F13t	1	0.9	0.5	8.59	SB01	古代	SK072	VII G14d	0.8	0.7	0.49	8.71		近代以降
SK007	VII F12t	0.9	0.9	0.48	8.61	SB01	古代	SK073	VII G14d	1	0.8	0.38	8.82	礎石	江戸
SK008	VII F12s	1.2	0.6	0.14	8.73		江戸	SK074	VII G14d	0.5	0.5	0.52	8.64		
SK010	VII G13a	0.8	0.7	0.06	9.07			SK075	VII G14d	*0.6	*1.0	0.26	8.9	礎石	江戸
SK011	VII G13b	1.2	*1.1	0.51	8.67	SB01	古代	SK076	VII G14e	0.7	0.5				古代
SK012	VII G14b	*0.6	0.6	0.11	9.03		古代	SK077	VII G14e	0.8	0.8	0.13	9.11		古代
SK013	VII F12t	0.2	0.2					SK078	VII G13e	0.9	0.7	0.46	8.78	根石	江戸
SK014	VII G12a	0.3	0.3	0.19	8.96		江戸	SK079	VII G13e	1.1	0.9	0.49	8.74	根石	江戸
SK015	VII G13a	*0.4	*0.6	0.24	9.92			SK080	VII G13e	1	0.8	0.52	8.71	根石	江戸
SK016	VII G12a	0.3	0.3					SK081	VII G13d	0.7	0.5	0.19	8.95		江戸
SK017	VII G13a	0.4	0.4	0.17	8.94			SK082	VII G13d	0.9	0.6	0.16	8.94		江戸
SK018	VII G13b	*0.7	0.6	0.12	9.06			SK083	VII G13d	1	0.6	0.23	8.96	礎石	江戸
SK019	VII G16b	1.1	0.8	0.28	8.78		江戸	SK084	VII G14d	0.6	0.6	0.41	8.74	SB02	江戸
SK020	VII G13b	*0.7	0.4	0.2	8.97		古代	SK085	VII F15t	*1.7	0.9	0.16	8.9		江戸
SK021	VII G15b	0.4	0.4	0.17	8.84		江戸	SK086	VII F15t	*1.0	0.3	0.07	8.96		江戸
SK022	VII G13b	*0.4	*0.7	0.16	9.03		古代	SK087	VII F15t	*3.0	1	0.18	8.88		江戸
SK023	VII G13b	0.4	0.3				近代以降	SK088	VII F16t	0.2	0.2	0.05	9		近代以降
SK024	VII G13b	0.3	0.2	0.34	8.83			SK089	VII G15a	0.4	*0.3	0.1	9.01		
SK025	VII G13a	*1.0	0.6	0.23	8.91			SK090	VII G14b	*0.6	0.6	0.25	8.81		古代
SK026	VII G14b	*0.4	0.5	0.11	9.03		古代	SK091	VII F16t	0.4	*0.3	0.2	8.89		
SK027	VII G15b	*0.5	0.6	0.36	8.69		古代	SK092	VII F14t	0.3	0.3	0.21	8.92		江戸
SK028	VII G16b	0.5	0.5	0.22	8.9		江戸	SK093	VII F14t	0.5	0.4	0.23	8.77		
SK029	VII G16b	0.6	0.2	0.11	8.99			SK094	VII F14t	0.6	0.4	0.1	8.93		江戸
SK030	VII G16a	0.2	0.2	0.12	8.97			SK095	VII F14t	0.3	0.3	0.23	8.87		江戸
SK031	VII G16b	0.3	0.3	0.13	8.92			SK096	VII F14t	*0.4	0.2	0.27	8.86		
SK032	VII G16a	*2.0	2.4	1.39	8.67		江戸	SK097	VII G15a	0.2	0.2				
SK033	VII G16a	0.3	0.2	0.07	8.96			SK098	VII F14t	*0.5	0.4	0.3	8.76		
SK034	VII G16a	0.4	*0.3					SK099	VII G15a	0.8	0.7	0.49	8.54	SB03	古代
SK035	VII G16b	0.5	0.4	0.13	8.95			SK100	VII G14c	*0.4	0.6	0.27	8.89		江戸
SK036	VII G16a	0.4	0.4	0.1	8.97			SK101	VII F15t	0.8	0.7	0.13	8.82		古代
SK037	VII G16b	0.5	0.4	0.25	8.83			SK102	VII G13d	0.2	0.2	0.03	9.19		
SK038	VII G15b	0.2	0.2	0.07	9.13			SK103	VII G14e	0.8	0.7	0.51	8.75	石	江戸
SK039	VII G15b	*0.4	0.4	0.43	8.56		近代以降	SK104	VII G13e	0.7	0.5	0.22	9.03	石	江戸
SK040	VII G15a	0.3	0.3	1.15	8.85			SK105	VII G13e	*0.4	0.4	0.12	9.11		
SK041	VII F16s	0.7	*0.3	0.12	9.02			SK106	VII G13e	0.3	0.2	0.05	9.11		
SK042	VII G15b	0.5	0.5	0.07	8.99		江戸	SK107	VII G13d	*1.1	1	0.05	9.14		古代
SK043	VII G16b	1	*0.3	0.58	8.52			SK108	VII G13e	0.3	0.2	0.06	9.16		江戸
SK044	VII G15a	0.3	0.2	1.28	8.78			SK109	VII G14c	0.6	0.5	0.05	9.02		
SK045	VII G15a	0.7	0.3	0.07	9.02		近代以降	SK110	VII G13d	0.4	0.3	0.22	8.93		江戸
SK046	VII G15a	0.3	0.3	0.41	8.61			SK111	VII G13d	*0.2	0.2	0.1	9.06		
SK047	VII F16t	0.3	0.3	0.14	8.95			SK112	VII G13d	0.5	0.4	0.08	8.99		
SK048	VII F16t	0.6	0.3	0.1	9.01		江戸	SK113	VII G14d	0.5	0.4	0.31	8.89		
SK049a	VII F16s	0.6	0.6	0.07	9.02			SK114	VII G13e	0.5	0.4	0.06	9.14		
SK049b	VII G16a	0.7	0.7	0.23	8.61			SK115	VII G13e	0.2	0.2	0.08	9.19		江戸
SK050	VII F15s	*0.7	*0.8	0.1	8.95		江戸	SK116	VII G14d	0.2	0.2	0.25	8.94		江戸
SK051	VII G15b	0.3	*0.3					SK117	VII G13e	0.6	0.4	0.12	9.11		
SK052	VII G15b	*0.3	*0.2					SK118	VII G13e	0.3	0.3				
SK053	VII G15b	1.1	0.5	0.3	8.77	石	江戸	SK119	VII G13e	0.5	0.4	0.18	9.03		江戸
SK054	VII G14a	0.3	0.2	0.28	8.85			SK120	VII G14d	0.7	0.5	0.18	9.05		
SK055	VII G14a	0.3	0.3	0.07	9.07			SK121	VII G14d	0.9	0.7	0.14	9.02		古代
SK056								SK122	VII G14d	0.5	0.4	0.33	8.84		
SK057	VII G15a	0.6	*0.2	0.06	9.04		江戸	SK123	VII G14e	0.4	0.4	0.17	8.95		

遺構No	グリッド	長さ	幅	深さ	底レベル	備考	時期	遺構No	グリッド	長さ	幅	深さ	底レベル	備考	時期
SK124	VII G13e	*0.7	0.6	0.28	8.99		江戸	SK191	VII G16d	0.7	*0.5	0.13	8.93		江戸
SK125	VII G13e	0.4	0.3	0.07	9.17			SK192	VII G15e	0.9	0.8	0.62	8.55		江戸
SK126	VII G13e	*0.5	0.5	0.2	8.96		古代	SK193	VII G16c	0.6	0.6	0.2	8.88		江戸
SK127	VII G13e	0.3	0.3	0.1	9.07			SK194	VII G16d	0.3	0.3				江戸
SK128	VII G13e	0.3	0.2	0.09	9.15			SK195	VII G15d	0.9	0.4	0.22	8.93		江戸
SK129	VII G15f	1.7	0.9	0.09	9			SK196	VII G15d	0.7	0.6	0.34	8.83		
SK130	VII G14e	0.9	0.6	0.23	9.01		戦国以降	SK197	VII G15d	0.2	0.2	0.22	8.93		
SK131	VII G13e	0.4	0.4	0.11	9.13			SK198	VII G15d	0.3	0.3				江戸
SK132	VII G14e	0.4	0.3	0.19	9.01		江戸	SK199	VII G15d	0.3	0.3	0.15	8.99		
SK133	VII G14c	0.6	0.3	0.11	8.88			SK200	VII G15d	0.4	0.4	0.11	9.03		江戸
SK134	VII G15e	0.4	0.4	0.3	8.87			SK201	VII G16d	0.5	0.4	0.12	9.02		江戸
SK135	VII G15e	*2.2	1	0.17	8.96		江戸	SK202	VII G15d	0.2	0.2	0.11	9		江戸
SK136	VII G15e	1.5	1.1	0.12	8.98		江戸	SK203	VII G15d	*0.3	0.4	0.18	8.92		江戸
SK137	VII G12c	0.5	0.4	0.14	8.82		江戸	SK204	VII G16d	0.4	0.3	0.1	9.02		江戸
SK138	VII G15f	*1.1	0.6				江戸	SK205	VII G15d	1	*0.7	0.16	8.99		古代
SK139	VII G15c	*2.9	1	0.13	8.95		江戸	SK206	VII G16c	*0.5	0.7	0.09	8.98		江戸
SK140	VII G15c	0.9	0.8	0.25	8.83			SK207	VII G15d	*0.4	0.3	0.23	8.92		江戸
SK141	VII G13d	0.5	0.4	0.16	8.89			SK208	VII G14f	0.8	0.8	0.62	8.54		近代以降
SK142	VII G12c	0.5	0.4					SK209	VII G16d	0.3	0.1	0.16	9.08		
SK143	VII G15e	0.4	0.4	0.14	8.99			SK210	VII G14c	*0.3	0.2	0.1	8.87		
SK144	VII G15e	*1.5	*1.5	0.06	9		江戸	SK211	VII G16d	1.5	0.3	0.13	9.01		
SK145	VII G15c	1.8	0.3	0.07	9.1			SK212	VII G15a	0.3	0.3	0.24	8.85		
SK146	VII G15c	0.2	0.2	0.08	9.05			SK213	VII F14t	0.7	0.6	0.27	8.85		
SK147	VII G15e	0.7	0.4	0.06	9.06		古代	SK214	VII G15b	0.4	0.4	0.16	8.9		江戸
SK148	VII G15e	0.3	0.2	0.1	9.02			SK215	VII F14t	1	0.3	0.08	9.03		
SK149	VII G15e	2	0.3	0.07	9.05			SK216	VII G16d	1.7	1.2	0.01	9.14		江戸
SK150	VII G15e	0.6	0.5	0.2	8.88		江戸	SK217	VII G16d	*2.2	1.1				江戸
SK151	VII G15e	0.3	0.2	0.28	8.88			SK218	VII G16d	0.4	0.4	0.19	8.93		
SK152	VII G15e	0.4	0.3	0.31	8.86		江戸	SK219	VII G16d	0.5	0.4	0.08			
SK153	VII G16e	0.7	0.4	0.09	9.01		江戸	SK220	VII G13b	0.8	0.7	0.44		SB01	古代
SK154	VII G15d	*0.4	*0.4	0.15	9		江戸	SK221	VII G16d	1.1	*0.6	0.19			
SK155	VII G16d	0.3	0.3	0.12	9.02		江戸	SK225	VII F13s	0.8	0.4	0.08	8.67		
SK156	VII G15e	*0.3	*0.2					SK252	VII F12t	0.7	0.5	0.16	8.76		
SK157	VII G15e	0.3	0.2					SK253	VII F13t	0.3	0.2	0.25	8.87		
SK158	VII G15d	0.3	0.2	0.47	8.69			SK254	VII F13t	0.3	0.3	0.06	8.88		
SK159	VII G15e	0.2	0.2	0.19	8.93			SK255	VII F13t	0.3	0.3	0.26	8.7		
SK160	VII G15d	0.8	0.7	0.13	9.02		古代	SK256	VII F13t	0.2	0.2	0.24	8.73		
SK161	VII G15d	0.5	0.5	0.28	8.88			SK257	VII F13t	0.3	0.2	0.2	8.77		
SK162	VII G15d	0.2	0.2					SK258	VII G13a	0.2	0.2	0.14	8.96		
SK163	VII G16c	0.3	0.3	0.07	9.05		江戸	SK259	VII G12a	*0.8	*0.3	0.08	9.07		
SK164	VII G15c	*0.4	0.4	0.02	9.16			SK260	VII G13a	*0.6	*0.3				
SK165	VII G16d	*0.4	0.3	0.05	9.1		江戸	SK261	VII G13a	0.7	0.3	0.11	9.03		
SK166	VII G15c	*0.8	*0.4	0.33	8.78			SK262	VII G13a	0.3	0.3	0.11	9.01		
SK167	VII G15e	0.5	0.5	0.13	9.02			SK263	VII G12a	0.2	0.2	0.13	8.99		
SK168	VII G15d	0.4	0.3				江戸	SK264	VII G13a	0.3	0.2	0.27	8.9		
SK169	VII G16d	*0.6	0.6	0.19	8.9		江戸	SK265	VII G13a	0.2	0.2	0.08	9.06		
SK170	VII G15d	0.5	0.5	0.52	8.63			SK266	VII G13b	0.4	0.3	0.06	9.13		
SK171	VII G16d	0.3	0.3	0.21	8.9			SK267	VII G13b	*0.4	0.3	0.12	9.03		
SK172	VII G15c	0.7	*0.4	0.35	8.83			SK268	VII G13b	0.4	0.3	0.2	8.96		
SK174	VII G16d	0.3	0.2	0.28	8.84			SK269	VII G13b	0.5	*0.3				
SK175	VII G16d	0.5	0.4	0.23	8.83		江戸	SK270	VII F14t	0.3	0.2	0.08	9.05		
SK176	VII G15e	0.3	0.2	1.11	9.02			SK271	VII F14t	0.3	0.2	0.07	9.01		
SK177	VII G15d	0.5	0.3	0.13	9.02		江戸	SK272	VII F14t	0.2	0.2	0.07	8.99		
SK178	VII G16d	*4.5	*2.0	0.45	8.59			SK273	VII F14t	0.2	0.1	0.08	9.01		
SK179	VII G16c	1	0.5	0.05	9		江戸	SK274	VII F16s	0.5	0.4	0.08	9.01		
SK180	VII G16c	0.7	0.5	0.18	8.88		江戸	SK275	VII F16s	0.4	*0.3	0.09	9		
SK181	VII G16c	1.5	0.2	0.03	9.03		江戸	SK276	VII F16t	0.4	0.3	0.01	9.09		
SK182	VII G16d	0.7	*0.4	0.13	8.98			SK277	VII G14b	0.4	0.3	0.23	8.88		
SK183	VII G16d	0.5	0.4	0.08	9.04		江戸	SK278a	VII G15a	0.7	0.4	0.06	9		
SK184	VII G16d	0.5	0.4	0.17	8.92		江戸	SK278b	VII G13d	0.5	0.4	0.27	8.75		
SK185	VII G16c	0.3	*0.2	0.09	8.96			SK279	VII G15b	0.2	0.2	0.07	9.05		
SK186	VII G15d	0.4	0.4	0.28	8.82		江戸	SK280	VII G15a	0.5	0.3	0.031	8.72		
SK187	VII G16c	0.9	0.7	0.13	8.97		江戸	SK281	VII G15a	0.4	0.3				
SK188	VII G16d	*2.8	0.5	0.07	9.02		江戸	SK282	VII G15b	0.6	0.3	0.1	8.98		
SK189	VII G15d	0.8	0.6	0.31	8.85		江戸	SK283	VII G15b	*0.3	0.3	0.06	9.03		
SK190	VII G15d	0.3	0.3	0.17	8.95		江戸	SK284	VII G15b	*0.3	0.3	0.01	8.94		

遺構No	グリッド	長さ	幅	深さ	底レベル	備考	時期	遺構No	グリッド	長さ	幅	深さ	底レベル	備考	時期
SK285	VII G16b	0.4	*0.3	0.08	9.01			SK352	VII G13f	0.5	0.4	0.17	8.93		
SK286	VII G16a	0.2	0.2	0.12	8.95			SK353	VII G13f	0.3	0.2	0.05	9.07		
SK287	VII G16b	*0.4	*0.3	0.04	8.99			SK354	VII G13f	0.2	0.2	0.03	9.05		
SK288	VII G16b	0.2	0.2					SK355	VII G14f	0.8	*0.5	0.17	8.98		
SK289	VII G16b	0.5	0.4	0.62	8.38			SK356	VII G14f	0.2	0.2	0.07	9.08		
SK290	VII G16b	0.4	0.4	0.12	8.91			SK357	VII G14e	0.4	0.3				
SK291	VII G13c	0.5	0.4	0.18	8.84			SK358	VII G14c	*0.3	0.3	0.38	8.71		
SK292	VII G13c	*0.6	0.5	0.24	8.95			SK359	VII G14c	0.8	0.4	0.2	8.9		
SK293	VII G13c	0.6	0.4	0.12	8.94			SK360	VII G15c	0.2	0.2	0.09	9		
SK294	VII G14c	*0.5	0.3	0.16	8.78			SK361	VII G14c	0.4	0.4	0.07	9.1		
SK295	VII G14c	0.5	0.5	0.17	8.9			SK362	VII G14d	0.2	0.2	0.11	9.05		
SK296	VII G14c	0.4	*0.3	0.14	8.93			SK363	VII G15c	0.2	0.2	0.02	9.13		
SK297	VII G14c	0.4	*0.2	0.05	8.93			SK364	VII G15c	0.2	0.2	0.1	9.09		
SK299	VII G14d	0.7	0.5	0.09	8.99			SK365	VII G15c	0.3	0.2	0.32	8.74		
SK300	VII G13d	0.5	0.5	0.08	8.95			SK366	VII G15c	0.6	0.6	0.1	8.93		
SK301	VII G13d	0.2	0.2	0.07	9.01			SK367	VII G16c	0.2	0.2	0.03	9.05		
SK302	VII G13d	0.2	0.2	0.08	9.05			SK368	VII G16c	0.3	0.2	0.22	8.89		
SK303	VII G13d	*0.4	0.3	0.06	9.08			SK369	VII G15c	0.3	0.2	0.11	8.94		
SK304	VII G13d	*0.3	0.3	0.08	9.02			SK370	VII G15d	0.2	0.2	0.1	9.08		
SK305	VII G13d	0.2	0.2	0.05	9.17			SK371	VII G15d	0.5	0.3				
SK306	VII G13d	*0.2	0.2	0.12	9.02			SK372	VII G16d	0.3	0.3	0.08	9.1		
SK307	VII G13d	0.2	0.2	0.09	9.07			SK373	VII G16d	0.4	0.3	0.18	8.93		
SK308	VII G14d	0.3	0.2	0.11	9.07			SK374	VII G16d	0.3	0.3	0.18	8.98		
SK309	VII G13d	*0.3	0.3	0.11	9.11			SK375	VII G15e	0.6	0.5	0.27	8.86		
SK310	VII G13d	0.3	0.2					SK376	VII G15e	0.2	0.2	0.08	9.04		
SK311	VII G14d	0.4	0.4	0.28	8.89			SK377	VII G15e	0.8	0.6	0.11	9.1		
SK312	VII G14d	0.3	0.2	0.09	9.11			SX01	VII G16c	*0.7	*0.7	0.48			
SK313	VII G14d	0.2	0.2					SX02	VII F15t	0.8	0.7	0.13			
SK314	VII G14e	0.4	*0.2	0.14	9.08			SX03	VII F15t	0.5	0.4	0.06			
SK315	VII G14e	0.2	0.2	0.05	9.2			SX04	VII F12s	6.7	1.1	0.67			
SK316	VII G13e	0.2	0.2	0.04	9.21										
SK317	VII G14e	0.2	0.2												
SK318	VII G14e	0.2	0.2	0.05	9.2										
SK319	VII G14e	0.2	0.2	0.06	9.21										
SK320	VII G13e	0.6	0.4	0.07	9.2										
SK321	VII G13e	0.3	0.2	0.09	9.2										
SK322	VII G13e	0.2	0.1	0.08	9.17										
SK323	VII G13e	0.6	0.3	0.1	9.13										
SK324	VII G13e	0.3	0.2	0.27	8.96										
SK325	VII G13e	0.2	0.1												
SK326	VII G13e	0.4	0.4	0.12	9.12										
SK327	VII G13e	0.6	0.2	0.09	9.15										
SK328	VII G13e	0.2	0.2	0.05	9.19										
SK329	VII G13e	0.3	0.3	0.09	9.15										
SK330	VII G13e	0.2	0.2												
SK331	VII G13e	0.3	0.2	0.05	9.11										
SK332	VII G13e	0.2	0.2												
SK333	VII G13e	0.2	0.2	0.07	9.14										
SK334	VII G13e	0.4	0.3	0.02	8.89										
SK335	VII G13e	*0.4	0.4	0.09	9.03										
SK336	VII G13e	0.3	0.2	0.18	9.07										
SK337	VII G13e	0.3	0.2	0.06	9.11										
SK338	VII G13e	0.2	0.2	0.07	9.03										
SK339	VII G13e	*0.3	0.2	0.07	9.09										
SK340	VII G13e	0.3	0.3												
SK341	VII G13e	0.4	0.4	0.17	8.99										
SK342	VII G13e	0.2	0.1	0.04	9.14										
SK343	VII G13e	0.4	0.4	0.03	9.02										
SK344	VII G13e	0.3	0.3	0.07	9.11										
SK345	VII G13e	0.5	0.4	0.27	8.97										
SK346	VII G13e	0.2	0.1												
SK347	VII G13e	*0.6	0.4	0.2	9.02										
SK348	VII G13e	*0.4	0.3	0.1	9.14										
SK349	VII G13e	0.3	0.3	0.1	9.14										
SK350	VII G13e	0.2	0.2	0.07	9.17										
SK351	VII G14e	0.3	0.2	0.17	9										

遺物登録一覧

図版番号	遺構番号	グリッド	材質	器種	口径(cm)	底径	器高	残存/12	産地	E-
1	SK49	VII F16t	須恵器	杯蓋	-	-	*1.2		湖西	1
2	SK02	VII G12a	須恵器	蓋	13	-	*1.1	3	湖西	2
3	SK220	VII G13b	須恵器	蓋	-	-	*1.8		湖西	3
4	SK05	VII F13t	須恵器	蓋	10.4	-	2.4	2	湖西	4
5	SK04	VII G13a	須恵器	蓋	15	-	*1.1	1	猿投	5
6	SK07	VII F12t	須恵器	蓋	16.8	-	5.4	1	湖西	6
7	SK04	VII G13a	須恵器	杯	9.8	6.4	3.5	1	湖西	7
8	SD02	VII G14b	須恵器	皿	14.6	6.6	3.1	7	猿投	8
9	SK27	VII G15b	灰釉	椀	14.6	-	*2.1	2	二川	9
10	SK22	VII G13b	灰釉	椀	-	9	*3.3		二川	10
11	SK22	VII G13b	灰釉	椀	14.2	7.2	6	1	二川	11
12	SK22	VII G13b	灰釉	皿	12.4	6	2.5	2	二川	12
13	SD02	VII G13b	灰釉	手付小瓶	3.6	-	*2.3	12	猿投	13
14	SK06	VII F13t	須恵器	長頸瓶	-	6	*4.2		猿投	14
15	SK06	VII F13t	土師器	甕	14	-	*2.2	1	三河型	15
16	SK07	VII F12t	土師器	甕	11.4	-	*3.0	3	三河型	16
17	SD02	VII G14b	土師器	甕	22.2	-	*4.7	3		17
18	SK22	VII G13b	土師器	鍋	23	-	*3.6	3	清郷型	18
19	SK06	VII F13t	須恵器	短頸壺	12	-	*3.5	3	湖西	19
20	攪乱	VII G14e	須恵器	杯蓋	10.8	-	3.6	2	湖西	20
21	検 I	VII G14d	須恵器	蓋	8.6	-	*1.3	2		21
22	検 I	VII G14d	須恵器	蓋	10.8	-	3.4	12	湖西	22
23	検 I	VII G13d	須恵器	蓋	11	-	*2.5	3	湖西	23
24	検 I	VII F13t	須恵器	蓋	-	-	*1.7		猿投	24
25	検 I	VII F13r	須恵器	無台杯	-	7.2	*3.0		湖西	25
26	検 I	VII G14d	須恵器	鉢	13	-	*4.9	1	湖西	26
27	SK126	VII G13e	須恵器	鉢	13.6	5.2	4.7	3	湖西	27
28	検 I	VII G13b	灰釉	皿	14	7.2	2.6	4	二川	28
29	SK93	VII F14t	土師器	甕	17	-	*5.5	1	三河型	29
30	検 I	VII G14c	土師器	鍋	22.6	-	*5.4	2	清郷型	30
31	検 I	VII G14d	土師器	鍋	-	-	*7.0	1	清郷型	31
32	検 I	VII G13d	須恵器	甕	24.6	-	*8.2	4	湖西	32
33	検 I	VII G15e		平瓦						33

図版番号	遺構番号	グリッド	産地	材質	器種	口径	底径	器高	残存/12	釉薬	E-
34	SD01	VII F12r	瀬戸	磁	小杯?	6.4	3.1	2.1	4	呉須	34
35	SD01中位②	VII F12r	美濃	陶	灯明皿	8.6	-	*1.6	1	鉄釉	35
36	SD01下位②	VII F12r	美濃	陶	灯さん	7.4	4.2	1.4	6	鉄釉	36
37	SD01中位②	VII F12r	美濃	陶	灯明皿	8.1	4.7	1.6	5	鉄釉	37
38	SD01上位①	VII F13r	瀬戸	陶	双耳壺	6.6	-	*6.4	5	灰釉	38
39	SD01下位①	VII F12r	瀬戸	陶	鉢	23.4	-	*14.2	3	灰釉	39
40	SD01	VII F12r		陶	瓦						40
41	SD04	VII F15t	肥前	磁	椀	9.6	3.4	4.7	3	呉須	41
42	SD04	VII G15a	肥前	磁	椀	9	-	*5.6	2	呉須	42
43	SD04	VII G15a	京都	陶	椀	9.4	3	5.6	3	灰釉	43
44	SD04	VII G15a	瀬戸	陶	椀	9.8	4.8	7	2	灰釉	44
45	SD04	VII G15a	肥前	磁	皿	13.4	9	2.6	2	呉須	45
46	SD04	VII G15b	瀬戸	陶	皿	-	6.8	*1.5		灰釉・呉須	46
47	SD04	VII G15a	肥前	磁	皿	15.2	8.8	3.7	3	呉須	47
48	SD04	VII G15a	瀬戸	陶	鉢	-	11.8	*7.3		鉄釉	48
49	SD04	VII G15a	不明	磁	鉢	21.6	8.2	8.4	2	呉須	49
50	SD04	VII F15t	瀬戸	陶	播鉢	9.6	8.4	6.5	3	錆釉	50
51	SD04	VII G15a	瀬戸	陶	播鉢	-	9	9.7		錆釉	51
52	SD04	VII G15a		土	焙烙	32.2	-	*4.7	3		52
53	SD04	VII G15a		磁	壺	4.5	-	*14.8	12		53
54	SD04	VII G15a		磁	壺	6	-	*7.7	12		54
55	SD04	VII G15a	肥前	磁	仏飯具	-	4.6	*4.6			55
56	SD04	VII G15a			丸瓦						56
57	SD05	VII G15a	肥前	磁	椀	9.9	4	5.6	2	呉須	57
58	SD05	VII F15t	肥前系	磁	筒型椀	-	3.6	*3.3		呉須	58
59	SD05	VII G15a		磁	小杯?	-	2	*2.4			59
60	SD05	VII G15a	瀬戸	陶	皿	13.6	6.8	3.7	5	呉須	60
61	SD05	VII G15b	瀬戸	陶	皿	13.9	8	3.7	1	呉須	61
62	SD05	VII G15b	肥前	磁	皿(型うち)	10	6.2	2.6	8	呉須	62
63	SD05	VII G15b	肥前	磁	蓋	9.8	5.2	2.3	5	呉須	63
64	SD05	VII G15a	瀬戸	磁	鉢(八角形)	-	7.2	*5.8		呉須	64
65	SD05	VII G15a		陶	播鉢	36.2	15.5	13.9	6	錆釉	65
66	SD05	VII G15b			棧瓦瓦当						66
67	SD05	VII G15a			丸瓦						67
68	SK178	VII G16d.e	瀬戸	磁	椀	8.8	3	5.1	3	呉須	68
69	SK178	VII G16d	瀬戸	磁	椀	14	3.4	5.1	5	呉須	69

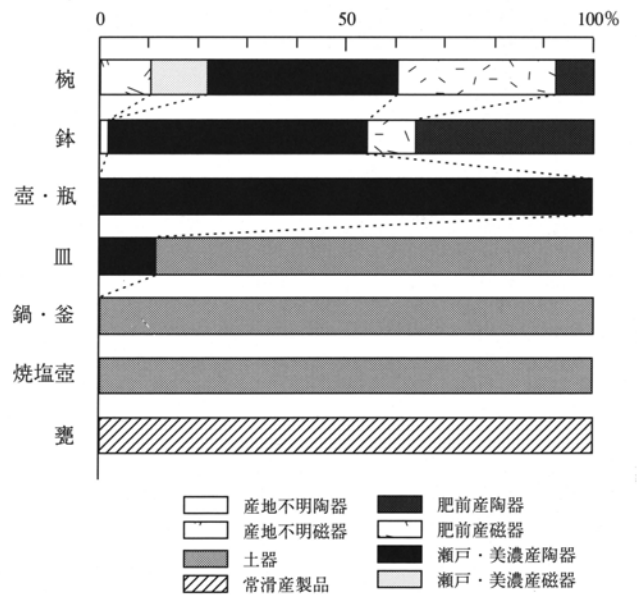
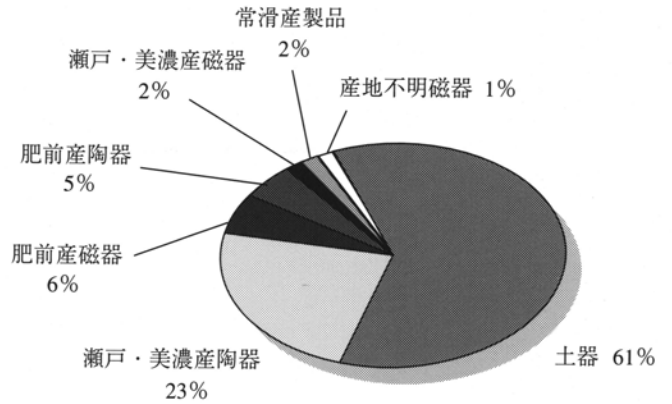
図版番号	遺構番号	グリッド	産地	材質	器種	口径	底径	器高	残存/12	釉薬	E-
70	SK178	VIIIG16d.e	肥前系	磁	碗	-	3.8	*2.9		呉須	70
71	SK178	VIIIG16d.e	肥前系	磁	碗	-	3.2	*4.5		呉須	71
72	SK178	VIIIG16d	肥前系	磁	碗	10	-	*5.9	3	呉須	72
73	SK178	VIIIG16d	美濃	陶	天目碗	11.2	7	6.5	5	鉄釉	73
74	SK178	VIIIG16d.e	瀬戸	陶	天目碗	-	4.4	*3.5		鉄釉	74
75	SK178	VIIIG16d	瀬戸	陶	筒型碗	-	3.6	*3.9		呉須	75
76	SK178	VIIIG16e	瀬戸	陶	その他	11.7	-	7.5	4	鉄釉	76
77	SK178	VIIIG16d	瀬戸	陶	丸碗	-	5.4	*4.3		灰釉	77
78	SK178	VIIIG16e	肥前系	陶	丸碗	11.4	5	6.5	5		78
79	SK178	VIIIG16d.e	肥前	陶	碗	-	4.8	*4.1			79
80	SK178	VIIIG16e	肥前系	陶	丸碗	-	5.6	*3.0		灰釉	80
81	SK178	VIIIG16e	美濃	陶	丸皿	10.8	7	1.9	5	志野	81
82	SK178	VIIIG16e	美濃	陶	丸皿	11.1	6.8	1.8	11	志野	82
83	SK178	VIIIG16d	美濃	陶	丸皿	10.4	5.2	2.7	8	灰釉	83
84	SK178	VIIIG16d.e	美濃	陶	灯明皿	10.4	3.8	2.2	5	錆釉	84
85	SK178	VIIIG16d		土師	皿	11.4	-	1.7	6		85
86	SK178	VIIIG16e		土師	皿	11	-	1.6	12		86
87	SK178	VIIIG16d		土師	皿	10.2	-	2.1	12		87
88	SK178	VIIIG16e		土師	皿	12.2	-	2.2	12		88
89	SK178	VIIIG16e		土師	皿	12.4	-	2.4	12		89
90	SK178	VIIIG16e		土師	皿	9.9	-	2.4	12		90
91	SK178	VIIIG16d.e		土師	皿	9.9	-	2.4	12		91
92	SK178	VIIIG16d		土師	皿	10.4	-	2.5	12		92
93	SK178	VIIIG16e		土師	皿	9.8	-	2.5	12		93
94	SK178	VIIIG16e		土師	皿	10.2	-	2.7	12		94
95	SK178	VIIIG16e		土師	皿	9.4	-	2.4	12		95
96	SK178	VIIIG16d.e		土師	皿	10.6	-	2.4	12		96
97	SK178	VIIIG16e		土師	皿	9.6	-	2.4	12		97
98	SK178	VIIIG16d.e		土師	皿	9.8	-	2.3	8		98
99	SK178	VIIIG16e		土師	皿	10	-	2.4	12		99
100	検出0			土師	皿	10.4	-	2.5	12		100
101	SK178	VIIIG16e		土師	皿	9.6	-	2.6	12		101
102	SK178	VIIIG16e		土師	皿	9.5	-	2.7	12		102
103	SK178	VIIIG16e		土師	皿	9.5	-	2.3	12		103
104	SK178	VIIIG16d.e		土師	皿	9.5	-	2.4	12		104
105	SK178	VIIIG16d		土師	皿	6.8	-	1.3	6		105
106	SK178	VIIIG16d		土師	内耳鍋	26.4	-	*10.5	4		106
107	SK178	VIIIG16d		土師	内耳鍋	26	-	*9.3	5		107
108	SK178	VIIIG16d		土	焼塩壺	*6.8	*5.4	*8.4	2		108
109	SK178	VIIIG16d	肥前系	陶	香炉	13.6	8	7.7	7	灰釉・呉須	109
110	SK178	VIIIG16d	瀬戸	陶	香炉	10.4	7.8	7.8	3	灰釉・呉須	110
111	SK178	VIIIG16d.e	瀬戸	陶	鉢	15.5	-	*8.9	3	灰釉	111
112	SK178	VIIIG16d.e	肥前系	磁	鉢	-	6	*4.5		呉須	112
113	SK178	VIIIG16d.e	常滑	陶	甕	53.4	-	*10.3	3		113
114	SK178	VIIIG16e	常滑	陶	甕	52	-	*28.1	5		114
115	SK178	VIIIG16d	常滑	陶	甕	-	10.2	*8.8			115
116	SK178	VIIIG16e	瀬戸	陶	壺	7.6	8.2	11.8	11	鉄釉	116
117	SK178	VIIIG16d	肥前系	陶	鉢	22.8	10	9.1	8		117
118	SK178	VIIIG16d	肥前系	磁	水盤	*20.8	13.6	4.9	6	青磁	118
119	SK178	VIIIG16d	肥前	陶	大皿	37	13	9.1	7		119
120	SK178	VIIIG16d.e	瀬戸	陶	播鉢	34.6	-	*8	4	錆釉	120
121	SK178	VIIIG16d		陶	播鉢	34	-	*10	3		121
122	SK178	VIIIG16d.e	瀬戸	陶	播鉢	33.8	-	*9.3	4	錆釉	122
123	SK178	VIIIG16d	瀬戸	陶	播鉢	33	-	*11.5	2	錆釉	123
124	SK178	VIIIG16d.e	瀬戸	陶	播鉢	30.5	10.9	13.9	10	錆釉	124
125	SX01	VIIIG16c	常滑	陶	甕	34	-	*29.7			125
126	SX03	VIIIF15t	肥前系	磁	碗	8.4	-	*3.8	2	呉須	126
127	SX01	VIIIG16c	瀬戸	陶	浅鉢	10.8	-	*4.0	4	灰釉	127
128	SX01	VIIIG16c	瀬戸	磁	小碗	-	3	*4.0	-	呉須	128
129	SX01	VIIIG16c		磁	小杯	6.2	2.4	2.8	11		129
130	SX02	VIIIF15t	常滑	陶	甕	-	9.4	*8.5			130
131	SX02	VIIIF15t	常滑	陶	甕	-	9.5	*11.7			131
132	検出 I	VIIIG16b	肥前	磁	碗	10.2	4	5.1	5	呉須	132
133	攪乱	VIIIG14d	有田	磁	碗	10.2	3.5	5	1	呉須	133
134	検出 II	VIIIF14t	肥前	磁	碗	9.6	3.6	5.4	4	呉須	134
135	攪乱	VIIIG15c	肥前	磁	碗	9.5	-	*4.4	3	呉須	135
136	攪乱	VIIIG14d	肥前	磁	碗	8.8	3.6	5.3	2		136
137	検出 I	VIIIG16c	関西系	磁	碗	6.8	3.2	4.7	5	呉須	137
138	検出 I	VIIIG16c	?	磁	碗	6.8	2.8	4.7	4	呉須	138
139	検出 I	VIIIG15b	関西系	磁	碗	8.2	3.2	4.3	5	呉須	139
140	SD07	VIIIG16c	関西系	磁	碗						140
141	SD07	VIIIG16c	瀬戸	磁	碗						141

図版番号	遺構番号	グリッド	産地	材質	器種	口径	底径	器高	残存/12	釉薬	E-
142	検出 I	VII G14d	肥前	磁	小杯? 椀?	5.2	2.4	2.1	5	呉須	142
143	トレンチ3	VII F14s	不明	陶	椀	14.8	5.4	5.7	8	灰釉・鉄釉	143
144	検出 I	VII G14.15c	瀬戸	陶	丸椀	11.8	4.4	7.3	8	灰釉	144
145	SK137	VII G12c		陶	丸椀	7.6	2.6	6	4	灰釉・呉須?	145
146	検出 I	VII G13c	不明	陶	丸椀	7.8	3.6	6.3	3	灰釉	146
147	攪乱	VII G15a	不明	陶	椀	8.6	3.4	5.1	1	灰釉	147
148	SK137	VII G12c	瀬戸	陶	椀	10.2	-	*5.1	2	灰釉	148
149	トレンチ3	VII G14r	瀬戸	陶	筒型椀	9.4	3.8	4.9	6	灰釉・呉須	149
150	検出 I	VII F12S	瀬戸	陶	椀	8.8	3.8	4.9	6	灰釉/鉄釉?	150
151	検出 I	VII G16c	肥前?	磁	皿	-	10.4	*2.5		呉須	151
152	土管	VII F14t	瀬戸	陶	皿	10.4	4	4	2	灰釉/鉄釉?	152
153	攪乱	VII G14d	美濃	陶	灯さん	7.6	3.8	1.9	6	錆釉	153
154	SK169	VII G16d	瀬戸	陶	皿	11.2	6.4	1.8	10	志野	154
155	トレンチ3	VII G14r	美濃	陶	灯明皿	10.8	6	1.8	3	錆釉	155
156	検出 II	VII F13r	瀬戸	陶	灯明皿	9.8	4.2	1.9	4	錆釉	156
157	SD07	VII G16c	瀬戸	陶	皿	10	4.3	*2.2	11	灰釉	157
158	攪乱	VII G14d	肥前	磁	合子蓋	6	-	1.9	3	呉須	158
159	検出 II	VII F13r	瀬戸	陶	蓋	7.4	5	1.1	5	灰釉	159
160	検出 I	VII G16c	肥前	磁	仏飯具	7.6	-	*3.2	4	呉須	160
161	SK133	VII G14c	美濃	陶	たんころ	5.6	4.8	5.6	11	鉄釉	161
162	SK85	VII F15t	瀬戸	陶	水滴	6.7	4.2	4.4	12	灰釉	162
163	検出 I	VII G16c	肥前	磁	瓶	1.4	-	*12.0	12	呉須	163
164	土管	VII G14a	瀬戸	磁	瓶	1.8	-	*6.4	12	呉須	164
165	検出 I	VII F13s	美濃	陶	双耳壺	8.9	6	9.3	7	灰釉	165
166	検出 I	VII G16c	瀬戸	陶	水盤	27.6	14	6.2	6	灰釉	166
167	SK85	VII E15t	瀬戸	陶	双耳鍋?	16.6	-	*7.0	10	鉄釉	167
168	トレンチ3	VII G14p		土	皿	7.5	4.4	1.2	12		168
169	SK135	VII G15e		土	皿	7.1	3.5	1.9	12		169
170	検出 II	VII F14s		土	皿	6.9	-	2.5	12		170
171	検出 I	VII F12s		土	皿	9.2	-	2.1	4		171
172	SK188	VII G16c		土	皿	11	-	2.6	8		172
173	検出 I	VII G15a		土	焼塩壺・蓋	6.9		1.4	3		173
174	SK211	VII G16d		土	焼塩壺・蓋	6.8		1.3	4		174
175	検出 I	VII G13a		土	焼塩壺・蓋	7.8	7.4	2.1	3		175
176	トレンチ2	VII F12r		土	焼塩壺・身	6.5	*5.6	8.1	4		176
177	検出 I	VII F15t		土	焼塩壺・身	6.2	-	*5.4	2		177
178	SK205	VII G15d		土	土錘						178
179	SK205	VII G15d		土	土錘						179
180	検出 I	VII G16d		陶	丸瓦(瓦当)						180
181	検出 II	VII F13r		陶	棧瓦瓦当						181
182	攪乱	VII G15c		陶	丸瓦(瓦当)						182
183	土管				瓦						183
184	検出 I	VII G16d.e			丸瓦						184
185	検出 I	VII G16d.e		陶	棧瓦瓦当						185
186	検出 I	VII G16d.e		陶	棧瓦瓦当						186
①	伐根2		瀬戸	磁	椀	9.1	4	4.9	4	呉須	187
②	伐根2		肥前	磁	椀	11.6	-	*4.5	2	呉須	188
③	伐根2		肥前	磁	椀	10.8	-	*3.21	4	呉須	189
④	伐根2		肥前	磁	椀	-	5.8	*4.1		呉須	190
⑤	伐根2		瀬戸	磁	椀	7	3.2	3.7	2	呉須	191
⑥	伐根2		肥前	磁	蓋	9.8	5.8	3.5	5	呉須	192
⑦	伐根2		常滑?	陶	蓋	14.8	-	4.9	6		193
⑧	伐根2		瀬戸	陶	鉢	-	6.4	*3.3		呉須	194
⑨	伐根2		美濃	陶	灯明皿	9.8	4.2	2.1	11	鉄釉	195
⑩	伐根2		瀬戸	陶	壺	23	-	*10.3	1	灰釉・緑釉	196
⑪	伐根2		瀬戸	陶	水盤	37	17.2	9.4	3	灰釉	197
⑫	伐根2		瀬戸	陶	捏ね鉢	-	-	-		灰釉	198
⑬	伐根2		瀬戸	陶	鉢	13.4	-	*5.1	2	灰釉	199

図版番号	遺構番号	グリッド	産地	材質	器種	備考	E-
1	検出 II	VII F12r	-	石	砥石	頁岩	S-1
2	検出 I	VII F13r	-	石	砥石	凝灰質泥岩	S-2
3	検出 I	VII F14s	-	石	砥石	泥質凝灰岩	S-3
4	検出 II	VII F12r	-	石	砥石	泥質凝灰岩	S-4
5	SK169	VII G16d	-	石	砥石	凝灰質泥岩	S-5
6	検出 II	VII F12r	-	石	砥石	凝灰質泥岩	S-6
7	SD05	VII G15a	-	石	火打ち石	チャート	S-7
1	検出 I	VII G13d		銭		寛永通寶	M-1
2	検出 I	VII F15s		銭		寛永通寶	M-2
3	検出 I	VII F15s		銭		寛永通寶	M-3
4	攪乱	VII G15d		銭		皇宗通寶	M-4

# SK178 カウント分析表

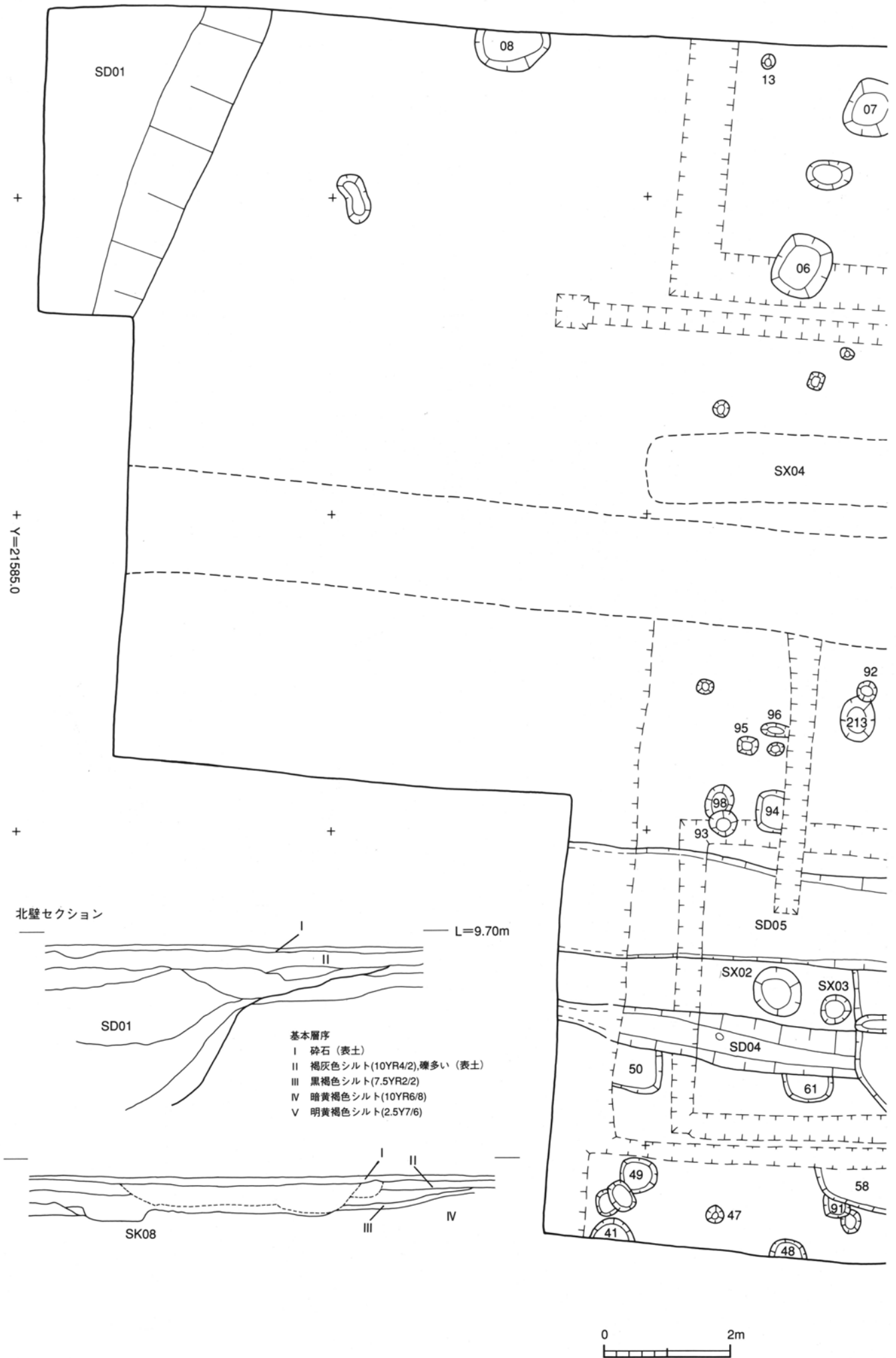
産地	器種	器形	残存率合計
産地不明磁器	椀	丸椀	4
		小型椀	4
椀計			8
産地不明磁器計			8
産地不明陶器	鉢	平鉢	1
		鉢計	1
産地不明陶器計			1
常滑産製品	甕	(空白)	9
		甕計	9
常滑産製品計			9
瀬戸・美濃産磁器	椀	丸椀	9
		椀計	9
瀬戸・美濃産磁器計			9
瀬戸・美濃産陶器	皿	丸皿	22
		腰折皿	8
		無高台皿	12
	皿計		42
	鉢	丸鉢	3
		筒形鉢	3
		播鉢	26
	鉢計		32
	椀	丸椀	16
		腰折椀	1
		小椀	3
		天目茶椀	9
不明		1	
椀計		30	
壺・瓶	肩壺	15	
	小型徳利	12	
壺・瓶計		27	
瀬戸・美濃産陶器計			131
土器	鍋・釜	鍋	9
		鍋・釜計	9
	皿	ロクロ	26
		非ロクロ	302
	皿計		328
焼塩壺	壺	2	
焼塩壺計		2	
土器計			339
肥前産磁器	皿	その他	1
		丸皿	1
	皿計		2
	鉢	その他	6
		鉢計	6
	椀	丸椀	12
腰折椀		3	
小型椀		10	
椀計		25	
肥前産磁器計			33
肥前産陶器	鉢	丸鉢	8
		大型皿	7
		筒形鉢	7
	鉢計		22
椀	丸椀	6	
椀計		6	
肥前産陶器計			28
総計			558

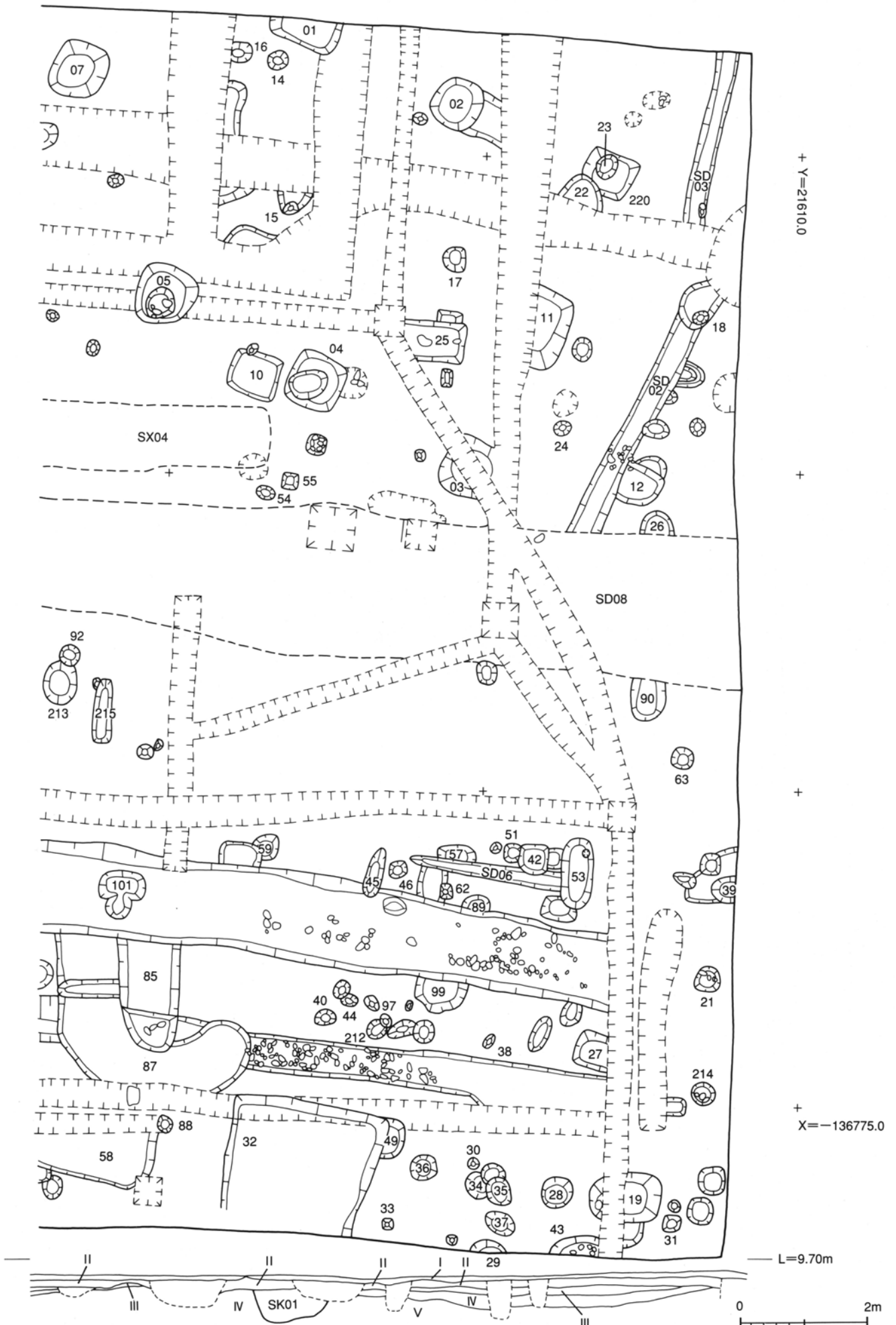


器種別 産地・材質組成グラフ (残存率)



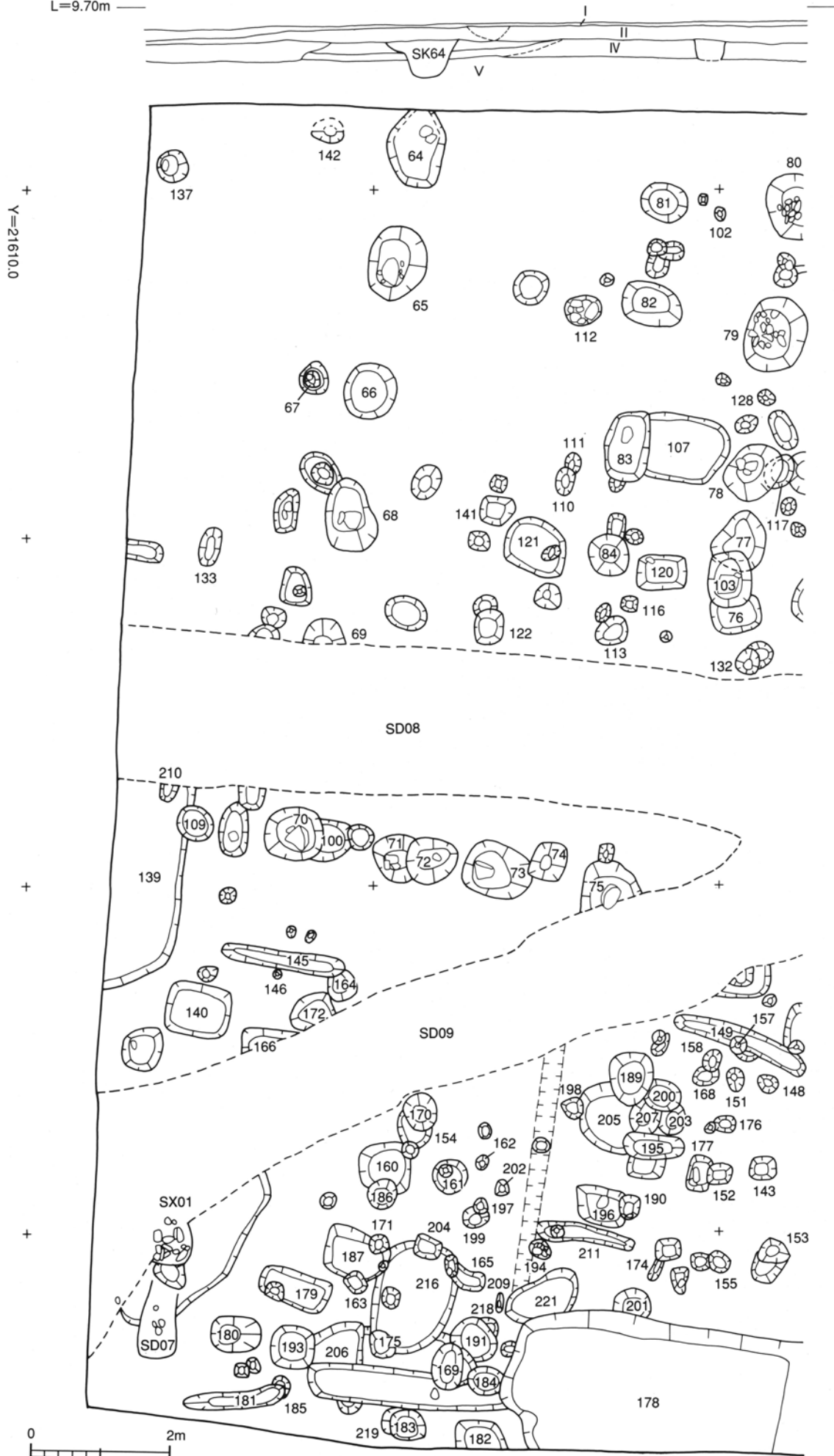
基本遺構図 (1)



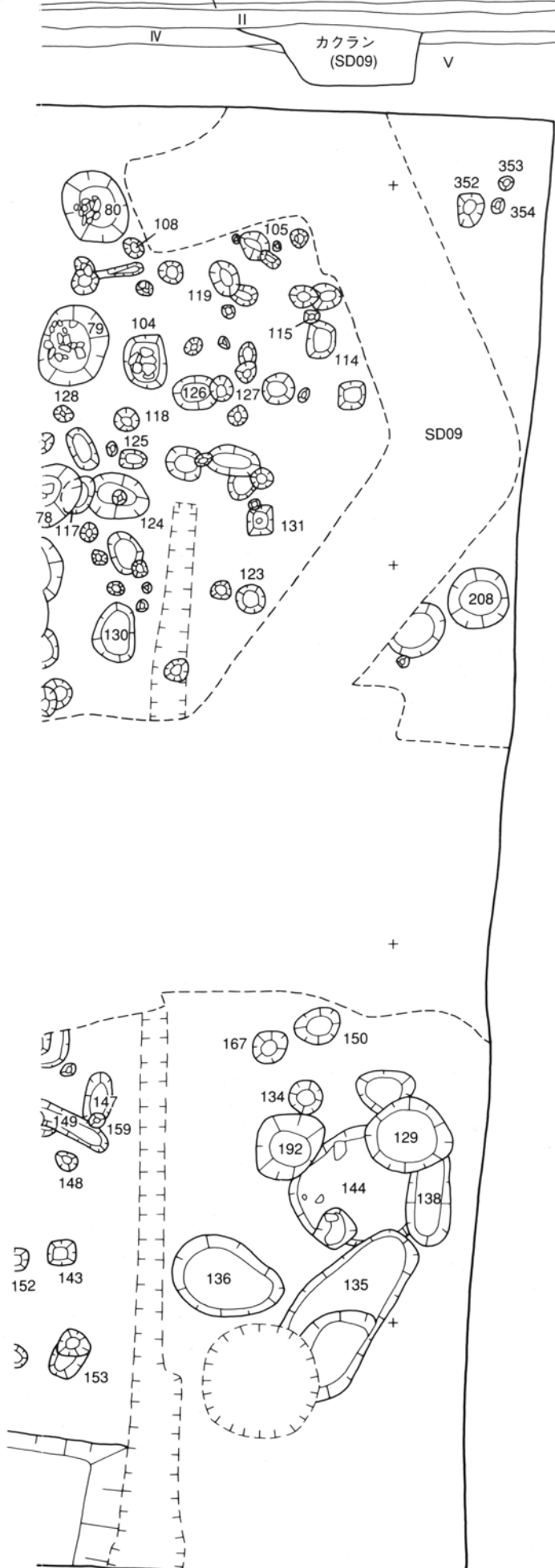


基本遺構図 (3)

L=9.70m



— L=9.70m



基本層序

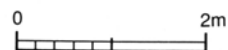
- I 砕石 (表土)
- II 褐灰色シルト(10YR4/2),礫多い (表土)
- III 黒褐色シルト(7.5YR2/2)
- IV 暗黄褐色シルト(10YR6/8)
- V 明黄褐色シルト(2.5Y7/6)

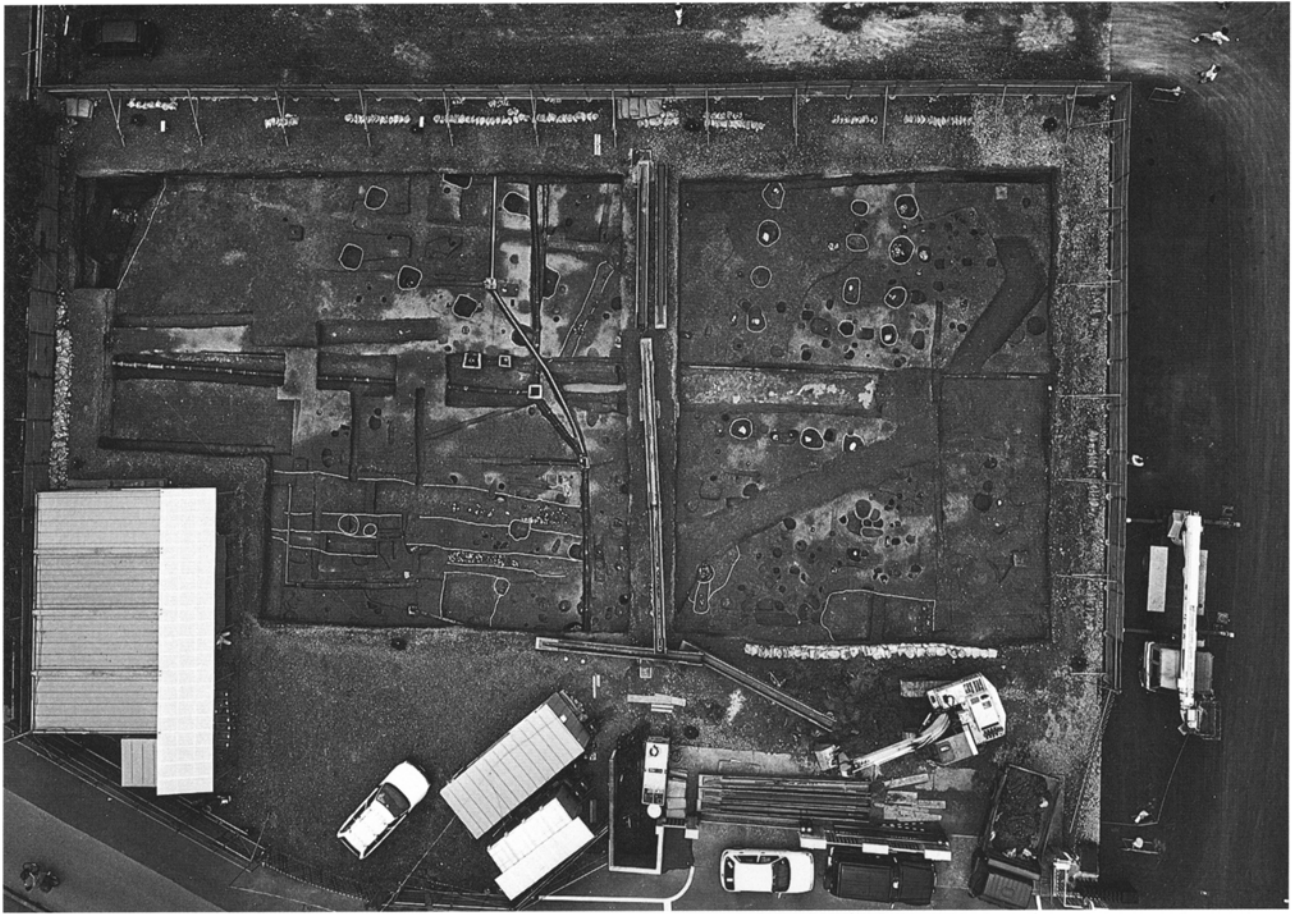
+  
X=-136760.0

+  
X=-136765.0

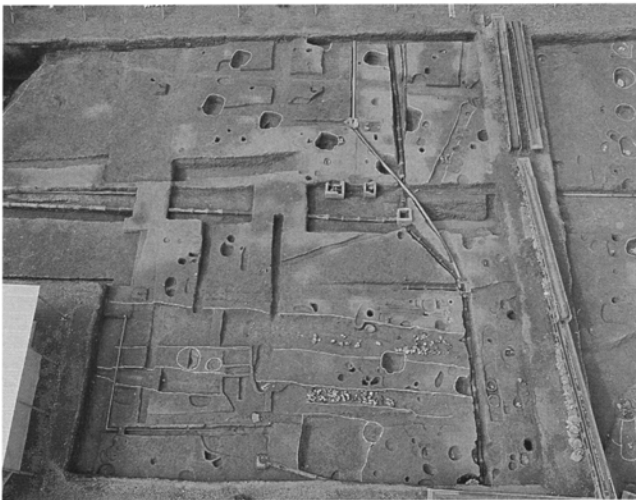
+  
X=-136770.0

+  
X=-136775.0





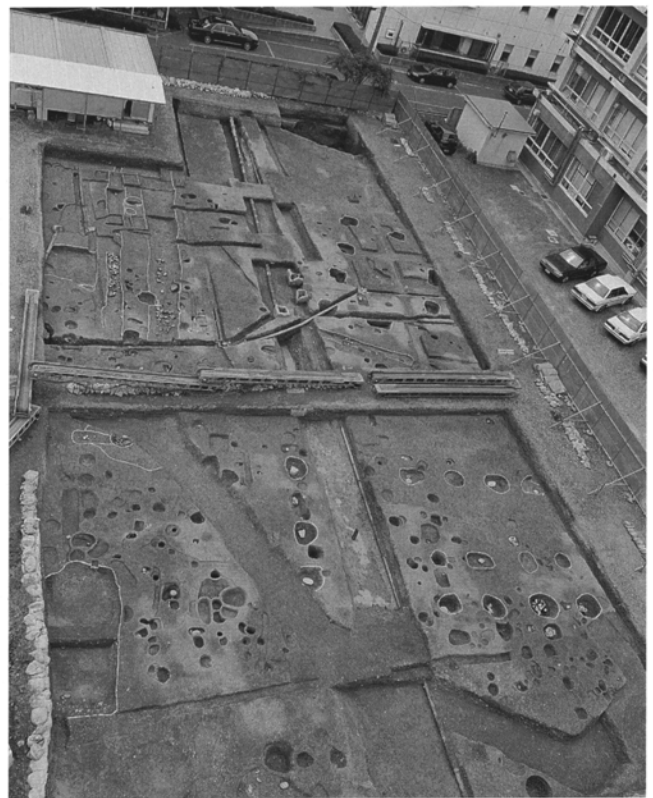
調査区全景（空撮写真）



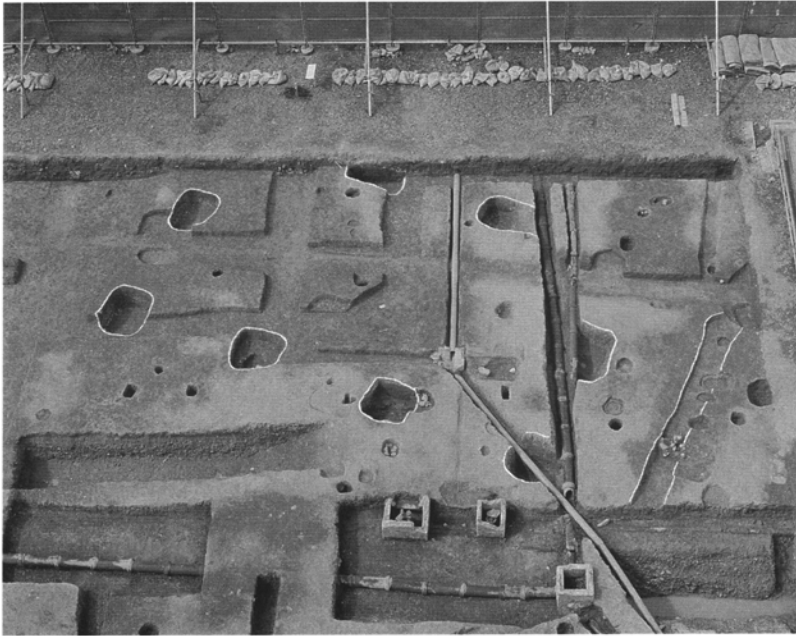
調査区西半全景（南から）



調査区東半全景（南西から）



調査区全景（東から）



SB01 (南から)



SK22遺物出土状況 (西から)



SD02遺物出土状況 (東から)



SD01 (南から)



SD05遺物出土状況 (南東から)

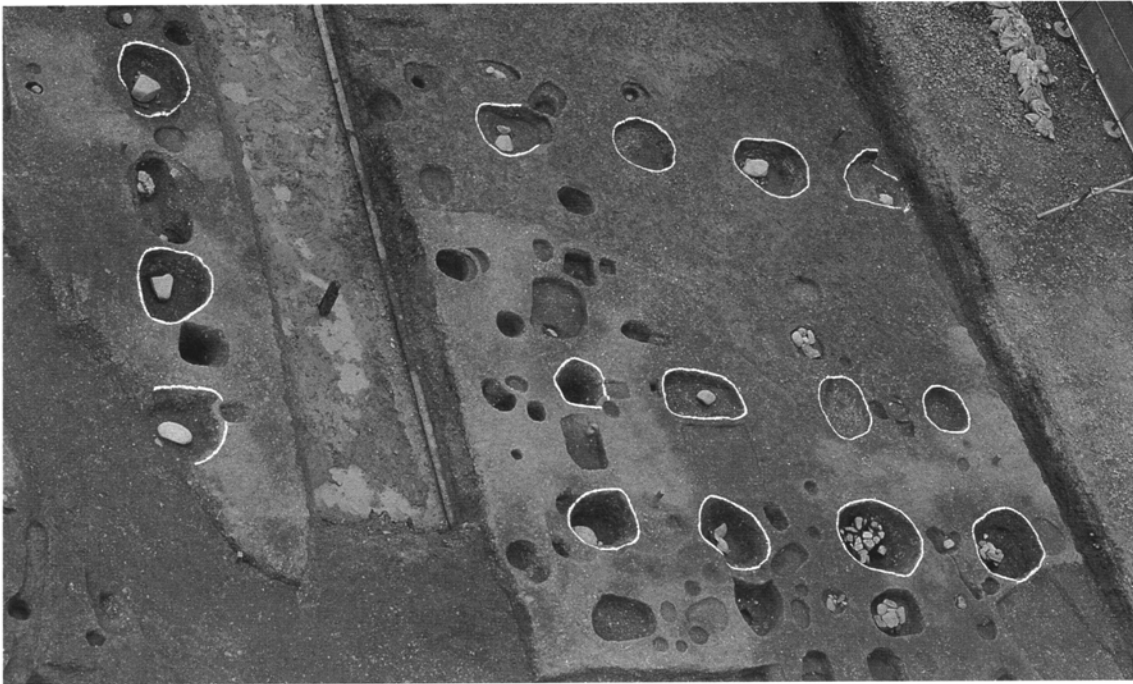


SD04・05 (南東から)



SD04遺物出土状況 (北から)

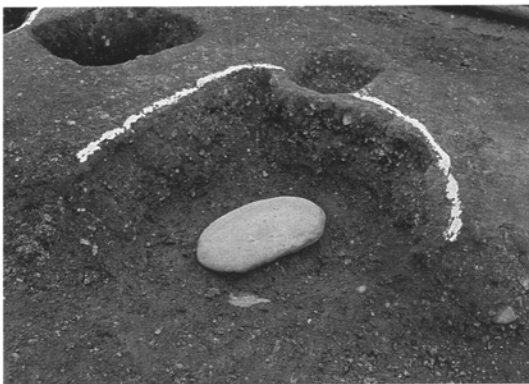




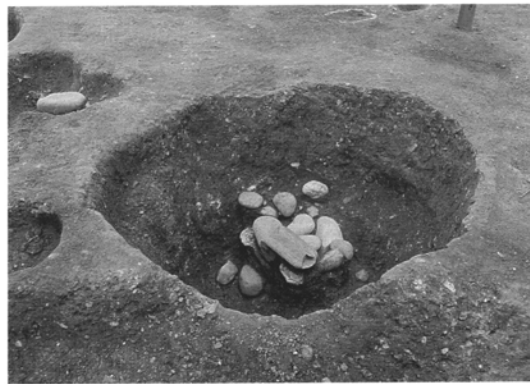
SB02 (東から)



左 SK65 (東から)  
右 SK70 (西から)



左 SK75 (南東から)  
右 SK79 (東から)



左 SK83 (北東から)  
右 SK80 (東から)



SK178 (北東から)



SK32 (北東から)



SX01 (北から)

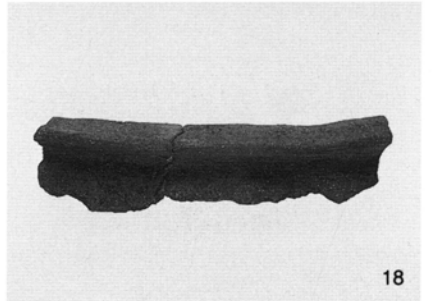
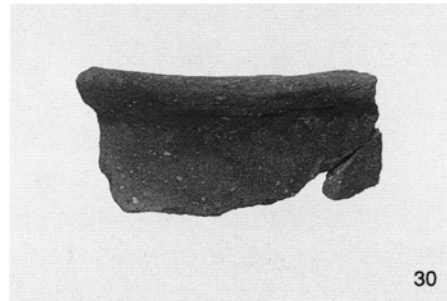
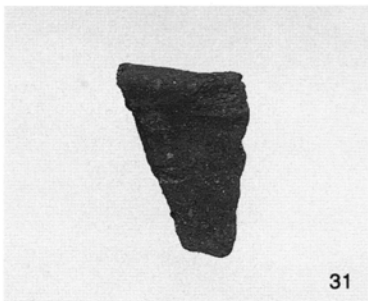
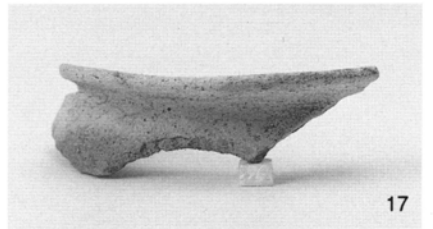
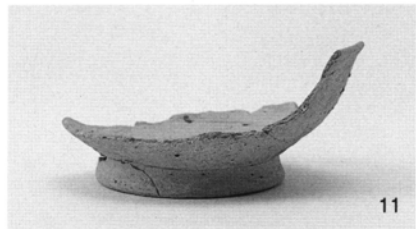
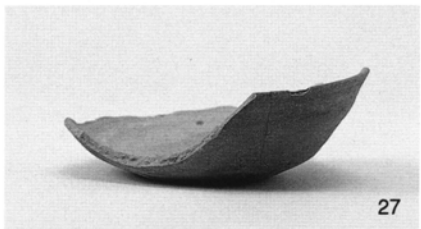
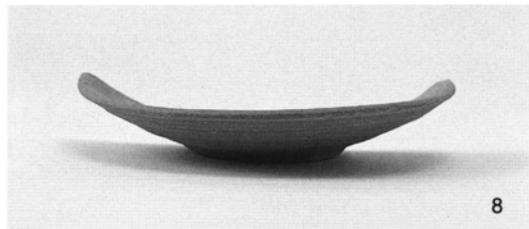
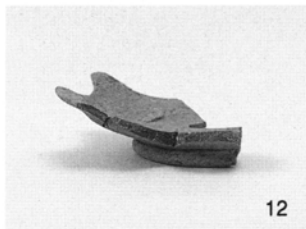
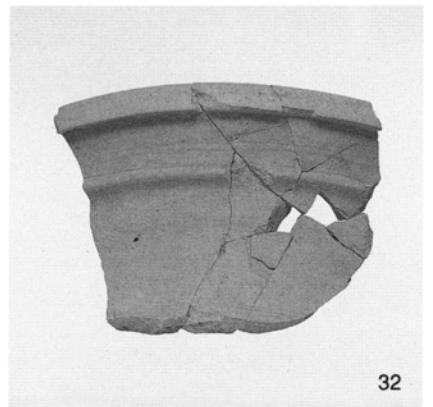
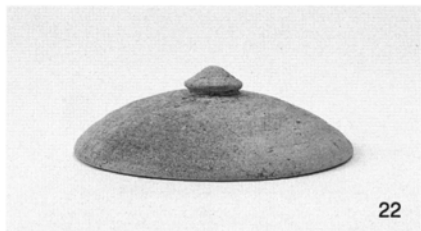
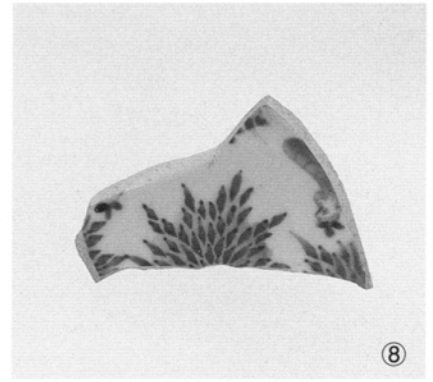
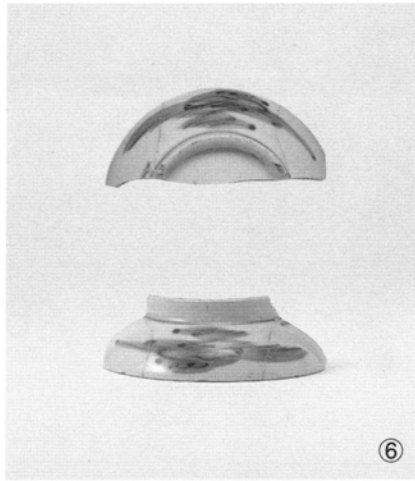
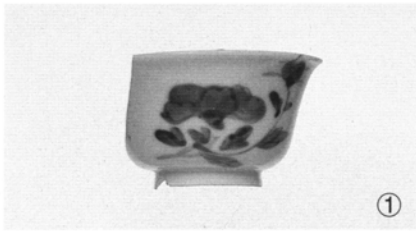


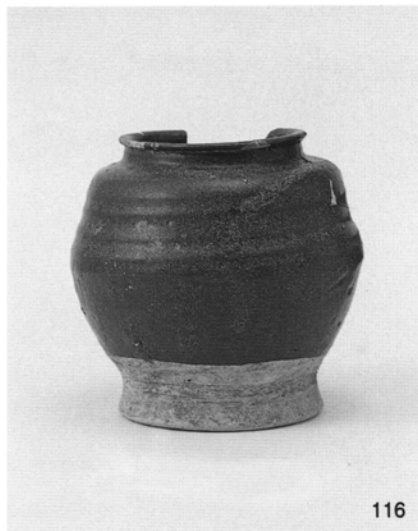
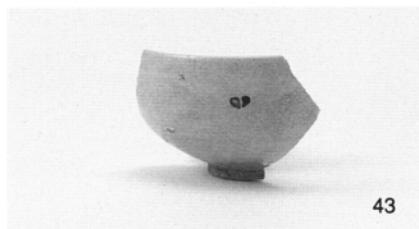
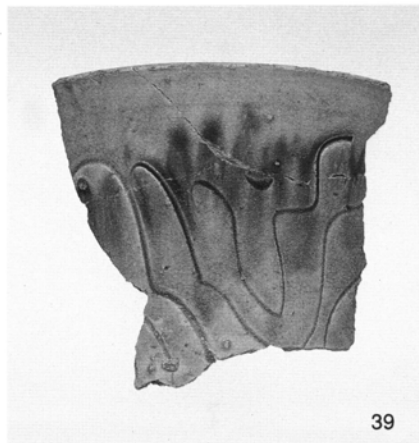
SD08 (東から)

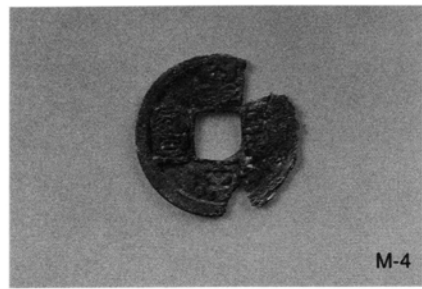
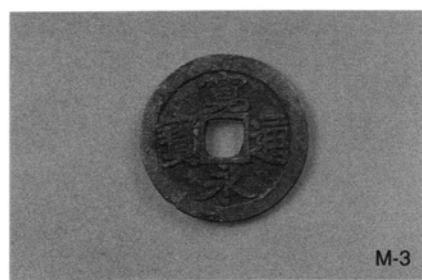
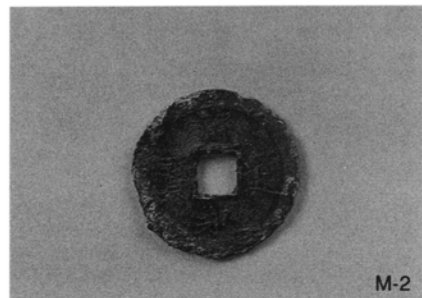
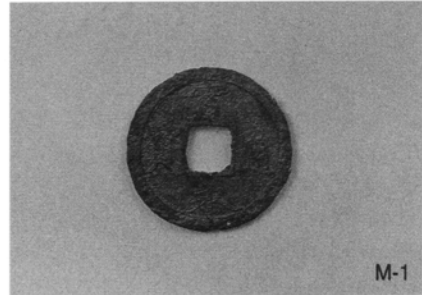
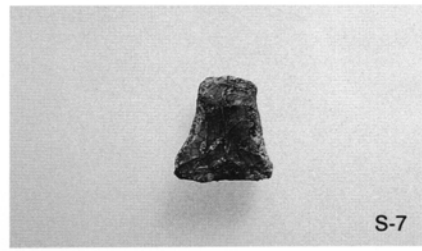
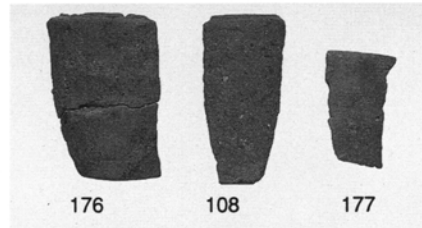
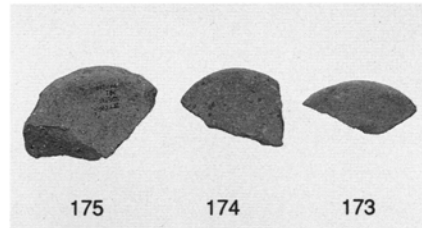
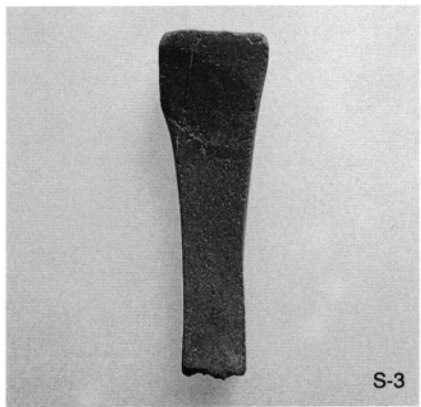
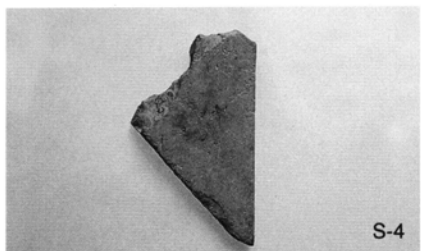
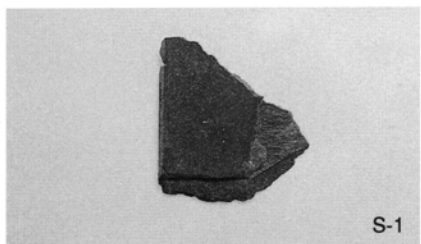
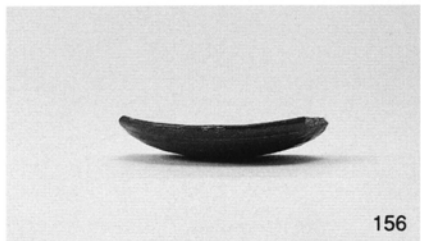
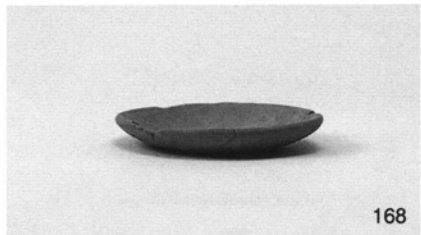
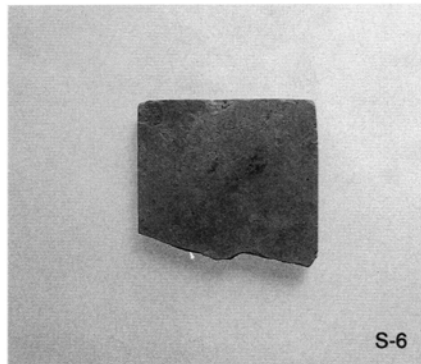
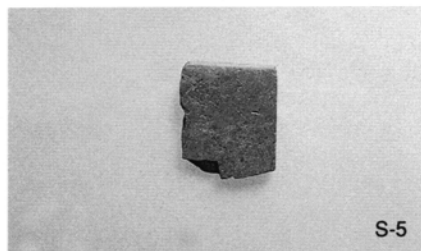


SX04 (西から)

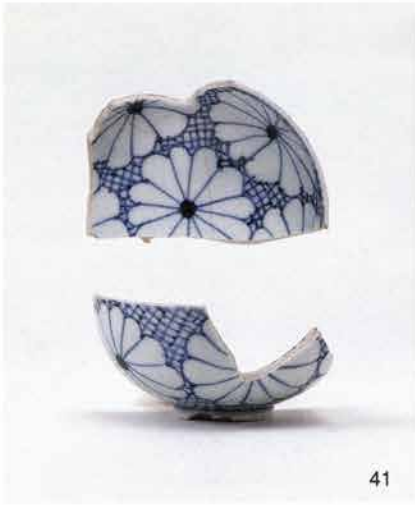












41



57



62



47



63



61



49



60



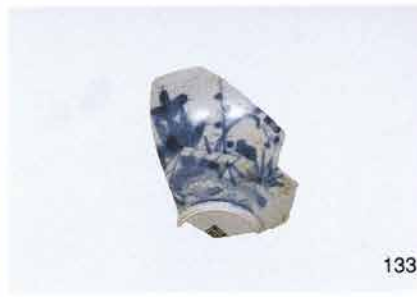
68

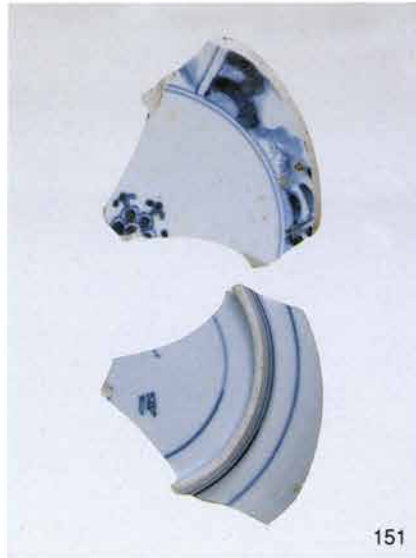


78

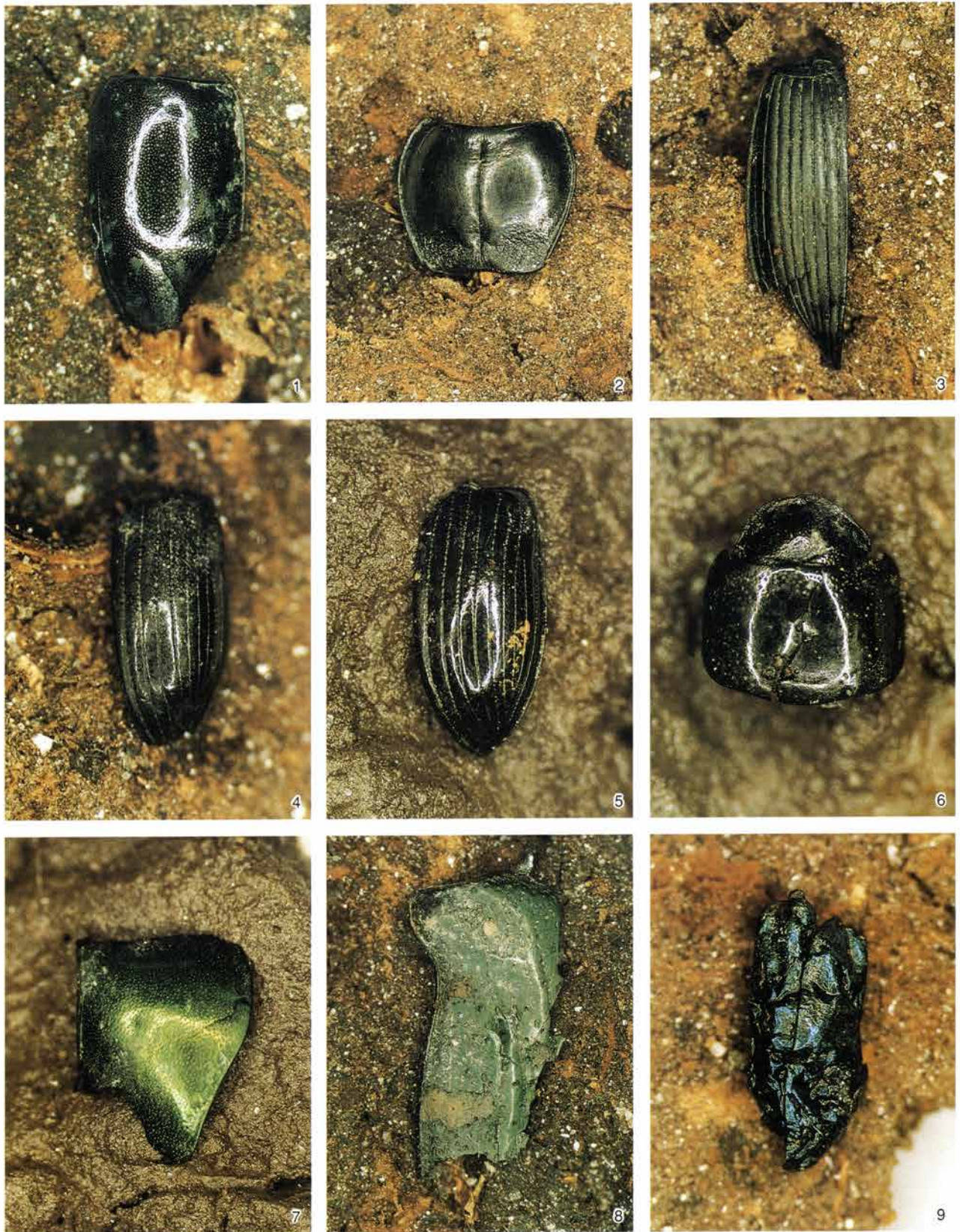


73









図版1. 吉田城遺跡から産出した昆虫化石の顕微鏡写真

- |   |   |
|---|---|
| 1. セマルガムシ <i>Coelostoma orbiculare</i> (Fabricius)<br>右上翅 長さ3.8mm (S-3; 標本32) | 6. マグソコガネ属 <i>Aphodius</i> sp.<br>前胸背板および頭部 長さ1.8mm (S-3; 標本17)             |
| 2. ナガゴミムシ属 <i>Pterostichus</i> sp.<br>前胸背板 幅4.3mm (S-2; 標本113)                | 7. ヒメコガネ <i>Anomala rufocuprea</i> Motschulsky<br>前胸背板片 長さ5.1mm (S-1; 標本31) |
| 3. アオゴミムシ属 <i>Chlaenius</i> sp.<br>左上翅 長さ7.2mm (S-1; 標本46)                    | 8. コアオハナムグリ <i>Oxycetonia jucunda</i> Faldermann<br>左上翅 長さ5.1mm (S-2; 標本28) |
| 4. マグソコガネ <i>Aphodius rectus</i> Motschulsky<br>右上翅 長さ4.1mm (S-1; 標本93)       | 9. クワハムシ <i>Fleutiauxia armata</i> Baly<br>左右上翅 長さ5.2mm (S-1; 標本102)        |
| 5. マグソコガネ <i>Aphodius rectus</i> Motschulsky<br>右上翅 長さ3.8mm (S-2; 標本58)       |   |



## 報告書抄録

ふりがな	よしだじょう
書名	吉田城遺跡Ⅲ
副書名	
巻次	
シリーズ名	愛知県埋蔵文化財センター調査報告書
シリーズ番号	第78集
編著者名	武部真木 森 勇一 原田 幹
編集機関	財団法人愛知県埋蔵文化財センター
所在地	〒498-0017 愛知県海部郡弥富町大字前ヶ須新田字野方802-24
発行年月日	西暦 1998年8月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 ...	東経 ...	調査期間	調査面積m <sup>2</sup>	調査原因
		市町村	遺跡番号					
よしだじょう 吉田城遺跡	とほししいまばしちょう 豊橋市今橋町 六丁目	23201	79393	34 度 46 分 00 秒	137 度 24 分 10 秒	199604～ 199607	800m <sup>2</sup>	豊橋土木事 務所新庁舎 建築に伴う 事前調査

所収遺跡名	種別	主な 時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
吉田城遺跡	集落	奈良・ 平安	掘立柱建物	須恵器・土師器	
	屋敷地	江戸 時代	溝・掘立柱建物	近世陶磁器類・瓦	外堀



愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第78集

## 吉田城遺跡Ⅲ

1998年8月31日

編集・発行 財団法人 愛知県埋蔵文化財センター  
印刷 西濃印刷株式会社